

VirtualReScan 4.2
ユーザーズ ガイド



10300739-000 Revision A

© 2008 Kofax Image Products, Inc., 16245 Laguna Canyon Road, Irvine, California 92618, U.S.A. All rights reserved. 使用許諾契約に従って、ご利用ください。

サードパーティ ソフトウェアは著作権で保護されており、Kofax のサプライヤーより使用が許諾されています。

本製品は、米国特許 No. 6,370,277 により保護されています。

本製品には KOFAX IMAGE PRODUCTS, INC. の機密情報が含まれています。KOFAX IMAGE PRODUCTS, INC. から書面による事前の許可を得た場合を除き、本製品の使用、開示、複製は禁じられています。

Kofax Image Products、Kofax、Kofax ロゴ、VirtualReScan、VRS VirtualReScan ロゴ、および VRS は、アメリカ合衆国およびその他の国における Kofax Image Products, Inc. の商標または登録商標です。その他の製品名、ロゴは各所有者の商標または登録商標です。

政府による使用は、Kofax Image Products, Inc. の標準の使用許諾契約および FAR 規定に従うものとします。

お客様は、適用される米国輸出管理法およびその他の規則により輸出または伝達が制限されている国へ、米国商務省輸出管理局、または管轄権のあるその他の政府機関から書面により事前に必要な許可を得ずに、直接的または間接的に、本ソフトウェア、関連ドキュメント、および技術データを輸出または伝達しないことに同意されたものとします。また、お客様は、そのような国に所在していないこと、国民または居住者ではないこと、管理下にないことを表明および保証するものとします。

本ドキュメントは " 現状のまま " 提供されます。商品性についての保証、権利を侵害していないという合法性保証、特定目的適合性についての保証を含む、すべての明示および黙示の条件、表現、および保証について、法的に無効と見なされる場合を除き、その責任を負わないものとします。

目次

このガイドの使い方 ix

関連ドキュメント ix

トレーニング x

Kofax テクニカル サポート x

1 概要 1

VRS イメージ処理ワークフロー 2

基本機能 2

VRS プロフェッショナル機能 4

動作保証されたスキャニング アプリケーション 4

動作保証されたスキャナとそれ以外 のスキャナ 4

2 VRS の操作 7

VRS スキャン ソースの選択 7

SVRS および HVRS スキャン ソース 7

Kofax VRS スキャニング インターフェイス 10

Kofax VRS ImageControls インターフェイス 10

Kofax VRS ISIS インターフェイス 13

Kofax VRS TWAIN インターフェイス 15

スキャン前の VRS 設定 18

VirtualReScan 管理ユーティリティの使用 19

[警告] タブ 21

[エラー] タブ 23

[高速スキャニング] タブ 25

[VirtualReScan 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックスの更新 27

VRS 操作モードの設定 29

エラー時 29

最初のページ 29
各ページ 29
後で KC の品質管理で行う (Kofax Capture ユーザーのみ) 29
無効 30
ハードウェア警告 30
プロファイルの使用 30
プロファイルの作成 31
アクティブなプロファイルの変更 34
プロファイルの更新 35
プロファイルの削除 35
イメージのプレビュー 36
ステータス情報と分析情報の使用 37

VRS インタラクティブ ビューアの使用 39
スクロール バー 42
ビューアの管理 42
フォーカス 42
最小化 / 最大化 / 閉じる 42
ボタン コントロール 42
OK 42
キャンセル 43
リセット 43

VRS インタラクティブ ビューアのメニュー バー 43
[ズーム] メニュー 44
[プロファイル] メニュー 45
[名前を付けて保存] 45
[保存] 45
[編集] 45
[ツール] メニュー 45
[スキャナ ドライバの設定] 46
[プロフェッショナル機能デモを有効にする] 46
[ヘルプ] メニュー 46
[VRS ヘルプ] 46
[ユーザーズ ガイド] 46
[バージョン情報] 46

VRS インタラクティブ ビューアのツールバー 47
スタンダード ツールバー 47
[ズーム] ツール 47
[スキャナ ドライバの設定] ツール 48
[プロファイルの選択] リスト 48
ズーム ツールバー 48

VRS 調整コントロールの使用 49

[鮮明度] パネルの使用 50
明るさとコントラスト 51
手動のイメージ調整 51
鮮明度の詳細設定 (VRS プロフェッショナルのみ) 53
[ノイズ] パネルの使用 56
ドキュメントからノイズを除去する 57
[パンチ穴を埋める] 57
[傾き] パネルの使用 58
[傾き補正] オプション 59
[自動クロップ] と [エッジ クリーン] オプション 60
自動の向き 60
[色] パネルの使用 62
[背景] パネルの使用 64
[空白ページ] パネルの使用 66
ビューアでの空白ページの表示 69
プロフェッショナル機能デモ 70

詳細機能の使用 72

自動修正マネージャの使用 73

Kofax VRS プログラム フォルダ 74
VRS のアクティベーション 74
VRS のアクティベーション解除 75
VRS の登録 75
今すぐ購入 75
今すぐアップグレード 75
アップデートの確認 75
VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャ 75
スキャナ設定ユーティリティ 76
VCDemo 76
VRS クイック スタート ガイド 76

3 VRS デスクトップ プロダクティビティ機能 77

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション 78

Microsoft Outlook 2007 からのスキャン 79
高速スキャン 80
プレビューしてスキャン 81
設定 82

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP からのスキャン 84
高速スキャン 86
プレビューしてスキャン 86
プロファイルを使用してスキャン 88

設定 88

Lotus Notes からスキャン 91
高速スキャン 92
プレビューしてスキャン 92
設定 93
プロファイルを使用してスキャン 96

Windows デスクトップからのスキャン 96
高速スキャン 97
プレビューしてスキャン 97
設定 98
プロファイルを使用してスキャン 101

Windows エクスプローラからのスキャン 101
高速スキャン 102
プレビューしてスキャン 102
設定 103
プロファイルを使用してスキャン 105

VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル 106
標準の VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル設定 107
VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの作成 108
VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新 109
アクティブなデスクトップ プロダクティビティ プロファイルの変更 110
Windows デスクトップ 110
Windows エクスプローラ 110
Microsoft Outlook 2007 111
Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP 111
Lotus Notes 111
VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除 111

VRS サムネイル ビューア 112
VRS サムネイル ビューアのメニュー バー 113
[ファイル] メニュー 113
[編集] メニュー 114
[スキャン] メニュー 114
[ヘルプ] メニュー 114
VRS サムネイル ビューアのツールバー 115

VRS プロフェッショナル スキャン 116

ファイル名の形式 118
ファイル タイプ 118

A スキャナ設定ユーティリティ 119

スキャン ソースの設定 - クイック スタート 120
スキャン ソースの設定 - カスタム 122
[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックス 125
アイコン 125
スキャナ リストのフィルタ オプション 127
[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスのオプション 127
[ソースの設定] ダイアログ ボックスのオプション 129
VRS のデフォルト設定の復元 130
標準の VRS ソースの種類 131
VRS のデフォルト設定の復元 132
B 長い用紙のサポート 135
長い用紙のサポート 135
C ハイレベル バーコード エンジン (Enhanced Bar Code Engine) 137
標準バーコードと ハイレベル バーコード 137
バーコード エンジンの切り替え方法 139
[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスのアクセス 140
[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスの使用 140
[Recognition] グループ 140
[Interpret Bar Code] グループ 141
[Bar Size] グループ 141
[Search Direction] グループ 142
[Quality] グループ 142
[Checksum] グループ 143
D パッチ コード認識 145
[Patch Code Properties] ダイアログ ボックスの使用 146
E 詳細設定プロパティ 147
[エンドーサ] パネル 148
[テキスト定義] ダイアログ ボックス 149
プリフィックス 149
有効 152
桁 152
開始値 152
間隔 153
このダイアログ ボックスの他のオプション 153

[色合い] パネル 153
[四角形のピッキング] パネル 155
[回転] パネル 156
[バージョン] パネル 158

索引 159

このガイドの使い方

はじめに

「VRS ユーザーズ ガイド」は、VirtualReScan (VRS) の操作手順を説明します。イメージ処理のプロの方はもちろん、スキャニングに関して特別な知識のないユーザーでも、VRS の機能を上手に利用できるように、必要な情報を提供します。

このガイドは、「VRS インストール ガイド」に記載された手順に従って、VRS 製品のインストールとテストが正常に行われていることを前提に記述されています。

関連ドキュメント

VRS ユーザーズ マニュアルは、VRS ドキュメントの中の 1 つです。VRS 製品には、次の関連ドキュメントが含まれます。

VRS インストール ガイド

「VRS インストール ガイド」では、VRS のインストール手順と製品ライセンスのアクティベーション手順が説明されています。このガイドは、VRS アプリケーションのインストールと設定を行うシステム管理者を対象としています。また、Adrenaline SCSI スキャナ コントローラのセットアップについても説明します。

「VRS インストール ガイド」は PDF 形式ファイルで、VRS インストール CD から開くことができます。また、Kofax Web (www.kofax.com) の Support ページにある Online Documentation からも開くことができます。

VRS オンライン ヘルプ

VRS オンライン ヘルプは、アプリケーションに関するオンライン アシスタントを提供します。オンライン ヘルプは、VRS ユーザー インターフェイスから F1 キーを押すか、VRS サムネイル ビューアまたは VRS インタラクティブ ビューアの [ヘルプ] メニューから [VRS ヘルプ] を選択すると表示されます。

VRS リリース ノート

最新の製品情報は、VRS リリース ノートに掲載されています。リリース ノートは注意してお読みください。これには、他の VRS ドキュメントでは掲載されていない情報などが含まれている場合があります。

VRS リリース ノートは PDF 形式で、Kofax Web (www.kofax.com) の Support ページにある Online Documentation から開くことができます。

トレーニング

Kofax では、Kofax ソリューションを最大限活用できるように、トレーニングを提供しています。トレーニング オプションとスケジュールに関する詳細は、Kofax Web サイト（www.kofax.com）を参照してください。

Kofax テクニカル サポート

Kofax 製品に関する最新のテクニカル情報は、Kofax Web サイト (http://www.kofax.com) から Support ページを参照してください。このページでは、改訂履歴、オンライン ドキュメント やユーザーズ ガイド 、更新された製品のリリース ノート 、テクニカル ヒント 、豊富なナレッジベースなど、各製品に関する情報が提供されています。VRS FAQ は、VRS の Support ページに掲載されています。

また、Kofax Web サイトには Kofax 製品のサポート オプションに関する情報も掲載されています。利用可能なサポート オプションに関する詳細は、Web サイトを参照してください。

Kofax テクニカル サポートへのお問い合わせの際は、次の情報をご用意ください。

- VRS バージョンとビルド番号
- スキャニング アプリケーションまたは電子メール アプリケーションの名前
- オペレーティング システムとサービス パックのバージョン
- スキャナの製造元およびモデル
- SCSI スキャナ コントローラ
- 特殊なカスタム設定または総合情報

第 1 章

概要

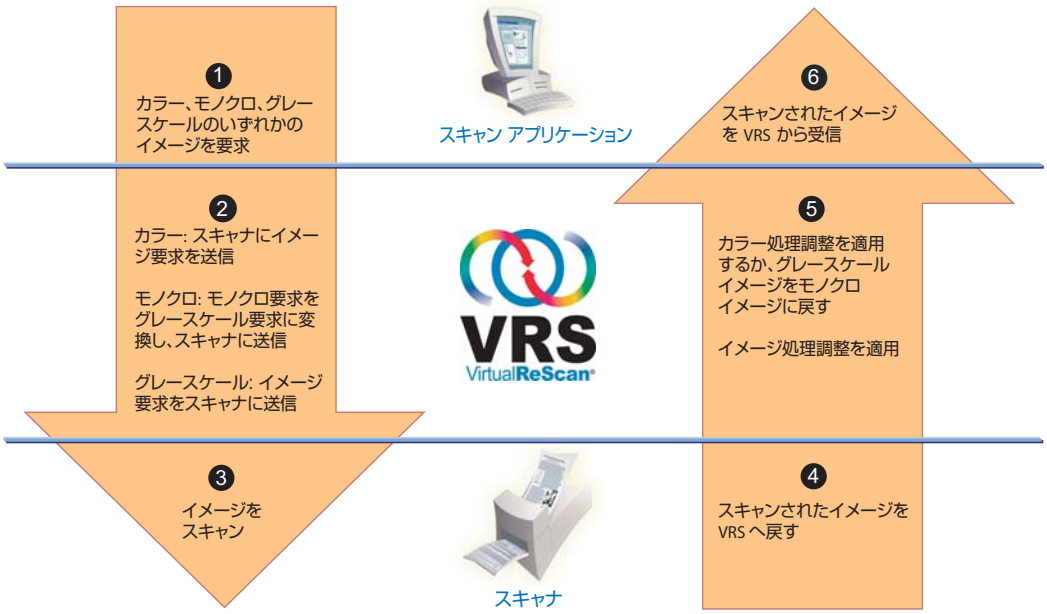
はじめに

VirtualReScan (VRS) は、あらゆるタイプの文書に対して最良のイメージ品質を提供することを目的とした画像処理ツールです。VRS は、誰でも簡単に使用できる、非常に効率的で多用途のイメージング ツールで、スキャニング アプリケーションと併用することができます。VRS のインタラクティブ コントロールを利用することにより、高い処理能力でイメージを簡単に処理できます。VRS は、次の 3 つの方法でご利用いただけます。

1. **デフォルト設定** − VRS のデフォルト設定を使用することで、ドキュメントを簡単にスキャンし、正確にデータをキャプチャできます。これらのデフォルト設定は、調整することなく幅広いドキュメントにおいて最良のイメージ品質が得られるように設定されています。
2. **自動画像処理** − VRS はイメージを監視して、低画質のイメージを検出し、自動画像処理を行います。これにより、画質エラーおよび認識エラーが大幅に減少します。
3. **手動画像処理** − VRS は、手動でイメージを修正するためのインタラクティブ コントロールを提供します。スキャンするドキュメントの最良の設定を一度決定するだけで、残りの作業は VRS が行います。

洗練されたデフォルト設定を利用しても、また独自のイメージ調整を行っても、すべてのスキャン イメージを高品質に仕上げることができます。

メモ VRS には、状況依存のオンライン ヘルプが備わっています。F1 キーを押すと、アプリケーションから離れることなく現行の画面に応じたヘルプにアクセスできるため、重要な操作を行っている際に便利です。



VRS によるイメージのスキャンとその処理

図 1-1 VRS イメージ処理ワークフロー

VRS イメージ処理ワークフロー

VRS は、スキャニング アプリケーションおよびスキャナと併用することができます。スキャニング アプリケーションからのスキャン要求は、イメージ タイプ (カラー、モノクロ、グレースケール) を基に評価され、処理されます。イメージをスキャンすると、適切な調整が行われ、処理されたイメージがスキャニング アプリケーションに送られます (図 1-1)。

基本機能

VRS は、ユーザーの基準に沿ったスキャン イメージの画質を提供します。プロダクション スキャナだけでなく、すべてのスキャナに対して、スキャンを簡単に、より低コストで行えるようにデザインされています。VRS は、低画質のイメージを直ちに検出し、自動画像処理を行います。また、インタラクティブに調整できるコントロールを使用することで、簡単かつリアルタイムにイメージを修正できるため、す

べてのスキャン イメージをニーズに合わせた品質に仕上げることができます。基本機能では、次の処理が可能です。

- ドキュメント サイズまたは品質が異なる複数のドキュメントを含むバッチをスキャンします。そのため、バッチを仕分ける必要はありません。VRS はイメージの傾き補正を行い、元のドキュメントのサイズにクロップします。
- 紙詰まりやデバイスの競合を自動的に検出して、警告します。その結果、作業時間は短縮し、処理後の精度が向上します。
- 文字を歪めることなく傾き補正を自動的に行います。傾き補正を行う従来のソフトウェア製品では文字にギザギザが現れていましたが、VRS で傾き補正を行った文字は滑らかで正確です (図 1-2)。

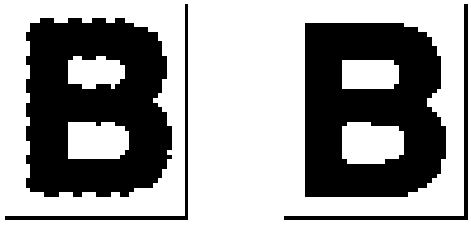


図 1-2 従来の傾き補正と VRS の傾き補正

基本機能は、モノクロ出力に対しても最適化されているため、次の処理も行います。

- ドキュメント タイプに対して最適な明るさの設定を自動的に適用します。OCR (光学式文字認識) の精度が重要であるバッチ スキャンにおいて、従来、コントラストの低いドキュメントには問題がありました。VRS では、かすれた内容を強調することができ、その結果、低い解像度 (200 DPI など) でも OCR の結果が向上します。
- イメージの最適化中に背景やノイズを抑制することでイメージのファイル サイズを小さくします。その結果、イメージの保存に必要なディスク空き容量も少なくなります。

また、VRS はあらゆるスキャン イメージの質の向上のために次のような機能を備えています。

- 斑点ノイズ除去
- ガンマ補正
- 文字の拡大 / 縮小
- 長い用紙のサポート
- 詳細設定プロパティへのアクセス
- 白い背景のクロップと傾き補正

VRS プロフェッショナル機能

基本機能の他に、VRS は次のようなプロフェッショナル機能もサポートしています。

- デスクトップ プロダクティビティ
- 色の自動検出
- 背景のスムージング
- 自動の向き
- 空白ページの検出と削除
- 製品アップデートの自動確認
- 鮮明度の詳細設定
- Kofax Capture (旧称: Ascent Capture) ユーザー用の [後で KC の品質管理で行う] モード

デスクトップ、ワークグループ、またはプロダクション VRS ライセンスを持つユーザーは、VRS プロフェッショナル機能を制限なく利用できます。VRS 基本ライセンスの場合、VRS プロフェッショナル機能の利用が制限されます。このライセンスでは、VRS プロフェッショナル機能をデモ モードで利用できます。詳細は、70 ページの「プロフェッショナル機能デモ」を参照してください。VRS プロフェッショナル機能に関する詳細は、7 ページの「VRS の操作」を参照してください。デスクトップ プロダクティビティ機能に関する詳細は、77 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能」を参照してください。

メモ すべての VRS プロフェッショナル機能を同時に有効にすると、パフォーマンスが著しく低下する場合があります。

動作保証されたスキャニング アプリケーション

Kofax では、動作保証プロセスの一環として、幅広い種類のスキャニング アプリケーションと VRS の互換性をテストしています。動作保証されたスキャニング アプリケーションのリストは常に更新されていますが、VRS は Kofax ImageControls ツールキット、ISIS プログラム インターフェイス、または TWAIN プログラム インターフェイスをベースとしたアプリケーションとも併用できるように設計されています。

動作保証されたスキャナとそれ以外 のスキャナ

VRS で動作保証されていないスキャナを使用する場合、厳密なテスト プロセスを通して、最適なデフォルト設定を確認し選択しなければなりません。このため、VRS

で動作保証されたスキャナのみを使用することを推奨します。Kofax テクニカル サポートは、VRS 動作保証スキャナに関してのみ受けられます。動作保証されているスキャナのリストは、Kofax Web サイトの製品ページから参照してください。また、VRS の製品ページには、スキャナ名や製造元の他に、次の情報が掲載されています。

- VRS に使用されるドライバ (TWAIN、ISIS、または Kofax SCSI)
- ブラック ボーダーまたはホワイト ボーダー (白または黒の背景色) のサポート
- 最適なパフォーマンスを得るための追加メモリの必要性 （該当する場合）
- VRS 動作保証インターフェイス (SSCI、USB、または FireWire)

動作保証されていない (互換性のない) いくつかのスキャナは、スキャナ設定ユーティリティで設定することで、VRS で使用することができます。ただし、動作保証されていないスキャナを VRS で使用すると、イメージの質が劣化することがあるので注意してください。VRS で使用できないスキャナも存在します。動作保証されていないスキャナとの互換性を確保するには、次の要件を満たしている必要があります。

- 256 階調グレースケール イメージを 1 つのイメージとして出力する機能
- TWAIN ドライバまたは ISIS ドライバのサポート

> **メモ** VRS は ISIS ドライバを使用したスキャナで最適に動作しますが、TWAIN ドライバを使用したスキャナもいくつかサポートしています。

VRS で動作保証されていないスキャナに関する詳細は、「VRS インストール ガイド」を参照してください。

第 2 章

VRS の操作

はじめに

この章では、デフォルト設定を使用して VRS を操作する方法、カスタム プロファイルをセットアップする方法、および VRS 調整コントロールを使用して手動画像向上機能を設定し、使用する方法について説明します。また、VRS ユーザー インターフェイスから利用可能な詳細機能および他のオプションに関する情報についても説明します。

デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合は、77 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能」を参照してください。

VRS スキャン ソースの選択

スキャニング アプリケーションを起動し、次の手順に従って VRS スキャン ソースを選択すると、VRS はアクティブになります。

SVRS および HVRS スキャン ソース

VRS スキャン ソース名には、それぞれ "SVRS" または "HVRS" が含まれます。"SVRS" は Software VRS 用のソースで、"HVRS" は Hardware VRS 用のソースです。HVRS 用のソースは、VRS 機能を実行するために、特別なボードが取り付けられたプロダクション ライセンス用の高速スキャナで使用されます。VRS のインストール時に指定したスキャナを基に、適切なソース (SVRS または HVRS) をスキャニング アプリケーションから選択することができます。次の手順では、SVRS 用のソースについて記述されていますが、VRS のインストール時にプロダクション ライセンス用のスキャナを指定した場合は、HVRS 用のソースのみ表示されます。

▶ **VRS スキャン ソースを選択するには**

1. スキャナとコンピュータの電源を入れます。
2. スキャニング アプリケーションを起動します。

3 スキャニング アプリケーションから、VRS スキャン ソースを選択します。表示されるダイアログ ボックスは、スキャニング アプリケーションと VRS のインストール時に指定したスキャナによって異なります。

ImageControls ベースのアプリケーション

- < スキャナのモデル > with SVRS
- < スキャナのモデル > with SVRS with AIPE
- < スキャナのモデル > without SVRS
- < スキャナのモデル > without SVRS with AIPE

ISIS ベースのアプリケーション

- Kofax VRS Scanner

TWAIN ベースのアプリケーション

- Kofax Software VRS - TWAIN

図 2-1 から図 2-3 の例を参照してください。

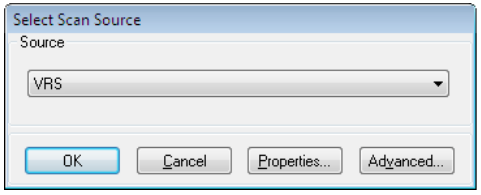


図 2-1 [Select Scan Source] ダイアログ ボックス (ImageControls ベースのアプリケーション)

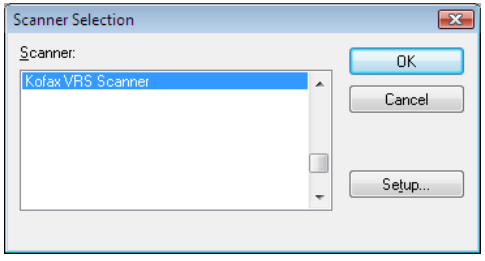


図 2-2 [スキャナの選択] ダイアログ ボックス (ISIS ベースのアプリケーション)

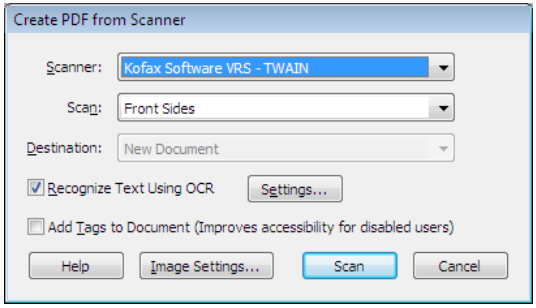


図 2-3 [スキャナの選択] ダイアログ ボックス (TWAIN ベースのアプリケーション)

4 [OK] または [スキャン] ボタンをクリックします (ボタン名はスキャニング アプリケーションによって異なります)。

5 ImageControls ベースのアプリケーションの場合、スキャン ソースを選択すると、Windows タスクバーに VRS アイコン (図 2-4) が表示されます。ISIS および TWAIN アプリケーションの場合、VRS アイコンはスキャナ インターフェイスのダイアログ ボックスを表示するか、またはスキャンを開始すると表示されます。詳細は、10 ページの「Kofax VRS スキャニング インターフェイス」を参照してください。

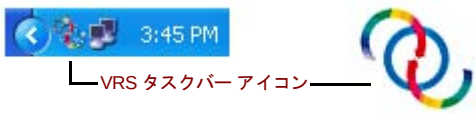


図 2-4 VRS タスクバー アイコン

Kofax VRS TWAIN または Kofax VRS ISIS ソースと関連付けられているスキャナが、デフォルトのスキャナです。デフォルトの VRS スキャナは、次のいずれかの操作で設定されます。

- VRS のインストール時にスキャナを選択
- スキャナ設定ユーティリティからデフォルトのスキャナを選択

メモ VRS のインストールに関する詳細は、「VRS インストール ガイド」を参照してください。スキャナ設定ユーティリティに関する情報は、このガイドの 119 ページの「スキャナ設定ユーティリティ」を参照してください。

---

6 スキャニング アプリケーションの指示に従って、通常どおりスキャンを行ってください。

Kofax VRS スキャニング インターフェイス

スキャニング インターフェイスは、VRS アクセス用のオプションと、基本的なスキャナ プロパティ設定で構成されています。スキャニング インターフェイスは、VRS とスキャニング アプリケーションの接続を制御します。スキャニング アプリケーションの種類 (ImageControls ベース、ISIS ベース、TWAIN ベース) に応じて、VRS スキャニング インターフェイスに表示されるオプションは異なります。たとえば、ImageControls スキャニング インターフェイスにはスキャンの開始を選択できるオプションは含まれていませんが、ISIS および TWAIN スキャニング インターフェイスには [スキャン] オプションが含まれています。

ほとんどのスキャニング アプリケーションでは、1 種類のスキャニング インターフェイスしかサポートしていませんが、複数のスキャニング インターフェイスをサポートしているものもあります。複数のスキャニング インターフェイスをサポートしているアプリケーションの場合、VRS に直接アクセスするインターフェイスを選択してください。最良の結果が得られるように、Kofax ImageControls インターフェイス、ISIS インターフェイス、TWAIN インターフェイスの順に選択することを推奨します。

Kofax VRS ImageControls インターフェイス

Kofax VRS ImageControls インターフェイスは、VRS と ImageControls スキャニング アプリケーションの接続を制御します。スキャニング アプリケーションから VRS スキャン ソースを選択すると、ImageControls スキャニング インターフェイスにアクセスできるようになります。そして、アプリケーションが作成したカスタム ダイアログ ボックスで、または標準の ImageControls ダイアログ ボックスで、スキャナ プロパティが利用できるようになります。図 2-5 は、VCDemo (すべての VRS に含まれている ImageControls ベースのデモ用スキャニング アプリケーション) の [Scanner Properties (スキャナ プロパティ)] ダイアログ ボックスです。

メモ VCDemo に関する詳細は、「VRS インストール ガイド」の「VCDemo の使用」を参照してください。

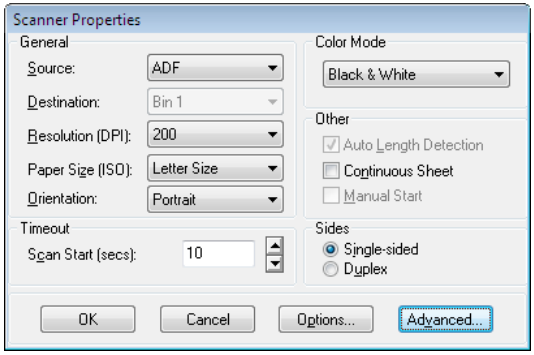


図 2-5 Kofax VRS ImageControls インターフェイス

Kofax VRS ImageControls インターフェイスを使用して、スキャナの機能を制御することができます。[General (一般)] グループでは、次のオプションが選択できます。

- Source (ソース): 利用できる入力用紙ソース (Flatbed、ADF、Manual、または Panel) が表示されます。選択したスキャナによっては、利用できないソースもあります。
- Destination (出力先): スキャンするページの出力トレイ (通常は Bin 1 または Bin 2) が表示されます。選択したスキャナによっては、利用できないトレイもあります。
- Resolution (DPI) (解像度 (DPI)): スキャン解像度または DPI のオプションを選択します。
- Paper Size (用紙サイズ): 選択したスキャナでサポートしている用紙サイズ (A5、レターなど) が表示されます。
- Orientation (向き): スキャンするドキュメントの用紙の向き (縦または横) が示されます。

ImageControls スキャニング インターフェイスには、次のオプションもあります。

- Timeout (タイムアウト): スキャン操作を開始した後、スキャナに用紙をセットする時間を秒で選択します。選択された時間内に用紙がセットされなかった場合、用紙切れエラーになります。
- Color Mode (カラー モード): スキャンを行う色のモード (カラー、白黒、グレースケール) を選択します。色のモードによって、スキャンしたページを変換するときの色の数またはグレーの濃淡が決まります。選択したスキャナによって、利用できる色のモードは異なります。色のモードの選択は、利用できる VRS の機能にも影響します。
- Other (その他): 長さの自動検出、連続シート操作、および手動スタートに関するオプションを選択します。選択したスキャナによって、利用できるオプ

ションは異なります。詳細は、[Scanner Properties (スキャナ プロパティ)] ダイアログ ボックスで F1 キーを押してください。

- Sides (片面 / 両面): 一度にスキャンされる面の数に従って、片面または両面のいずれかを選択します。両面スキャンをサポートしていないスキャナもあります。

[Options (オプション)] ボタンをクリックして [Source Properties (ソースのプロパティ)] ダイアログ ボックスを開き、イメージ ソースの設定を指定します。詳細は、[Scanner Properties (スキャナ プロパティ)] ダイアログ ボックスで F1 キーを押してください。

[Advanced (詳細設定)] ボタンをクリックして、VRS インタラクティブ ビューアを開きます。

ImageControls スキャニング アプリケーションでは、スキャンを開始するためのオプションは、通常、メニュー コマンドとして利用できます。これは、スキャナのプロパティ設定とは別になります。

メモ 詳細は、ImageControls のドキュメントを参照してください。

▶ Kofax VRS ImageControls インターフェイスを使用してスキャンするには

1. スキャニング アプリケーションを起動します。
2. VRS スキャン ソースを選択して、[OK] をクリックします。スキャン ソースは、"< スキャナのモデル > with SVRS" のように名前が付けられます (< スキャナのモデル > は、スキャナの製造元とモデルを示します)。

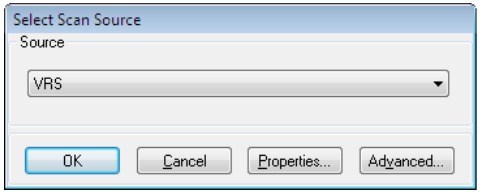


図 2-6 Kofax VRS ImageControls インターフェイス - ソースの選択

3. [Source (ソース)] ー [Properties (プロパティ)] を選択します。選択したスキャン ソースと関連する [スキャナ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

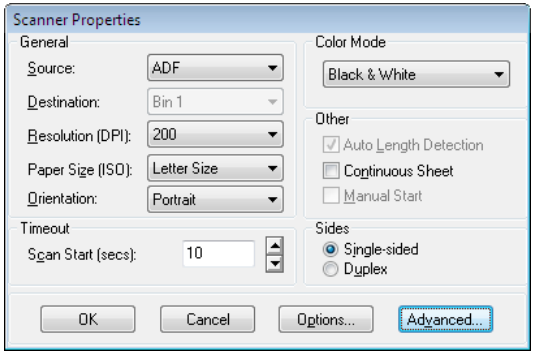


図 2-7 [Scanner Properties (スキャナ プロパティ)] ダイアログ ボックス

4 [Scanner Properties (スキャナ プロパティ)] ダイアログ ボックスから、必要なオプションを選択して、[OK] をクリックします。個々の設定に関する詳細は、ダイアログ ボックスで F1 キーを押してください。

5 [Source (ソース)] ー [Process Image (イメージを処理)] または [Source (ソース)] ー [Process Batch (バッチを処理)] のいずれかを選択して、スキャン処理を開始します。

Kofax VRS ISIS インターフェイス

Kofax VRS ISIS インターフェイスは、VRS と ISIS スキャニング アプリ ケーション の接続を制御します。ほとんどの場合、Kofax VRS ISIS インターフェイスは、ISIS スキャニング アプリ ケーション から "Kofax VRS Scanner" ソースを選択すると 自動的に表示されます。

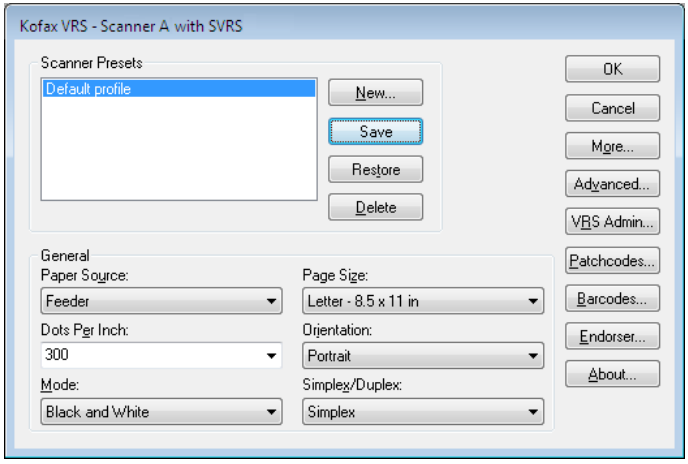


図 2-8 Kofax VRS ISIS インターフェイス

いくつかの ISIS アプリケーションでは、Kofax VRS ISIS インターフェイスが表示されず、代わりにアプリケーション独自のインターフェイスが使用されます。Kofax VRS ISIS インターフェイスを使用すると、ISIS ドライバから利用できるスキャナの機能を制御することができます。インターフェイスは、スキャナ既設定 (プロファイル) に関連付けられている設定と、スキャナに関連する一般的な設定で構成されます。

[Scanner Presets (スキャナ既設定)] グループでは、スキャナの既設定の作成と管理を行います。新しい既設定の名前を入力してから、[Save (保存)]、[Restore (復元)]、または [Delete (削除)] ボタンをクリックして、既設定を保存、元に戻す、または削除することができます。

メモ Kofax VRS ISIS インターフェイスから作成するスキャナ既設定は、VRS で作成するプロファイルとは異なります。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

[General (一般)] グループで、次のオプションを選択することができます。

- Paper Source (用紙ソース): 利用できる入力用紙ソース (Flatbed または ADF) を選択します。
- Dots Per Inch (解像度): スキャン解像度または DPI のオプションを選択します。
- Mode (モード): スキャナでサポートされている色のモード (白黒、グレースケール、またはカラー) を選択します。モードの選択は、利用できる VRS の機能にも影響します。
- Page Size (用紙サイズ): A5、レターなどの用紙サイズを選択します。
- Orientation (向き): 用紙の向き (縦または横) を選択します。
- Simplex/Duplex (片面 / 両面): 片面スキャンまたは両面スキャンを選択します。

[Advanced (詳細設定)] ボタンをクリックすると、VRS インタラクティブ ビューアにアクセスできます。[VirtualReScan Admin] ボタンをクリックすると、VRS 管理ユーティリティにアクセスできます。

▶ Kofax VRS ISIS インターフェイスを使用してスキャンするには

1. スキャニング アプリケーションを起動します。
2. "Kofax VRS Scanner" ソースを選択して、[OK] をクリックします。

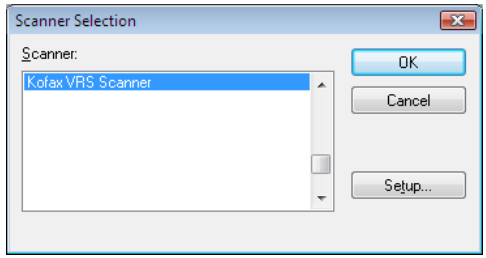


図 2-9 Kofax VRS ISIS インターフェイス - [Scanner Selection] ダイアログ ボックス

3 Kofax VRS ISIS インターフェイスが起動します (図 2-8)。[General (一般)] グループで、用紙ソース、DPI、モード、用紙サイズなどの設定を選択します。

4 必要な場合、後で使用できるように、[New (新規)] をクリックして、これらの設定のプロファイルを作成します。

a [New Profile (新規プロファイル)] ダイアログ ボックスで、プロファイルの名前をテキスト ボックスに入力します。

b テキスト ボックスにプロファイルのファイル名を入力します。

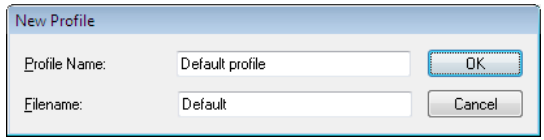


図 2-10 Kofax VRS ISIS インターフェイス - [New Profile] ダイアログ ボックス

5 [OK] をクリックして、[New Profile (新規プロファイル)] ダイアログ ボックスを閉じます。今後、プロファイルを変更するには、プロファイルを選択して [General (一般)] グループで設定を更新し、[Save (保存)] をクリックします。プロファイルをロードするには、プロファイルを選択して Kofax VRS ISIS インターフェイスから [Restore (復元)] をクリックします。プロファイルを削除するには、プロファイルを選択して [Delete (削除)] をクリックします。

6 スキャン処理を開始します。

Kofax VRS TWAIN インターフェイス

Kofax VRS TWAIN インターフェイスは、VRS と TWAIN スキャニング アプリケーションの接続を制御します。ほとんどの場合、Kofax VRS TWAIN インターフェイスは、TWAIN スキャニング アプリケーションから "Kofax Software VRS - TWAIN" ソースを選択すると自動的に表示されます。

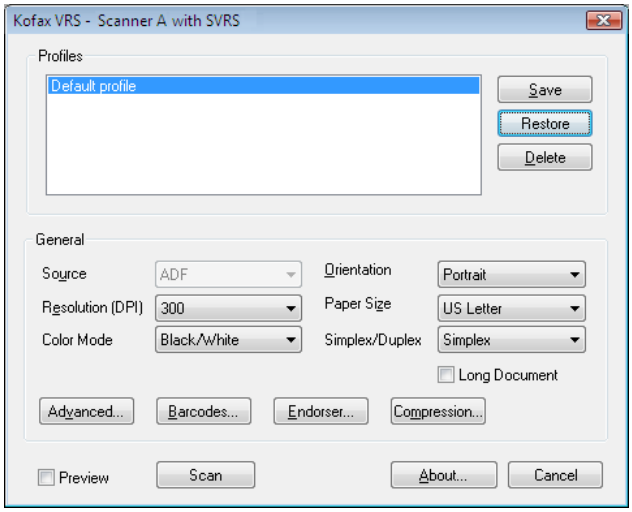


図 2-11 Kofax VRS TWAIN インターフェイス

いくつかの TWAIN スキャニング アプリケーションでは、Kofax VRS TWAIN インターフェイスで、VRS インタラクティブ ビューアにアクセスできる [詳細] ボタンが選択できます。また、TWAIN アプリケーションによっては、Kofax VRS TWAIN インターフェイスが表示されず、代わりにアプリケーション独自のインターフェイスが使用されるものもあります。

Kofax VRS TWAIN インターフェイスを使用すると、TWAIN スキャナドライバから利用できるスキャナの機能を制御することができます。Kofax VRS TWAIN インターフェイスは、[プロファイル] グループと [一般] グループの 2 つのグループで構成されます。

[プロファイル] グループでは、設定 (スキャナ既設定) の作成と管理を行います。新規プロファイルの名前を入力してから、[保存]、[設定を戻す]、または [削除] ボタンをクリックして、プロファイルを保存、元に戻す、または削除することができます。複数のプロファイルを作成し、異なるスキャンの状況に対応できます。Kofax VRS TWAIN インターフェイスの [Profiles (プロファイル)] ウィンドウで一度に表示できるプロファイルは 7 つまでです。

メモ Kofax VRS TWAIN インターフェイスから作成するプロファイルは、VRS で作成するプロファイルとは異なります。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

[一般] グループで、次のオプションを選択することができます。

- ソース (用紙ソース): フラットベッドまたは ADF のいずれかを選択します。

- 解像度 (DPI): スキャン解像度または DPI のオプションを選択します。
- 色のモード : スキャナでサポートされている色のモード (白黒、グレースケール、または RGB (カラー)) を選択します。色のモードの選択は、利用できる VRS の機能にも影響します。
- 用紙サイズ : A5、レターなどの用紙サイズを選択します。
- 向き : 用紙の向き (縦または横) を選択します。
- 片面 / 両面 : 片面スキャンまたは両面スキャンを選択します。
- 長い用紙のサポート : 標準よりも長いページをスキャンする場合に選択します。
- 詳細設定 : VRS インタラクティブ ビューアを表示します。
- バーコード : [Bar Code Properties (バーコードのプロパティ)] ダイアログ ボックスを表示します。
- エンドーサ : [Endorser & Annotation Properties (エンドーサとアノテーションのプロパティ)] ダイアログ ボックスを表示します。
- 圧縮 : [Compression (圧縮)] ダイアログ ボックスを表示します。

インターフェイスの左下隅にある [プレビュー] チェックボックスを選択すると、スキャン中のイメージを表示できるだけでなく、VRS 調整コントロールを使用してリアルタイムでイメージに変更を加えることができます。[プレビュー] が選択されると、VRS の [最初のページ] 操作モードよりも優先されます。

[バージョン情報] ボタンは、インストール先やバージョン情報を表示します。

▶ Kofax VRS TWAIN インターフェイスを使用してスキャンするには

1. スキャニング アプリケーションを起動します。
2. "Kofax Software VRS - TWAIN" スキャン ソースを選択して、[OK] をクリックします。

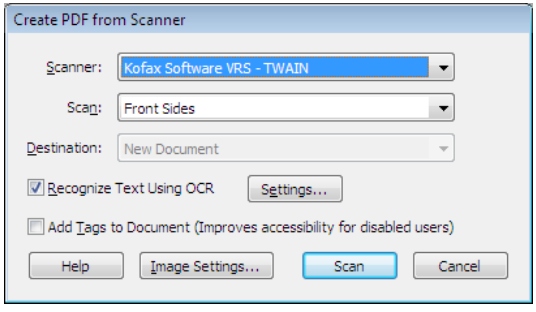


図 2-12 Kofax VRS TWAIN インターフェイス - ソースの選択

3 Kofax VRS TWAIN インターフェイスが起動します。[一般] グループで、ソース、DPI、色のモード、用紙サイズなどの設定を選択します。

4 必要な場合、[保存] をクリックして、更新された設定を保存するプロファイルを作成します。

   a [プロファイルの保存] ダイアログ ボックスで、プロファイルの名前を入力します。

   b [OK] をクリックします。今後、プロファイルをロードするには、プロファイルを選択して、Kofax VRS TWAIN インターフェイスから [元に戻す] をクリックします。プロファイルを削除するには、プロファイルを選択して [削除] をクリックします。

5 必要な場合、次のボタンをクリックして設定を更新します。

   - 詳細設定 : VRS インタラクティブ ビューアを表示します。
   - バーコード : [Bar Code Properties (バーコードのプロパティ)] ダイアログ ボックスを表示します。
   - エンドーサ : [Endorser & Annotation Properties (エンドーサとアノテーションのプロパティ)] ダイアログ ボックスを表示します。
   - 圧縮 : [Compression (圧縮)] ダイアログ ボックスを表示します。

6 [スキャン] をクリックして、スキャン処理を開始します。

スキャン前の VRS 設定

VRS のデフォルト設定は、ほとんどのドキュメント タイプで優れた結果を生成します。通常、VRS の設定を変更する必要はありませんが、必要に応じて調整することができます。このセクションでは、いくつかの設定オプションについて説明します。

- VirtualReScan 管理ユーティリティを使用して、例外イメージへの VRS の対処方法をカスタマイズする。詳細は、次のセクションを参照してください。
- 操作モード を選択して、スキャン中に VRS インタラクティブ ビューアが表示される回数を制御する。詳細は、29 ページの「VRS 操作モードの設定」を参照してください。
- スキャンするドキュメント で最良のイメージ品質が得られるプロファイルを選択する。詳細は、30 ページの「 プロファイルの使用」を参照してください。
- サンプル イメージをプレビューして、選択したプロフィルが最適であることを確認する。詳細は、36 ページの「イメージのプレビュー」を参照してください。

VirtualReScan 管理ユーティリティの使用

すべてのページが正常に処理されることが理想的ですが、バッチが完了する前にスキャンが停止することがあります。VirtualReScan 管理ユーティリティを使用すると、特定のイメージやスキャナの状況でスキャンの動作を制御することができます。このユーティリティでは、例外イメージへの VRS の対処方法と、スキャニング アプリケーションに問題を報告する方法を設定します。警告やエラー タイプによって、選択は異なります。

[VirtualReScan 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックスには、3 つのタブがあります。

- **[警告] タブ :** 画質を設定します。
- **[エラー] タブ :** デバイスの競合エラーや用紙搬送エラーの条件と VRS の対処方法を設定します。
- **[高速スキャニング] タブ :** スキャナの速度を最大限にする設定を行います。

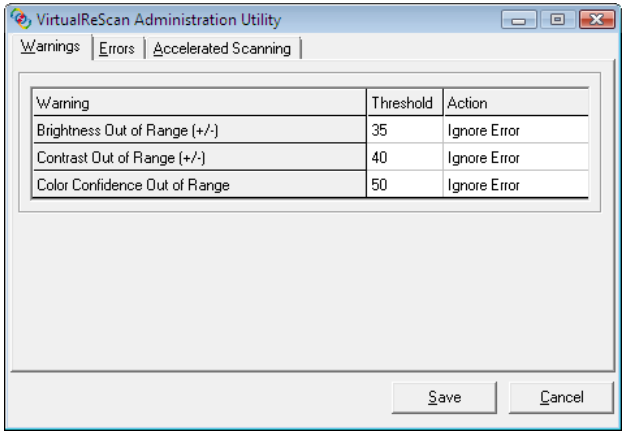


図 2-13 [VirtualReScan 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックス

VRS のデフォルト設定は、幅広いドキュメントにおける最適なスキャンと、データの正確なキャプチャを提供します。通常、表 2-1 に記載されているデフォルト設定を変更する必要はありません。

表 2-1 [VirtualReScan 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックスのデフォルト設定

タブ	警告 / エラー タイプ	しきい値	動作	設定
警告	明るさの許容範囲外	30	インタラクティブ	NA
			エラーを無視する [1]	
警告	コントラストの許容範囲外	40	インタラクティブ	NA

表 2-1 [VirtualReScan 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックスのデフォルト設定 (続き)

タブ	警告 / エラー タイプ	しきい値	動作	設定
警告	色の信頼度の許容範囲外	50	インタラクティブ	NA
エラー	自動クロップ失敗 - 検出されないページ境界	NA	エラーを無視する	NA
エラー	自動傾き補正の失敗	NA	エラーを無視する	NA
エラー	用紙ジャム	NA	自動修正	NA
エラー	用紙切れ	NA	自動修正	NA
エラー	カバー オープン	NA	自動修正	NA
エラー	マルチフィード [1]	NA	自動修正	NA
エラー	スキャナ オフライン [1]	NA	自動修正	NA
エラー	フィーダー タイムアウト [1]	NA	自動修正	NA
エラー	スキャナ停止キー [1]	NA	自動修正	NA
エラー	スキャナ ページ センサー エラー [1]	NA	自動修正	NA
高速スキャニング	NA	NA	NA	画質 : 最良 高速 : なし

1 Böwe Bell + Howell Spectrum シリーズのスキャナのみ

必要な場合、画質および例外処理に従って、VirtualReScan 管理ユーティリティの設定を変更することができます。設定を変更するには、VirtualReScan タスクバー メニューから [管理ユーティリティ] を選択して、[VRS 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックスを開きます。

[警告] タブおよび [エラー] タブで、例外イメージ、デバイスの競合、用紙搬送エラーを検出した際の VRS の対処方法を設定します。[警告] タブおよび [エラー] タブでは、デフォルト設定を使用するか、または VRS が各例外タイプを処理する方法をカスタマイズすることができます。設定が完了したら、[保存] をクリックします。タブで行った変更が保存され、次のスキャン操作の開始時に有効になります。[キャンセル] ボタンをクリックしてこのダイアログを閉じた場合、タブで行われた変更は自動的に破棄されます。

VirtualReScan 管理ユーティリティの詳細については、次のセクションの「[警告] タブ」、23 ページの 「[エラー] タブ」、25 ページの「[高速スキャニング] タブ」を参照してください。

[警告] タブ

[警告] タブは、画質に関する例外条件を表示します。それぞれの警告条件について、しきい値を設定することができます。しきい値は、明るさ、コントラスト、および色の信頼度について、VRS の許容範囲を定義します。VRS は、許容範囲外の値を持つイメージを検出し、[動作] カラムで選択された対応に従ってイメージを処理します。

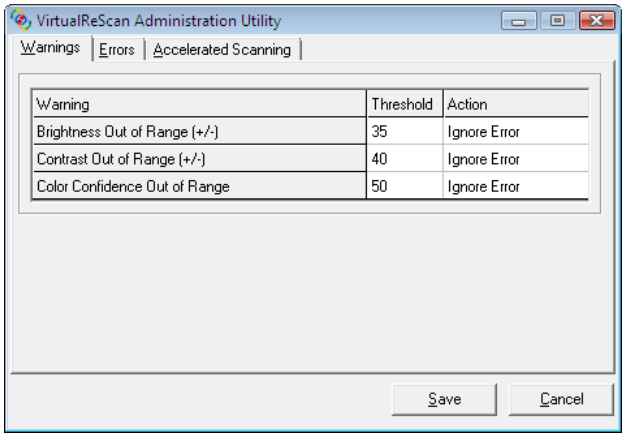


図 2-14 [警告] タブ

表 2-2 は、警告タイプと原因の一覧です。

表 2-2 警告タイプ

警告	原因
明るさの許容範囲外	イメージの明るさが許容範囲を超えている。
コントラストの許容範囲外	イメージのコントラストが許容範囲を越えている。
色の信頼度の許容範囲外	イメージの色の信頼度が許容範囲を越えている。

表 2-3 は、[警告] タブで警告に対して選択できる動作タイプの一覧です。

表 2-3 警告に対する動作タイプ

動作タイプ	説明
エラーを無視する	VRS は、警告を通知しません。また、エラーを修正する動作も行いません。イメージを " 現状のまま " スキャニング アプリケーションに渡し、スキャンを再開します。
エラーを返す	VRS は、警告を通知しますが、スキャニング アプリケーションにイメージを送りません。スキャンは終了します。

表 2-3 警告に対する動作タイプ

動作タイプ	説明
インタラクティブ	VRS インタラクティブ ビューアでイメージを表示し、エラーの原因を修正します。

明るさの許容範囲外

[明るさの許容範囲外] しきい値を使用して、明るさの値の有効な範囲を定義します。VRS は、ドキュメントのスキャン時にイメージ結果を評価して、その明るさを決定します。次に、VRS は、実際の明るさの値とユーザー定義の許容範囲を比較します。ユーザー定義の許容範囲とは、50 に、[警告] タブの [明るさの許容範囲外] しきい値を +/- した範囲です。このリアルタイムの評価を基に、VRS は、イメージを受け付けてスキャニング アプリケーションに送るか、または [警告] タブの [動作] 設定に従って処理するかを決定します。検出された明るさの値は、VRS インタラクティブ ビューアのステータス バーに表示されます。

たとえば、[警告] タブの [明るさの許容範囲外] しきい値が 10 の場合、VRS は、検出された明るさの値が 40 から 60 の範囲のイメージを受け付けます。範囲は、40 (50 - 10) から、60 (50 + 10) までです。したがって、明るさの値が 70 のイメージは有効範囲外となります。VRS は、[警告] の [明るさの許容範囲外] で指定された動作を実行します。21 ページの図 2-14 を参照してください。

コントラストの許容範囲外

[コントラストの許容範囲外] しきい値を使用して、コントラスト値の有効な範囲を定義します。VRS は、ドキュメントのスキャン時にイメージ結果を評価して、そのコントラストを決定します。次に、VRS は、実際のコントラストの値とユーザー定義の許容範囲を比較します。ユーザー定義の許容範囲とは、50 に、[警告] タブの [明るさの許容範囲外] しきい値を +/- した範囲です。このリアルタイムの評価を基に、VRS は、イメージを受け付けてスキャニング アプリケーションに送るか、または [警告] タブの [動作] 設定に従って処理するかを決定します。検出されたコントラストの値は、VRS インタラクティブ ビューアのステータス バーに表示されます。

たとえば、[警告] タブの [コントラストの許容範囲外] しきい値が 15 の場合、VRS は、コントラストの値が 35 から 65 の範囲のイメージを受け付けます。範囲は、35 (50 - 15) から、65 (50 + 15) までです。したがって、コントラストの値が 25 のイメージは有効範囲外となります。VRS は、[警告] の [コントラストの許容範囲外] で指定された動作を実行します。21 ページの図 2-14 を参照してください。

色の信頼度の許容範囲外

[色の信頼度の許容範囲外] しきい値を使用して、色の信頼度の値の有効な範囲を定義します。VRS は、ドキュメントのスキャン時にイメージを評価して、イメージがカラーなのか、またはモノクロなのかを決定します。また、この評価に対する信頼度も決定します。信頼度のレベルは、VRS インタラクティブ ビューアのステータスバーにパーセンテージで表示されます。

次に、VRS は、パーセンテージとユーザー定義の許容範囲の値 ([警告] タブの [色の信頼度の許容範囲外] しきい値) を比較します。このリアルタイムの評価を基に、VRS は、イメージを受け付けてスキャニング アプリケーションに送るか、または [警告] タブの [動作] 設定に従って処理するかを決定します。

たとえば、[警告] タブの [色の信頼度の許容範囲外] しきい値が 50 の場合、VRS は、色の信頼度の値が 50 以上のイメージを受け付けます。したがって、色の信頼度の値が 50 未満のイメージは有効範囲外となります。VRS は、[警告] の [色の信頼度の許容範囲外] で指定された動作を実行します。21 ページの図 2-14 を参照してください。

[エラー] タブ

[エラー] タブでは、デバイスの競合エラーや用紙搬送エラーの例外条件および VRS の対処方法を設定します。

メモ [エラー] タブに表示されるエラー タイプは、使用するスキャナによって異なります。

[動作] カラムで、各エラー タイプについて VRS の対処方法を設定します。設定を変更するには、[動作] ボックスをクリックして、ドロップダウン リストから新しい設定を選択します。

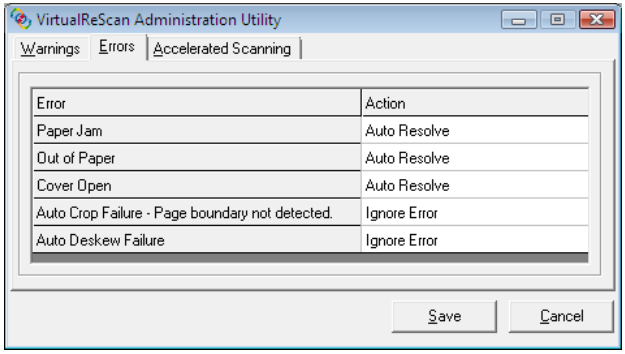


図 2-15 [VirtualReScan 管理ユーティリティ] ー [エラー] タブ

表 2-4 エラー タイプ

エラー	説明
用紙ジャム	スキャナの給紙 / 排紙経路で紙詰まりが発生しています。
マルチフィード [1]	用紙搬送に複数のページが送られました。
用紙切れ	用紙切れです。
カバー オープン	スキャナのカバーが正しく閉じられていません。
スキャナ オフライン [1]	スキャナの準備ができていません。
フィーダー タイムアウト [1]	ドキュメント フィーダーが ADF タイムアウト設定の時間内にページを移動できませんでした。
スキャナ停止キー [1]	ユーザーがスキャナの [OI STOP] キーを押しました。直ちに用紙搬送が停止されます。ページはそのまま残ります。
スキャナ ページ センサー [1]	センサーが、スキャン時に、ドキュメントに穴があいている、ページの端が破れているなどの予期しないページ センサーの変位を検出しました。用紙搬送は、エラーがクリアになりすべてのページが排紙トレイに送られるまで続けられます。
自動クロップ失敗 - 検出されないページ境界	過度の傾きまたはその他の状況により、VRS がスキャン ドキュメントのエッジを検出できません。
自動傾き補正の失敗	正しい傾き補正を行うために必要な数の縦または横の線がイメージに含まれていません。[傾き] パネルを使用して手動で修正してください。詳細は、58 ページの「[傾き] パネルの使用」を参照してください。

1　スキャナ依存エラー

表 2-5 は、[エラー] タブから利用できる動作タイプの一覧です。

表 2-5　エラーに対する動作タイプ

動作タイプ	説明
エラーを無視する	VRS は、エラーを通知しません。また、エラーを修正する動作も行いません。イメージを " 現状のまま " スキャニング アプリケーションに渡し、スキャンを再開します。
エラーを返す	VRS は、エラーを通知しますが、スキャニング アプリケーションにイメージを送りません。スキャンは終了します。

表 2-5　エラーに対する動作タイプ

動作タイプ	説明
自動修正	VRS は、自動修正マネージャを自動モードで開きます。ユーザーがケーブルのゆるみ、紙詰まり、用紙切れなどのデバイスまたは用紙搬送の問題を解決するまで、スキャナは自動的にスキャンを再試行します。詳細は、73 ページの「自動修正マネージャの使用」を参照してください。
インタラクティブ	VRS インタラクティブ ビューアでイメージを表示し、そのイメージに新しい設定を適用します。

[高速スキャニング] タブ

モノクロ イメージを要求するスキャニング アプリケーションを使用している場合、VRS は、スキャナからグレースケール イメージを要求します。そして、グレースケール イメージを分析して、クリーンでクリアなモノクロ イメージを生成し、アプリケーションに渡します。つまり、VRS を使用する場合、スキャナはモノクロ イメージを生成しません。従来、スキャナはモノクロ イメージをスキャンする際に最適な速度で動作し、グレースケールやカラー イメージをスキャンする際により低速で動作していました。しかし、最近、この状況が変わり、大部分のスキャナでグレースケール モードの動作速度がモノクロ モードと変わらなくなってきました。実際、グレースケールやモノクロ モードと同じ速さでカラー モードのスキャンを行うスキャナもあります。

グレースケール モードで低速なスキャナの場合は、スキャンが遅くなることがあります。これは、前述したように、アプリケーションがモノクロ イメージを要求した場合、VRS はスキャナにグレースケール イメージを要求するためです。スキャナは**モノクロ モードではなく、グレースケール モードで**動作し、その結果、スキャンが遅くなります。通常は、VRS で生成される画質を、スループットの低下よりも優先するべきです。

しかし、スループットをできるだけ低下させたくない場合、[高速スキャニング] タブの設定を使用して、画質をあまり損なうことなく、スキャナを高速に動作させることができます。

メモ　スキャナによっては、[高速スキャニング] 設定は効果がありません。

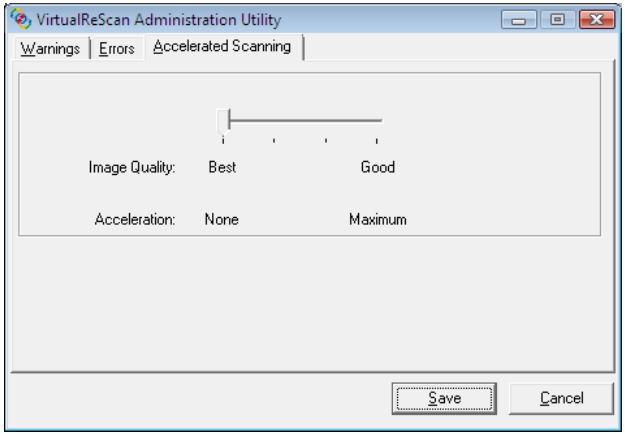


図 2-16 [高速スキャニング] タブ

スライダーを使用して、スキャンのアクセラレーション レベルを [なし] から [最大] の範囲で選択します。アクセラレーション レベルを上げるほど、画質は低くなります。VRS は、アプリケーションが要求する解像度より低い解像度でグレースケール イメージをスキャンし、処理を高速にします。VRS は、スキャンしたイメージを分析して、クリーンでクリアなモノクロ イメージを生成し、次に、このイメージをアプリケーションが要求している解像度に変換します。この処理は画質に影響します。スライダーを [なし] (アクセラレーションなし) から [最大] に動かすに従って、要求された解像度と実際にスキャンされたイメージの解像度との差は大きくなります。[最大] では、差は最も大きくなり、その結果、画質は最も低くなります。

たとえば、スキャニング アプリケーションで 300 DPI を設定し、VRS で [高速スキャニング] のレベル 1 を有効にすると、イメージは、スキャン速度を上げるために 200 DPI でスキャンされ、目的の解像度に合わせて 300 DPI に変換されます。表 2-6 は、一般的なスキャナで VRS が使用する DPI 設定の一覧です。この表から、スキャニング アプリケーションで定義された DPI 設定が VRS でどのように処理されるかがわかります。

メモ 高速スキャニングでレベル 1 を選択した場合、画質は高速スキャニングを使用しない場合と実際はほぼ同じです。しかし、レベルを上げると、画質に影響します。高速スキャニングを選択しても、一部のスキャナでは速度が上がらないこともあります。スキャニング アプリケーションで選択された解像度よりも低い解像度がスキャナにない場合、高速スキャニングは、全く効果がありません。

表 2-6 一般的なスキャナ用の高速スキャニング DPI 設定

スキャニング アプリケーションで定義された DPI 設定	レベル 1 における実際のスキャン DPI	レベル 2 における実際のスキャン DPI	レベル 3 における実際のスキャン DPI	イメージ出力 DPI 設定
300	240	150	100	300
240	200	150	100	240
200	150	100	75	200
150	150	75	75	150
100	75	75	75	100
75	75	75	75	75

[VirtualReScan 管理ユーティリティ] ダイアログ ボックスの更新

[VirtualReScan 管理ユーティリティ] の設定を更新するには、次の操作を行います。

▶ [VirtualReScan 管理ユーティリティ] の設定を更新するには

1 VRS タスクバー アイコンを右クリックして VRS メニューを表示します。

2 VRS タスクバー メニューから [管理ユーティリティ] を選択します。

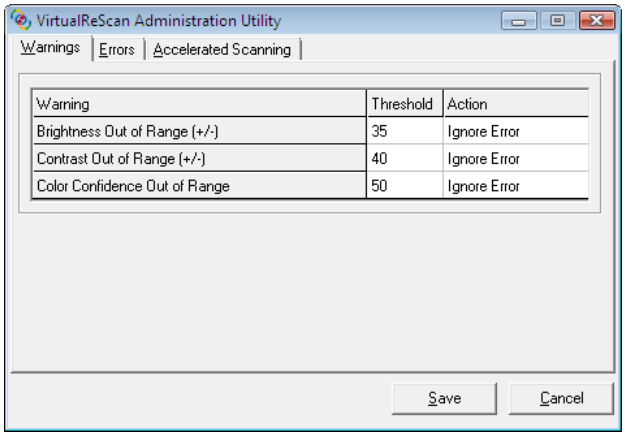


図 2-17 VirtualReScan 管理ユーティリティ

3 VirtualReScan 管理ユーティリティが表示されたら、次のタブの設定を選択して調整します。

- [警告] タブ ー しきい値 [しきい値] テキスト ボックスに直接入力するか、矢印をクリックして新しいしきい値の設定を入力します。詳細は、21 ページの「[警告] タブ」を参照してください。
- [警告] タブまたは [エラー] タブ ー 動作 [動作] オプションをクリックし、リストから設定を選択して、各例外タイプの動作を定義します。詳細は、21 ページの「[警告] タブ」および 23 ページの「[エラー] タブ」を参照してください。
- [高速スキャニング] タブ スライダをドラッグして選択します。詳細は、25 ページの「[高速スキャニング] タブ」を参照してください。

4 設定が完了したら、[保存] をクリックします。タブで行った変更が保存され、次のスキャン操作の開始時に有効になります。

VRS 操作モードの設定

設定を変更して、スキャン中に VRS インタラクティブ ビューアが表示される回数を制御することができます。VRS メニューから [QC モード] を選択すると、VRS インタラクティブ ビューアが異なる条件で表示されます。

デフォルトの QC モードは [エラー時] です。[ハードウェア警告] 設定のデフォルト値は " オン " (チェック) です。いったん選択されると、[QC モード] 設定と [ハードウェア警告] 設定は、次に変更されるまで (セッションが切り替わっても) そのままです。操作モードの選択は、VRS ユーザーごとに異なります。

エラー時

VRS インタラクティブ ビューアは、VirtualReScan 管理ユーティリティで動作選択が [インタラクティブ] (19 ページの「VirtualReScan 管理ユーティリティの使用」を参照) の例外条件でのみ表示されます。VRS をインストールすると、[エラー時] がデフォルトの操作モードになります。

VRS でスキャンされるドキュメントのうち、例外イメージは通常 5% 未満です。

最初のページ

VRS インタラクティブ ビューアは、バッチの最初のページをスキャンするときに常に表示されます。アクティブなプロファイルの効果を確認したり、バッチのドキュメントを処理する前に調整できます。このモードでは、バッチの最初のページを使用して、VRS 調整コントロールの設定を確認することができます。

各ページ

VRS インタラクティブ ビューアは、各ドキュメントをスキャンした後、または両面スキャンでは、各ドキュメントの片面がスキャンされた際に開きます。このモードは、個々の調整が必要な、非常に複雑な小さなバッチで使用することができます。VRS は、調整することなく広範囲のドキュメント タイプを処理できるため、[各ページ] 操作モードを選択する必要はほとんどありません。

後で KC の品質管理で行う (Kofax Capture ユーザーのみ)

このオプションを選択すると、Kofax Capture (旧称 : Ascent Capture) アプリケーションの品質管理モジュールまたはスキャン モジュールから起動されるまで、VRS インタラクティブ ビューアは表示されません。[後で KC の品質管理で行う] は、検出された例外イメージの画質の調整を後で行えるオプションです。このオプションを利用するには、Kofax Capture と適切な VRS プロフェッショナル ライセンスが必要です。詳細は、Kofax Capture のドキュメントを参照してください。

無効

VRSインタラクティブビューアは、スキャン処理中に例外条件が発生しても開きません。

ハードウェア警告

[ハードウェア警告] オプションでは、用紙ジャム (紙詰まり)、用紙切れ、カバーオープンなどハードウェアの状況にどのように対処するかを指定できます。[ハードウェア警告] オプションを選択すると、[VirtualReScan 管理ユーティリティ] の [動作] 設定で定義されたとおりにこれらのエラーが処理されます。このオプションが選択されていない場合、[VirtualReScan 管理ユーティリティ] ですべてのハードウェア エラー条件で [エラーを返す] が選択されている状態と同じになります。24 ページの表 2-5 を参照してください。

▶ **操作モードを変更するには**

1. VRS タスクバー アイコンを右クリックします。
2. VRS タスクバー メニューから、[QC モード] を選択します。
3. [QC モード] サブ メニューから操作モードを選択します。選択したモードの隣にチェック マークが表示されます。

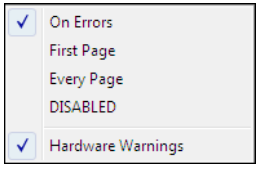


図 2-18 QC モード

4. スキャンを開始します。

プロファイルの使用

VRS では、デフォルト設定を使用して、ドキュメントのスキャンとデータのキャプチャを正確に最短時間で行うことができます。これらのデフォルト設定は、**調整することなく**、幅広いドキュメントを処理することができるように選択されています。しかし、いくつかのドキュメント タイプでは、調整が必要になることがあります。調整が必要なドキュメントを処理する場合、最も良い方法は、カスタム設定を含むプロファイルを作成することです。

重要 " コア " な VRS 製品に使用されるスキャン プロファイルは、デスクトップ プロダクティビティ機能で使用されるプロファイルとは異なります。デスクトップ プロダクティビティ プロファイルは、VRS デスクトップ プロダクティビティ機能をアクティベーションしたときのみ利用可能です。77 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能」を参照してください。

プロファイルには VRS 調整コントロールの設定が保存されます (49 ページの「VRS 調整コントロールの使用」を参照)。プロファイルは、イメージの修正と向上のための記憶された対応策のようなものです。VRS には、広範囲のドキュメント タイプに使用できるデフォルトのプロファイルが含まれています。VRS は、他のプロファイルを定義して選択するまでデフォルト プロファイルを使用します。プロファイルの選択は、VRS ユーザーごとに設定されます。

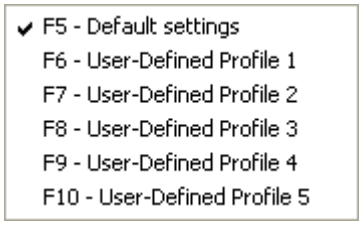


図 2-19 VRS プロファイル

プロファイルを作成、更新、ロ [ドおよび削除するには、VRS インタラクティブ ビューアで、[プロファイル] メニューのオプションを使用します。複数のプロファイルを作成し、異なるスキャンの状況に対応できます。最初の 8 つのプロファイルには、ファンクション キーが割り当てられます。

デフォルトのプロファイルは、VRS を再インストールするか、スキャナ設定ユーティリティを使用しない限り元に戻せないため、更新しないことを推奨します。

プロファイルの作成

プロファイルを作成するには、次のいずれかの操作を行います。

- 現在の VRS 調整コントロールの設定を新しいプロファイル名で保存する
- [プロファイルの編集] ダイアログ ボックスからプロファイルを作成する

表 2-7 のプロファイル名として使用できない文字に注意してください。

表 2-7 VRS プロファイル名として無効な文字

文字	説明	文字	説明
:	コロン	'	単一引用符
;	セミコロン	"	二重引用符
\	バックスラッシュ、円記号	>	大なり
/	スラッシュ	<	小なり
|	パイプ	^	カレット
&	アンパサンド	.	ピリオド
?	疑問符		

▶ 現在の VRS 調整コントロールの設定を新しいプロファイル名で保存するには

1. サンプル イメージをスキャンします。
2. VRS インタラクティブ ビューアを開いて、VRS 調整コントロールを使用して必要な調整を行います。
3. [プロファイル] ー [名前を付けて保存] を選択します。[新規プロファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。

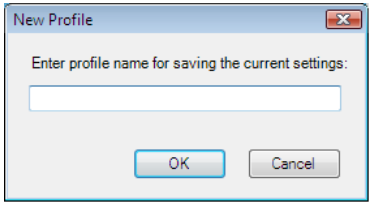


図 2-20 [新規プロファイル] ダイアログ ボックス

4. [新規プロファイル] テキスト ボックスで、新しいプロファイルの名前を入力します。プロファイル名に 表 2-7 で示されている文字が含まれていないことを確認してください。
5. [OK] をクリックしてプロファイルを保存し、[新規プロファイル] ダイアログ ボックスを閉じます。

   新しいプロファイル名がプロファイルの一覧に追加され、アクティブなプロファイルになります。

▶ 新規プロファイルを [プロファイルの編集] ダイアログ ボックスから作成するには

1. サンプル イメージをスキャンします。
2. VRS インタラクティブ ビューアを開いて、VRS 調整コントロールを使用して必要な調整を行います。
3. VRS インタラクティブ ビューアから、[プロファイル] ー [編集] を選択します。[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスが表示されます (図 2-21)。

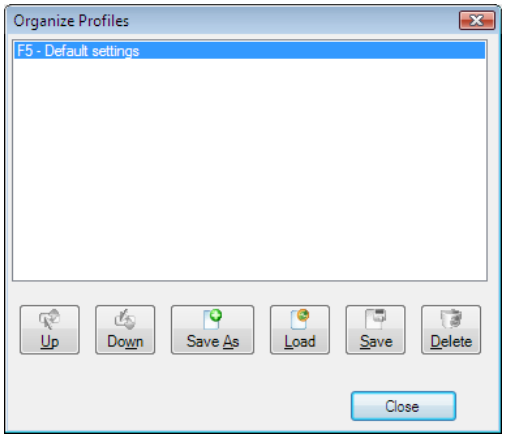


図 2-21 [プロファイルの編集] ダイアログ ボックス

4. [名前を付けて保存] をクリックします。図 2-20 のような [新規プロファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [新規プロファイル] テキスト ボックスで、新しいプロファイルの名前を入力します。プロファイル名に 表 2-7 で示されている文字が含まれていないことを確認してください。
6. [OK] をクリックしてプロファイルを保存し、[新規プロファイル] ダイアログ ボックスを閉じます。
7. [閉じる] をクリックして、[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスを閉じます。

VRS は、作成した最初の 8 つのプロファイルにファンクション キーを自動的に割り当てます。[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスの [上] および [下] ボタンを使用してプロファイルを上下に移動することで、プロファイルの順序と割り当てられているファンクション キーを変更することができます。プロファイルのファンクション キーは、VRS インタラクティブ ビューアがアクティブな場合にのみ利用できます。プロファイルが [プロファイルの編集] ダイアログ ボックスに表示できる数よりも多い場合、スクロール バーを使用してプロファイルを表示してください。

アクティブなプロファイルの変更

アクティブなプロファイルは、[プロファイルの編集] ダイアログ ボックス、VRS インタラクティブ ビューアのツールバー、または VRS タスクバー メニューの [プロファイル] サブメニューから変更することができます。

メモ アクティブなプロファイルを変更する際に VRS インタラクティブ ビューアでイメージを開いていると、イメージは新しい設定で更新されます。

▶ アクティブなプロファイルを [プロファイルの編集] ダイアログ ボックスから変更するには

1. VRS インタラクティブ ビューアから、[プロファイル] ー [編集] を選択します。[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. リストから、使用するプロファイルを選択します。
3. [ロード] をクリックします。(このステップは重要です。[ロード] をクリックしないで [閉じる] をクリックすると、アクティブなプロファイルは変更されません。)
4. [閉じる] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

   プロファイルの選択は、再度アクティブなプロファイルを変更するまで有効です。

▶ アクティブなプロファイルを VRS インタラクティブ ビューアのツールバーから変更するには

1. VRS インタラクティブ ビューアのツールバーで、プロファイルのリストにカーソルを移動し、保存したプロファイルのリストを表示します。

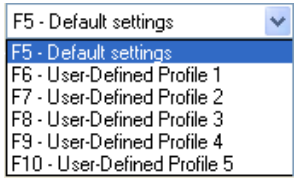


図 2-22 [プロファイルの選択] リスト

2. 次の**いずれか**を行います。
   - プロファイルのリストから、使用するプロファイルを選択します。
   - 使用するプロファイルに割り当てられているファンクション キーを押します。

プロファイルの選択は、再度アクティブなプロファイルを変更するまで有効です。

▶ アクティブなプロファイルを VRS タスクバー メニューから変更するには

1. VRS タスクバー メニューから、[プロファイル] を選択します。
2. [プロファイル] サブメニューが表示されたら、使用するプロファイルの名前を選択します。

   プロファイルの選択は、再度アクティブなプロファイルを変更するまで有効です。

プロファイルの更新

必要な場合、既存のプロファイルを更新して保存することができます。

▶ プロファイルを更新するには

1. VRS インタラクティブ ビューアのツールバーから、プロファイル名を選択します。
2. VRS 調整コントロールから、現在選択しているプロファイルを更新します。
3. [プロファイル] ー [保存] を選択します。

   - または -

4. VRS 調整コントロールから、現在選択しているプロファイルを更新します。
5. VRS インタラクティブ ビューアから、[プロファイル] ー [プロファイルの編集] を選択します。[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
6. 適切なプロファイルがプロファイル リストから選択されていることを確認して、[保存] をクリックします。
7. [閉じる] をクリックして、[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスを閉じます。

プロファイルの削除

[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスを使用して、プロファイルを削除することができます。必要な場合、複数のプロファイルを一度に削除できます。

デフォルトのプロファイルは、VRS を再インストールするか、スキャナ設定ユーティリティを使用しない限り元に戻せないため、削除しないことを推奨します。詳細は、119 ページの「スキャナ設定ユーティリティ」を参照してください。

▶ プロファイルを削除するには

1. VRS インタラクティブ ビューアから、[プロファイル] ー [編集] を選択します。[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. プロファイルのリストから、削除するプロファイルを選択します。複数のプロファイルを一度に削除する場合、複数のプロファイルを選択します。
3. [削除] をクリックします。リストからプロファイル名が削除されます。
4. 削除したプロファイルが使用中の最後のプロファイルであった場合、リストから別のプロファイルを選択し、[ロード] をクリックしてプロファイルをアクティブにしてください。
5. [閉じる] をクリックして、[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスを閉じます。

イメージのプレビュー

プレビュー機能を使用して、スキャンしたサンプル イメージの画質が要求を満たしているかどうか、現在のプロファイルの設定が有効かどうかを確認できます。必要な場合は、プロファイルを調整してください。スキャナが最新の機能をサポートしている場合、プレビュー機能を使用して、色のドロップアウト、JPEG 圧縮、その他の設定をテストすることもできます。プレビュー機能は、ドキュメントのバッチをスキャンする前、またはバッチ間の設定の調整に使用してください。

プレビューを選択すると、最後にスキャンしたイメージが VRS インタラクティブ ビューアに表示されます。このため、プレビュー機能は、スキャンしたイメージが VRS のキャッシュに存在している場合にのみ利用できます（プロダクション ライセンス用のスキャナで VRS を使用している場合、最後のイメージは利用できません）。VRS インタラクティブ ビューアからプロパティの変更を適用すると、プレビュー イメージが更新され、調整したイメージを検証できます。プレビュー イメージへの変更は、スキャニング アプリケーションには送られないことに注意してください。プレビュー機能は、次の場合に起動されます。

- VRS タスクバー メニューから [プレビュー] を選択した場合。
- [QC モード] サブメニューから [最初のページ] を選択した場合。
- TWAIN スキャニング インターフェイスから [プレビュー] チェック ボックスを選択した場合。

VRS インタラクティブ ビューアのウィンドウおよび [ズーム] オプションの使用に関する詳細は、39 ページの「VRS インタラクティブ ビューアの使用」を参照してください。イメージ プロパティの更新に関する詳細は、49 ページの「VRS 調整コントロールの使用」を参照してください。

▶ イメージをプレビューするには

1. バッチでスキャンするドキュメント タイプに似たドキュメントをスキャンします。
2. VRS タスクバー メニューから [プレビュー] を選択します。VRS インタラクティブ ビューアに、スキャンしたイメージが表示されます。
3. ズーム オプションを選択してイメージの倍率を調整します。
4. 必要な場合、VRS 調整コントロールを使用して、イメージ プロパティ設定を調整します。詳細は、49 ページの「VRS 調整コントロールの使用」を参照してください。
5. 更新した設定を後で使用する場合は、プロファイルとして保存します。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。
6. プレビュー イメージの調整が完了したら、VRS 調整コントロールで [OK] を選択します。プロパティ設定が保存され、VRS を使用してスキャンするドキュメントの次のバッチに適用されます。プレビュー イメージはスキャニング アプリケーションには送られず、破棄される点に注意してください。

ステータス情報と分析情報の使用

VRS インタラクティブ ビューアは、イメージのステータス情報と、現在のイメージのプロパティを要約した分析情報を表示します。イメージのステータス情報は、タイトル バーに表示され、" ステータス : OK"、" 明るさの許容範囲外 " のような、現在のイメージのステータスを示します。

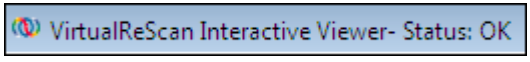


図 2-23 イメージのステータス情報

イメージの分析情報は、VRS インタラクティブ ビューアのステータス バーに表示され、次のプロパティが含まれます。

- サイズ : イメージの大きさをピクセルで表示します。
- 傾き : 検出されたイメージの傾きを角度で表示します。
- 明るさ : 検出された明るさの値をパーセンテージで表示します。
- コントラスト : 検出されたコントラストの値をパーセンテージで表示します。
- 色: 検出されたイメージ タイプ (カラーまたはモノクロ) と信頼度の値 (パーセンテージ) を表示します。パーセンテージは、[色の自動検出] が有効な場合のみ表示されます。
- 斑点: [ノイズ] パネルから [斑点除去] が選択された場合に、イメージから除去されたピクセルの数を表示します。

分析情報は、VirtualReScan 調整コントロールの設定だけでなく、VRS 管理ユーティリティの [警告] タブで、コントラスト、明るさ、色の信頼度の適切なしきい値を識別するのにも役立ちます。ステータス バーの分析情報は編集できません (図 2-24)。

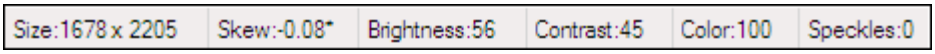


図 2-24 イメージの分析情報

VRS インタラクティブ ビューアの使用

VRS インタラクティブ ビューアでは、スキャンしたイメージが表示され、イメージを確認できます。また、イメージ プロパティへ変更を適用できる VRS 調整コントロールにアクセスすることもできます (49 ページの「VRS 調整コントロールの使用」を参照)。ビューアの目的は、スキャンした際のイメージのプレビューを表示し、変更したイメージを更新することです。

" コア " な VRS 製品から VRS インタラクティブ ビューアは、次の条件で表示されます。

- VRS タスクバー メニューから [プレビュー] を選択した場合。詳細は、36 ページの「イメージのプレビュー」を参照してください。
- インタラクティブに処理するよう定義された例外イメージが検出された場合。詳細は、19 ページの「VirtualReScan 管理ユーティリティの使用」を参照してください。
- アクティブな操作モードが定義されている場合。詳細は、29 ページの「VRS 操作モードの設定」を参照してください。

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用している場合、VRS インタラクティブ ビューアは、次の条件で表示されます。

- VRS サムネイル ビューア メニューから [VRS でイメージを処理] オプションを選択した場合。詳細は、113 ページの「VRS サムネイル ビューアのメニュー バー」を参照してください。
- VRS サムネイル ビューアのツールバーから [イメージを処理] オプションを選択した場合。詳細は、115 ページの「VRS サムネイル ビューアのツールバー」を参照してください。
- [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウの [スキャナ設定] から [詳細 ...] を選択した場合。詳細は、116 ページの「VRS プロフェッショナル スキャン」を参照してください。

VRS インタラクティブ ビューアには、VRS 調整コントロールに加えて、その他のコンポーネント (メニュー、ツールバー、ステータス バー) も含まれています。VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用している場合、次のように、VRS インタラクティブ ビューアの外観は多少異なります。

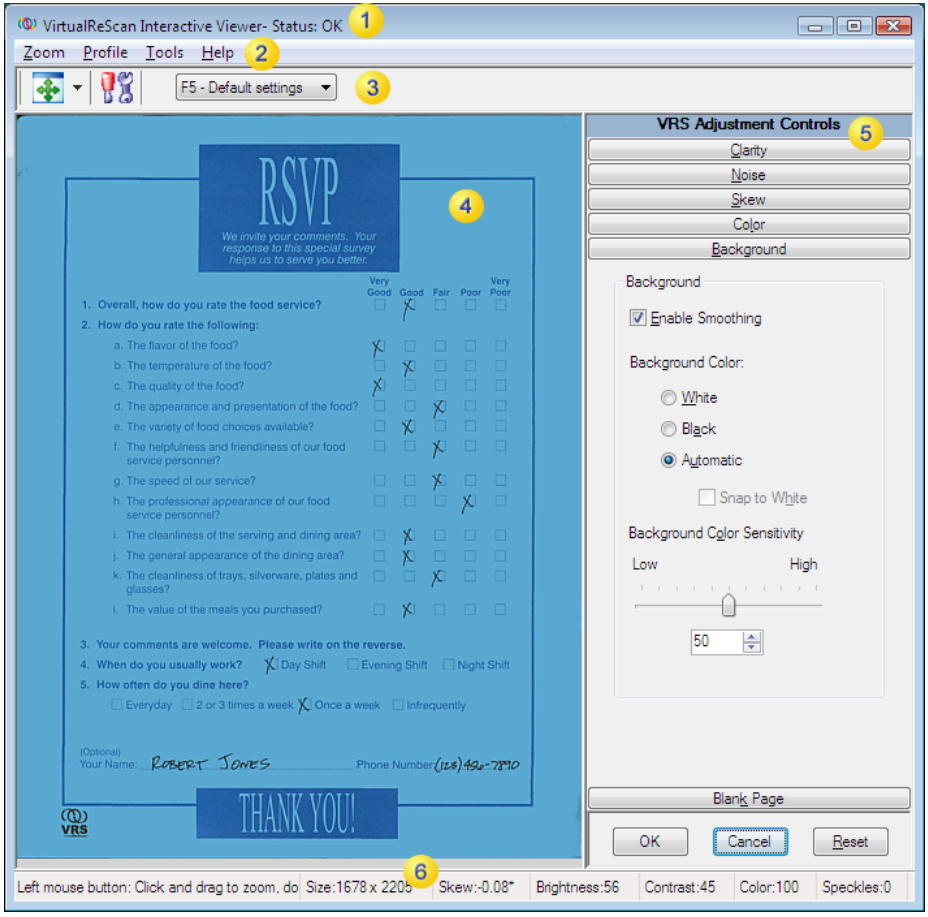


図 2-25 VRS インタラクティブ ビューア

1. イメージのステータス情報 (37 ページ)
2. VRS インタラクティブ ビューアのメニュー バー (43 ページ)
3. VRS インタラクティブ ビューアのツールバー (47 ページ)
4. イメージの表示エリア
5. VRS 調整コントロール (49 ページ)
6. イメージの分析情報 (37 ページ)

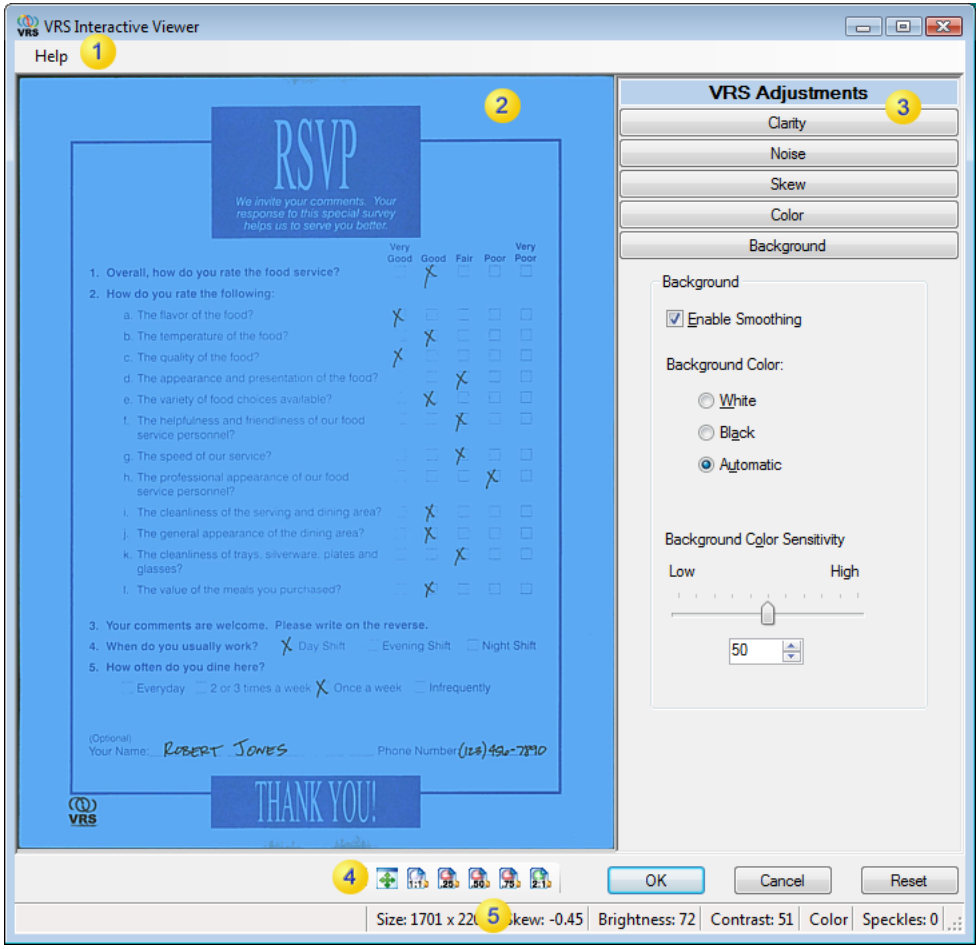


図 2-26 デスクトップ プロダクティビティ 機能が有効な場合の VRS インタラクティブ ビューア

1. VRS インタラクティブ ビューアの [ヘルプ] メニュー (43 ページ)
2. イメージの表示エリア
3. VRS 調整コントロール (49 ページ)
4. ズーム ツールバー (48 ページ)
5. イメージの分析情報 (37 ページ)

スクロール バー

VRS インタラクティブ ビューアのサイズを変更したことでビューアに入らなくなったコントロールは、縦または横スクロールバーを使用して表示できます。

ビューアの管理

VRS インタラクティブ ビューアのサイズと状態は維持されます。

フォーカス

Ctrl + ↓ キーを押して、VRS 調整コントロールで現在選択されているパネルの 1 つ下のパネルにアクセスできます。Ctrl + ↑ キーを押すことで、1 つ前のパネルにアクセスできます。

最小化 / 最大化 / 閉じる

VRS インタラクティブ ビューアの右上に表示される [最小化] ボタン、[最大化] ボタン、[閉じる] ボタンは次のように動作します。

- [最小化] ボタンを選択すると、VRS インタラクティブ ビューアのウィンドウがタスクバーに最小化されます。
- [最大化] ボタンを選択すると、VRS インタラクティブ ビューアのウィンドウが全画面表示されます。
- [閉じる] ボタンを選択すると、[キャンセル] を選択した場合と同じです。

ボタン コントロール

VRS インタラクティブ ビューアでは、3 つのボタン コントロール (OK、キャンセル、リセット) が利用できます。

OK

[OK] をクリックすると、現在の設定をスキャニング アプリケーションに送信します。VRS インタラクティブ ビューアが例外条件によって開かれた場合、問題のイメージに対してのみ設定が適用されます。ビューアが [QC モード] の [最初のページ] や [プレビュー] オプションによって表示された場合、次のスキャンやバッチに対して変更が適用されます。デスクトップ プロダクティビティ機能を使用中に VRS インタラクティブ ビューアにアクセスすると、表示エリアに表示されているドキュメントにのみ設定が適用されます。

キャンセル

[プレビュー] で [キャンセル] をクリックすると、変更を適用せずにダイアログを閉じます。スキャン時に例外が検出された場合、[キャンセル] をクリックすると、(エラー イメージなしで) エラーをスキャニング アプリケーションに返します。バッチのスキャンは停止します。

リセット

[リセット] をクリックすると、変更をクリアして、すべての VRS 調整コントロールの設定を元の値に戻します。[リセット] を選択した後、元の値を更新または保存して続行することができます。

VRS インタラクティブ ビューアのメニュー バー

このセクションでは、VRS インタラクティブ ビューアのメニュー バーから利用できるメニュー コマンドについて説明します。利用できるメニュー コマンドは、VRS ライセンスとスキャナでサポートされている機能によって異なる場合があります。デスクトップ プロダクティビティ機能を使用中は、[ヘルプ] しか利用できません。

表 2-8 VRS インタラクティブ ビューアのメニュー コマンド

メニュー コマンド	説明	キーボードのショートカット
[ズーム] メニュー	[ズーム] メニューを開きます。	Alt+Z
[プロファイル] メニュー	[プロファイル] メニューを開きます。	Alt+P
[プロファイル] ー [名前を付けて保存]	[新規プロファイル] ダイアログ ボックスを開きます。	Alt+P+A Ctrl+N
[プロファイル] ー [保存]	プロファイルを保存します。	Alt+P+S Ctrl+S
[プロファイル] ー [編集]	[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスを開きます。	Alt+P+O Ctrl+O
[ツール] メニュー	[ツール] メニューを開きます。	Alt+T
[ツール] ー [スキャナ ドライバの設定]	[詳細設定] ダイアログ ボックスまたは [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスを開きます。	Alt+T+S
[ツール] ー [プロフェッショナル機能デモを有効にする]	デモ モードの VRS プロフェッショナル機能を有効にします。	Alt+T+P

表 2-8 VRS インタラクティブ ビューアのメニュー コマンド

メニュー コマンド	説明	キーボードのショートカット
[ヘルプ] メニュー	[ヘルプ] メニューを開きます。	Alt+H
[ヘルプ] ー [VRS ヘルプ]	VRS オンライン ヘルプを開きます。	Alt+H+H
[ヘルプ] ー [ユーザーズ ガイド]	PDF 形式の「VRS ユーザーズ ガイド」を開きます (デスクトップ プロダクティビティ機能が有効な場合は利用できません)。	Alt+H+U
[ヘルプ] ー [バージョン情報]	[バージョン情報] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスには、VRS のバージョン情報、ライセンス情報、および Kofax Image Products 社の問い合わせ先情報が表示されます。	Alt+H+V

[ズーム] メニュー

[ズーム] メニューは、VRS インタラクティブ ビューアのイメージの表示エリアに表示されるイメージの倍率を表示します。

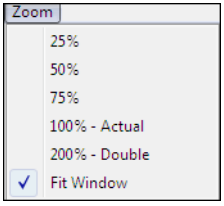


図 2-27 VRS インタラクティブ ビューアの [ズーム] メニュー

[ズーム] メニューからオプションを選択して、VRS インタラクティブ ビューアの左側に表示されるイメージを拡大または縮小して表示できます。また、左右のマウスボタンをクリックして、イメージの表示サイズを調整することもできます。

- マウスの左ボタン操作 :
  - 拡大したい領域をマウスでドラッグして矩形選択し、イメージの一部を拡大表示できます。
  - 標準表示に戻すには、イメージをダブルクリックします。
- マウスの右ボタン操作 :
  - イメージを拡大したら、表示されているイメージの上でボタンを押したままマウスを移動することにより、イメージをスクロールすることができます。

また、VRS インタラクティブ ビューアのツールバーから [ズーム] ツールを使用して、イメージの倍率を調整することもできます。詳細は、47 ページの「[ズーム] ツール」を参照してください。

[プロファイル] メニュー

[プロファイル] メニューで、VRS プロファイルを作成および管理できます。各プロファイルには、VRS 調整コントロールのパネルで設定した情報が保存されています。プロファイルは、イメージの修正と向上のための記憶された対応策のようなものです。VRS のインストールに含まれているデフォルト プロファイルを除き、プロファイルはユーザーが作成します。VRS は、他のプロファイルを選択するまでデフォルト プロファイルを使用します。アクティブなプロファイルの選択は、VRS ユーザーごとに設定されます。

[名前を付けて保存]

新しいプロファイルに名前を付けて保存します。[名前を付けて保存] を選択すると、[新規プロファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使用して、プロファイルの名前を割り当てます。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

[保存]

現在選択されたプロファイルを保存します。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

[編集]

[プロファイルの編集] ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスを使用して、プロファイルを作成したり、既存のプロファイルを編集します。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

[ツール] メニュー

[ツール] メニューのコマンドを使用して、スキャナの詳細設定にアクセスしたり、VRS プロフェッショナル機能のデモを有効にできます。このメニューは、VRS インタラクティブ ビューアがプレビュー モードで表示されているか、または [最初のページ] か [各ページ] 操作モードが選択されている場合にのみ利用できます。

[スキャナ ドライバの設定]

VRS がスキャナとの接続に使用するドライバにアクセスします。[スキャナ ドライバの設定] は、スキャナ ドライバが詳細オプションをサポートしている場合にのみ利用できます。このメニューは、[詳細設定] ダイアログ ボックスまたは [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスを表示します。これらのダイアログ ボックスでは、スキャナに関連した詳細設定を調整できます。利用できるダイアログ ボックスのオプションは、スキャナによって異なります。詳細は、72 ページの「詳細機能の使用」を参照してください。

[プロフェッショナル機能デモを有効にする]

このメニュー コマンドは、VRS 基本ライセンスでのみ利用できます。このメニュー コマンドを使用して、VRS プロフェッショナル機能のデモを有効にできます。このモードが有効になると、VRS プロフェッショナル機能にアクセスできるようになり、スキャンしたイメージには "Kofax Demo Mode" というロゴが挿入されます。詳細は、70 ページの「プロフェッショナル機能デモ」を参照してください。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューを使用して、VRS のオンライン ヘルプやドキュメントにアクセスできます。また、[ヘルプ] メニューから [バージョン情報] ダイアログ ボックスを表示できます。

[VRS ヘルプ]

VRS のオンライン ヘルプを表示します。

[ユーザーズ ガイド]

PDF 形式の「VRS ユーザーズ ガイド」を表示します。デスクトップ プロダクティビティ機能を使用中に VRS インタラクティブ ビューアにアクセスすると、このメニューは利用できません。

[バージョン情報]

[バージョン情報] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスには、VRS のバージョン情報、ライセンス情報、および Kofax Image Products 社の問い合わせ先情報が表示されます。

VRS インタラクティブ ビューアのツールバー

ツールバーの外観は、VirtualReScan インタラクティブ ビューアへのアクセスの仕方によって異なります。

- " コア " な VRS 製品からアクセスすると、スタンダード ツールバーが利用できます。
- VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用中に VRS インタラクティブ ビューアにアクセスすると、スタンダード ツールバーは利用できません。この場合、VRS インタラクティブ ビューア ウィンドウの右下に表示される [ズーム] ツールバーが利用できます。

スタンダード ツールバー

VRS インタラクティブ ビューアのツールバーには、ズームのオプション、スキャナの詳細設定、およびプロファイルのリストへのショートカットが用意されています。

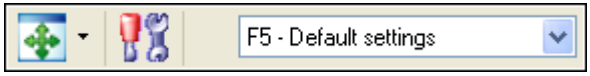


図 2-28 VRS インタラクティブ ビューアのスタンダード ツールバー

[ズーム] ツール

[ズーム] ツールを使用して、イメージの倍率オプションを選択します。これらのオプションは、[ズーム] メニューでも利用できます (44 ページの「[ズーム] メニュー」を参照)。

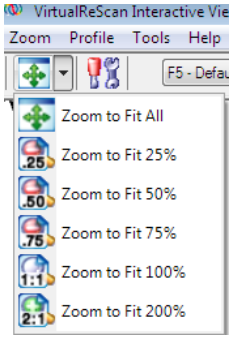


図 2-29 [ズーム] ツールのオプション

[スキャナ ドライバの設定] ツール

このツールを選択して、([詳細設定] ダイアログ ボックスまたは [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの) スキャナの詳細設定を表示します。[スキャナ ドライバの設定] ツールは、スキャナが詳細オプションをサポートしている場合にのみ利用できます。利用できる詳細設定は、VRS のインストール時に指定したスキャナによって異なります。また、[ツール] メニューの [スキャナ ドライバの設定] を使用して詳細設定にアクセスすることもできます。詳細は、72 ページの「詳細機能の使用」を参照してください。



図 2-30 [スキャナ ドライバの設定] ツール

[プロファイルの選択] リスト

このリストを使用して、アクティブなプロファイルを表示または変更します。また、プロファイルは [プロファイルの編集] ダイアログ ボックスか、VRS タスクバー メニューの [プロファイル] サブメニューから選択することもできます。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

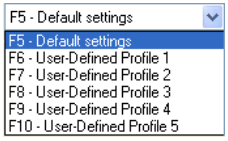


図 2-31 [プロファイルの選択] リスト

ズーム ツールバー

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用中に VRS インタラクティブ ビューアにアクセスすると、[ズーム] ツールバーがビューア ウィンドウの右下に表示されます。



図 2-32 デスクトップ プロダクティビティのズーム ツールバー

ツールバーには、表示エリアでイメージの倍率を調整できるズーム ショートカットが用意されています。

VRS 調整コントロールの使用

VRS 調整コントロールには 6 つのパネルが用意されています。これらのパネルには、イメージのプロパティを調整するためのオプションが含まれています。デフォルトの設定は、" デフォルト設定 " と呼ばれる VRS プロファイルに保存されます。特定のドキュメント タイプ用の最適な調整が見つかったら、デフォルト プロファイルの代わりに使用できる、カスタム プロパティに保存します。詳細は、30 ページの「プロファイルの使用」を参照してください。

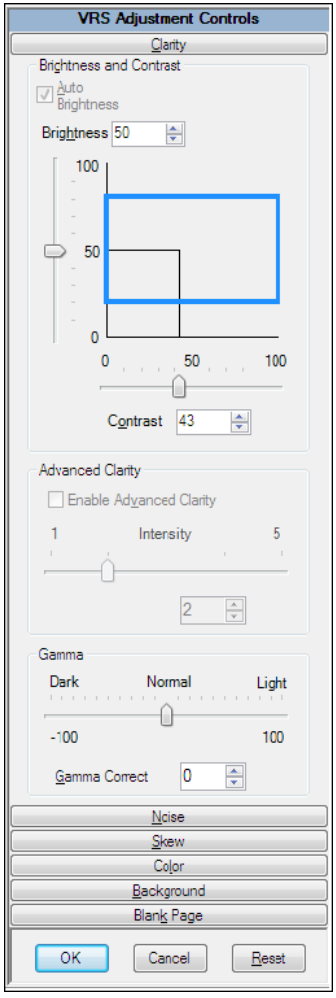


図 2-33 VRS 調整コントロール

[鮮明度] パネルの使用

[鮮明度] パネルには、イメージのコントラスト、明るさ、ガンマ値を調整するオプションがあります。一般に、コントラストの値が高ければ、ドキュメント内のかすれた文字やラインが強調されます。明るさは、イメージの全体的な濃度を増加または減少させるため、明るさのレベルを上げると暗い影を薄くすることができます。ガンマ補正は、不正なガンマ エンコードで作成されたイメージを調整します。

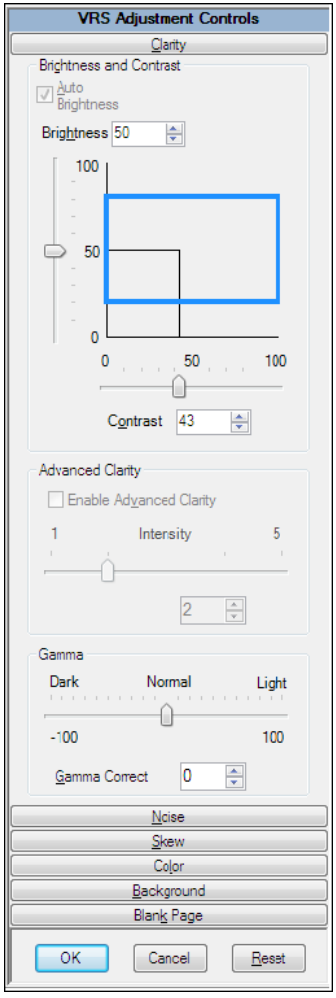


図 2-34 [鮮明度] パネル

明るさとコントラスト

[自動明るさ調整] チェック ボックスが選択されている場合、VRS は、自動的に [明るさ] に最適な値を割り当て、手動で操作できる [明るさ] のスライドと数値テキスト ボックスに値を表示します。[自動明るさ調整] の設定は、カラー モードでスキャンした場合は利用できません。

[明るさ] のスライダを動かしたり、[明るさ] の数値テキスト ボックスへ値を入力したり、[明るさ] ー [コントラスト] のカスタム コントロールをクリックすると、[自動明るさ調整] 機能はオフになります。

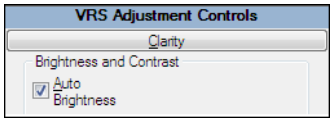


図 2-35 [自動明るさ調整] チェック ボックス

エッジ検出

VRS のエッジ検出は、[コントラスト] スライダで制御します。エッジ検出は、1 つのグレー レベルが、別のレベルへ移行する部分を認識するテクノロジです。グレーのレベルの差異が大きいほど、オブジェクトのエッジははっきりしています。[コントラスト] が低い場合、エッジがはっきりしているオブジェクトのみが黒になり (たとえば、白い背景上の黒い文字など)、かすれた文字やラインは、白い背景から薄いグレーへの移行部分の差異が少ないために現れません。つまり、かすれた文字やラインでは " エッジがはっきりしていない " ということになります。また、背景もグレーのレベルの差異がないため、エッジが明確ではありません。グラデーション部分も、レベルの差異がないため、エッジがはっきりとしていません。

理論的には、たとえば、ドキュメントに貼られた透明テープなど、目に見えないものは、テープと周囲の紙に明らかな移行部分があるため、[コントラスト] を高くすると検出できます。

手動のイメージ調整

前述したとおり、VRS は手動でイメージまたはイメージ設定を調整できます。[鮮明度] パネルを使用してこれを行います。

[明るさ] と [コントラスト] カスタム コントロール

[鮮明度] パネルには、カスタム コントロール (ビジュアル マーカー) が表示され、[明るさ] と [コントラスト] の最適な範囲を特定するのに役立ちます。

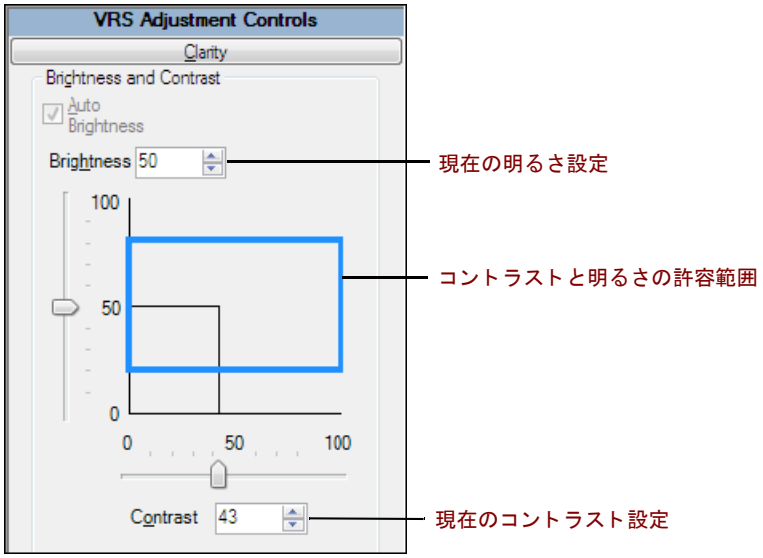


図 2-36 [明るさ] と [コントラスト] カスタム コントロール

[明るさ] と [コントラスト] カスタム コントロールでは、明るさの設定は黒の横線で示され、コントラストの設定は黒の縦線で示されます。[自動明るさ調整] を有効にしている場合、黒色のライン (スライダで調整) は、[自動明るさ調整] を反映して自動的に調整されます。

[明るさ]と [コントラスト]カスタム コントロールでは、検出された [明るさ]と [コントラスト] 値の現在の許容範囲が青色の実線の四角形で示されます。このボックスは、明るさの値とコントラストの値の許容範囲を表します。ボックスは、[明るさ]と [コントラスト] の 50-50 の基準設定を中心に配置され、[VirtualReScan 管理ユーティリティ]ダイアログ ボックスの [明るさ]と [コントラスト] のしきい値を表す境界線です。VRS の検出値を有効にするには、青い四角形の範囲内に値がなければなりません。VRS の検出値が青い四角形の範囲外である場合は、無効なため、警告が出されます。

[明るさ] テキスト ボックス

VRS インタラクティブ ビューアが起動されると、[鮮明度] パネルの明るさの数値テキスト ボックスに現在の明るさの設定が示されます。必要な場合、[明るさ] の数値テキスト ボックスを利用して手動で明るさの設定を変更することができます。[明るさ] は、白黒、グレースケール、カラーのイメージで 0 (非常に暗い) から 100 (非常に明るい) の範囲で設定できます。ただし、手動で明るさを設定すると、白黒モード、グレースケール モード、カラー モード の間では共有されないことに注意してください。白黒モード

で手動による明るさ設定を変更しても、グレースケールまたはカラー モードの手動による明るさ設定には影響しません。これは、VRS がこれらの値を別々に扱うためです。

[コントラスト] テキスト ボックス

VRS インタラクティブ ビューアが起動されると、[コントラスト] タブの [コントラスト] の数値テキスト ボックスに現在のコントラスト設定の値が示されます。[コントラスト] の数値テキスト ボックスを利用して手動でコントラスト値を変更することができます。コントラスト値は、0 (非常に低いコントラスト) から 100 (非常に高いコントラスト) の範囲で設定できます。明るさの設定と同様に、コントラスト設定は、白黒モード、グレースケール モード、カラー モード間では共有されません。各モードでそれぞれコントラスト値を入力する必要があります。

[ガンマ] スライダと [ガンマ補正] テキスト ボックス

[ガンマ]スライダと [ガンマ]の数値テキスト ボックスは、現在のガンマ設定の値を示します。ガンマ値は、-100 (非常に暗いガンマ)から +100 (非常に明るいガンマ) の範囲で設定できます。ガンマは、白黒、グレースケール、カラーイメージ用に設定できますが、白黒イメージとグレースケール イメージでのみ共有できます。これは、VRS の内部では、白黒とグレースケールのガンマに 1 つの値を使用するため、白黒モード でガンマ設定を変更すると、グレースケール モード のガンマ設定も 変更されることを意味します。

ただし、ガンマ設定は、非カラー モードとカラー モードでは共有されません。VRS は、カラー ガンマには専用の値を使用するため、白黒モードでガンマ値を変更しても、カラーのガンマ値は変更されません。

鮮明度の詳細設定 (VRS プロフェッショナルのみ)

[鮮明度の詳細設定] 機能は、明るさやコントラストのしきい値では十分に調整できない、複雑なドキュメントの処理に利用できます。

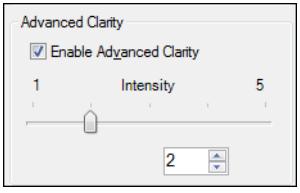


図 2-37 鮮明度の詳細設定

たとえば、VRS のデフォルト設定で搭乗券をスキャンすると、イメージの質が劣化することがあります。これは、背景パターンが濃く、抑制が困難なためです。[鮮明度の詳細設定] を有効にすると、背景を正常にスキャン し、より最適な結果を得られる可能性が高くなります。

特別に調整が必要なドキュメントは、[鮮明度の詳細設定] を有効にしてプロファイルを適用すると、より良い結果が得られることがあります。

[鮮明度の詳細設定] を有効にすると、スライダを左右に使用して度合いを調節できます。1 に設定すると最短時間で処理され、5 (特別な場合) に設定するとより高い設定で処理されます。スライダの代わりに、テキスト ボックスで [鮮明度] を設定することもできます。

メモ [明るさ] または [コントラスト] のスライダを手動で調整すると、[鮮明度の詳細設定] は自動的に無効になります。

▶ [鮮明度] パネルの設定を更新するには

1. VRS 調整コントロールから、[鮮明度] パネルを選択します。
2. 次の**いずれか**を行います。
   - コントラストと明るさを同時に調整するためには、[明るさ]/[コントラスト] の目盛りの境界線内をクリックし、ポインタを挿入します。十字線の中心が明るさとコントラストの値を示します。最良の結果を得るため、青い四角形の内側にポインタを置いてください。
   - コントラストと明るさを別々に設定する場合は、次のステップに進んでください。
3. VRS は、[明るさ] のテキスト ボックスに現行の明るさの設定を表示します。設定を変更するには、次のいずれかを行います。
   - [明るさ] のテキスト ボックスの矢印をクリックして、明るさのレベルを増減させます。
   - [明るさ] のテキスト ボックスをクリックし、値を入力します。
   - [明るさ] のスライダを上下に動かして値を選択します。
   - 明るさに最適な値を自動的に割り当てるには、[自動明るさ調整] チェック ボックスを選択します。[自動明るさ調整] 機能は、グレースケールまたはモノクロ (白黒) のスキャンで利用可能です。

   メモ 明るさの値を変更するとすぐに、[自動明るさ調整] オプションが自動で無効になります。オプションを再び有効にするには、[自動明るさ調整] オプションを選択します。VRS は、自動で再計算し、明るさのレベルを再び適用します。

   ---

4. VRS は、[コントラスト] のテキスト ボックスに現行のコントラスト設定を表示します。設定を変更するには、次のいずれかを行います。
   - [コントラスト] のテキスト ボックスの矢印をクリックして、コントラストのレベルを増減させます。

- [コントラスト] のテキスト ボックスをクリックして、値を入力します。
- [コントラスト] のスライダを左右に動かして値を選択します。

5 [鮮明度の詳細設定を有効にする] チェック ボックスを選択すると、調整が必要なドキュメントに対して、最適な [明るさ] および [コントラスト] が設定され、処理されます。

メモ [鮮明度の詳細設定] は、モノクロでスキャンされるドキュメントに対してのみ利用可能です。また、カラー モードでスキャンされ、[色の自動検出] 機能でモノクロとして出力されるドキュメントに対しても利用できます。詳細は、62 ページの「[色] パネルの使用」を参照してください。

---

6 [鮮明度の詳細設定] を有効にすると、次のようにスライダを左右に動かして必要な鮮明度を設定できます。

- 最短時間で処理するには、スライダを左 (1 の方向) に動かします。
- より高めの設定で処理するには、スライダを中間 (3 の方向) に動かします。
- 最良の設定で処理するには、スライダを右 (5 の方向) に動かします (特別な場合)。

メモ デフォルト設定は、一般的なドキュメント タイプに適切な 2 です。設定を変更すると、別の設定を使用するプロファイルを適用するか、次回設定を変更するまで、その設定が使用されます。

---

7 スライダの代わりに、テキスト ボックスで [鮮明度] を設定することもできます。次の**いずれか**を行って 1 から 5 までの値を指定してください。

- テキスト ボックスをクリックし、値を入力します。
- テキスト ボックスの矢印をクリックして、値を増減させます。

メモ [鮮明度の詳細設定] を有効にした後に、[明るさ] または [コントラスト] の値を手動で調整すると、[鮮明度の詳細設定] は無効になります。

---

8 VRS は、[ガンマ補正] テキスト ボックスにガンマ補正の設定を表示します。補正値の範囲は、[暗い] から [明るい] まであり、中間が [普通] です。設定を変更するには、次のいずれかを行います。

- [ガンマ補正] のテキスト ボックスの矢印をクリックして、ガンマのレベルを増減させます。
- [ガンマ補正] テキスト ボックスをクリックし、値を入力します。
- [ガンマ] のスライダを左右に動かして値を選択します。

9 [OK] をクリックします。

[ノイズ] パネルの使用

[ノイズ] パネルのフィルタを使用して、画質を向上したり、不要な斑点を除去できます。また、[パンチ穴を埋める] オプションを使用して、穴の部分をその周りの背景色で埋めることもできます。

[ノイズ] パネルで調整した設定は、VRS インタラクティブ ビューアで表示されたイメージに適用されます。また、目的の基準に達成するまでイメージの設定を微調整することができます。

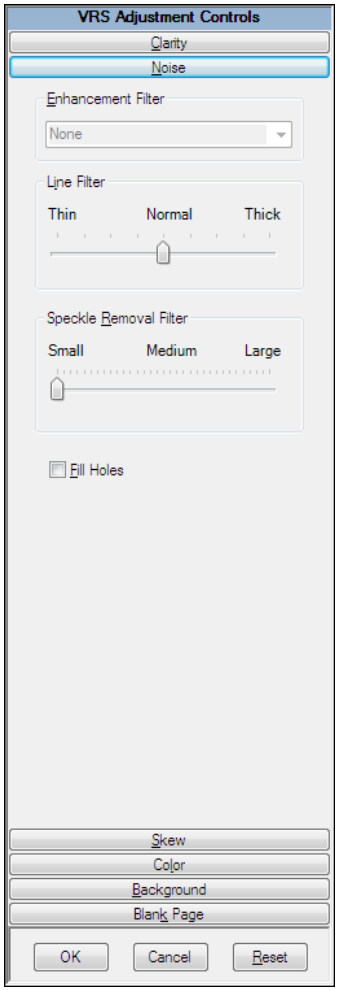


図 2-38 [ノイズ] パネル

ドキュメントからノイズを除去する

ドキュメントからノイズを除去する場合、次の一般的なルールに従ってください。

- 異なる品質のドキュメントが混在したバッチの場合は、[斑点除去フィルタ] を使用しないでください。ドキュメントの情報が失われる場合があります。
- ノイズが、裏側から浮き出たテキストや背景パターンにより浮き出されたもの (たとえば、搭乗券でよく見られるパターンなど) である場合、[鮮明度] パネルからコントラストを下げてください。ノイズを除去している最中にテキストが見えなくなってきたら、[明るさ] スライダを下げて補います。
- ノイズが影のある背景、グラデーション、暗い色の紙により生成された場合は、[鮮明度] パネルから明るさを上げてください。
- 同じ品質のドキュメントが 1、2 種類しかない場合、さまざまな [斑点除去フィルタ] のレベルを試してください。
- [斑点除去フィルタ] を低いレベルに設定しても、文字の一部が消えてしまう場合は、混合バッチのルールを適用してください。

[パンチ穴を埋める]

ページをスキャンする際に、ノートにあるパンチ穴やトラクタ フィードの穴の部分をスキャンしたくない場合、[パンチ穴を埋める] チェック ボックスを選択すると、自動的に穴の部分をその周りの背景色で埋めることができます。

メモ この機能は、黒の背景色のイメージを作成するスキャナでのみ利用できます。

▶ [ノイズ] パネルの設定を更新するには

1. VRS 調整コントロールから [ノイズ] パネルを選択します。
2. [ライン フィルタ] スライダを使用して、イメージの要素に適用する [細い]/[太い] を選択します。
   - 膨らんだイメージ要素や、混合したイメージ要素を細くするには、スライダを [細い] に向かって動かします。
   - 細すぎたり、薄すぎるイメージ要素には、スライダを [太い] 方向に向かって動かします。
3. [斑点除去フィルタ] のスライダで、不要な黒い斑点を取り除きます。
   - 小さな斑点の除去によって目的の画質になる場合は、スライダを [小] の方向に動かします。
   - 中、小の斑点の除去によって目的の画質になる場合は、スライダを [中] の方向に動かします。

- 大、中、小の斑点の除去によって目的の画質になる場合は、スライダを [大] の方向に動かします。スライダを極端に右 ([大] の方向) に動かすと、テキストの認識に影響を及ぼします。

4 穴の部分 (ノートにある穴など) を、その周りの色で置換するには、[パンチ穴を埋める] を選択します。

5 [OK] をクリックします。

[傾き] パネルの使用

[傾き] パネルを使用して、[自動傾き補正]、[自動クロップ]、[エッジ クリーン]、および [自動の向き] を制御する設定を選択できます。[自動の向き] を使用すると、異なる向きでスキャンされたページを自動的に回転できます。また、[傾き] パネルは手動でイメージの傾き補正を行うためのオプションも提供します。

イメージは、角度調整アームを使用して 360 度まで時計回り、または反時計回りに回転できます。また、[傾き補正] チェック ボックスを選択すると、自動的に傾きを補正できます。必要に応じて、[角度の微調整] スライダを使用して角度を細かく調整できます。[角度] ボックスが 0.00 を表示している場合、オリジナルのスキャン イメージが表示されます。

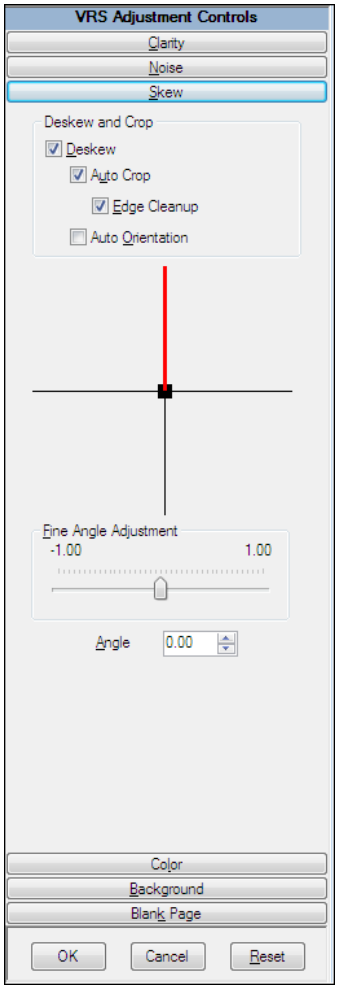


図 2-39 [傾き] パネル

[傾き補正] オプション

傾いている (曲がっている) イメージを自動的に補正するには、[傾き補正] オプションを使用します。黒または白の背景色を作成するスキャナでは、最良の結果を得ることができます。

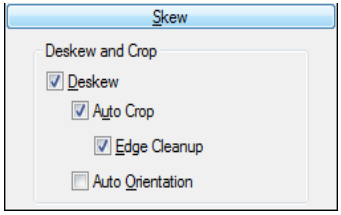


図 2-40 [傾き] パネル - [傾き補正] と [クロップ] オプション

[自動クロップ] と [エッジ クリーン] オプション

自動的に各ページをオリジナルのページ サイズにクロップするには、[自動クロップ] オプションを使用します。自動クロップは、正確な光学式文字認識 (OCR) を行えるよう、各イメージの正確な範囲を取得するのに重要です。自動的に黒い境界線をイメージから削除するには、[エッジ クリーン] を使用します。これは、自動クロップとは異なり、実際のサイズにイメージをクロップしません。その代わり、イメージの周囲にある黒いピクセルを白いピクセルに置換し、VRS 自動クロップで決められたイメージ サイズの幅と長さを維持します。

自動の向き

[自動の向き] チェック ボックスを選択して、自動的にページの回転を行います。この機能を有効にすると、VRS は異なる向きでスキャンされたページを自動的に回転できます。その結果、イメージをスキャンした後に手動で回転する必要がなくなります。この機能を使用した場合、バッチに含まれたドキュメントを事前に同じ向きで揃える必要はありません。[自動の向き] を有効にすると、VRS はスキャナのフィーダーにセットしたドキュメントの向きを、スキャン時に必要に応じて自動的に揃えます。

メモ [自動の向き] は、詳細機能をサポート するいく つかのスキャナで利用可能な回転オプショ ンと 競合する 可能性があり ます。これらのスキャナで VRS を使用する場合、どちらかのオプショ ンを無効にしてく ださい。詳細は、156 ページの「[回転] パネル」を参照してく ださい。

▶ [傾き] パネルの設定を変更するには

1. VRS 調整コントロールから、[傾き] パネルを選択します。
2. 任意の [傾き補正] および [クロップ] オプションを選択します。
3. 異なる向きでスキャンされたページを検出して自動的に回転させるには、[自動の向き] を選択します。

4 [自動傾き補正] が選択されていない場合、グリッドをクリックし、角度調整アームを使用してイメージをまっすぐにできます。また、次の方法でも傾きを補正できます。

   a マウスを縦のアーム上に置き、クリックしたままの状態にします。カーソルが、ハンドに変わります。

   b イメージを左に回転するには、ドラッグしてアームを反時計回りに回転させます。イメージを右に回転するには、時計回りに回転させます。イメージは、360 度まで回転できます。

5 必要に応じて、[角度の微調整] スライダを使用して、次のように傾きを 1 度以下の細かい角度で微調整できます。

   a スライダを左端まで動かすと、反時計回りで 1 度、角度を調整したことになります。

   b スライダを右端まで動かすと、時計回りで 1 度、角度を調整したことになります。

   c スライダを、0 と左端の間、あるいは 0 と右端の間に動かすと、1 度よりも少ない角度を調整したことになります。スライダの 1 目盛りは、0.05 度の角度を表します。

6 [OK] をクリックします。

[色] パネルの使用

[色] パネルを使用して、[色の自動検出] やイメージの処理に関連した設定を指定します。[色の自動検出] は、イメージに色コンテンツが含まれているかを確認します。色コンテンツが検出されなかった場合、ドキュメントはモノクロ イメージとして処理されます。[色の自動検出] を使用する前に、実際にスキャンするドキュメントに似たサンプル ドキュメントで設定をテストすることを推奨します。[色の検出感度] と [色領域の検出感度] の設定は、[色の自動検出] での処理に直接影響します。

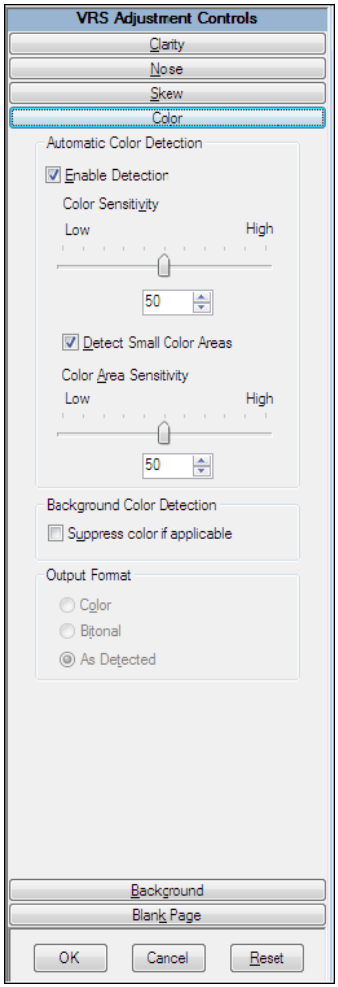


図 2-41 [色] パネル

メモ [色] パネルは、VRS のライセンス、スキャナ、およびアクティブなスキャン モード によっては利用できない場合があります (カラー モード でのみ利用可能です)。

▶ [色] パネルのオプションを設定するには

1. VRS 調整コントロールから、[色] パネルを選択します。
2. [色の自動検出] を有効にする場合は、[検出を有効にする] チェック ボックスを選択します。このチェック ボックスが選択されていない場合、カラー モードでスキャンすると、ドキュメントの色コンテンツにかかわらず、常にカラー イメージが出力されます。
3. 次のいずれかの方法で、[色の検出感度] の設定を調整します (値の範囲は 1 から 100 です)。
   - スライダを左に動かすと、カラー ドキュメントを検出するレベルを下げます。
   - スライダを右に動かすと、カラー ドキュメントを検出するレベルを上げます。
   - テキスト ボックスの矢印をクリックして、[色の検出感度] の値を増減させます。
   - [色の検出感度] のテキスト ボックスをクリックし、値を入力します。
4. 通常ならば検出されないドキュメントに含まれたわずかな色領域 (たとえば、日付のスタンプや蛍光ペンの線など) を検出する場合は、[小さい色領域を検出する] チェック ボックスを選択します。このチェック ボックスが選択されていない場合、スキャナはこれらの色を検出しない可能性があります。
5. 次のいずれかの方法で、[色領域の検出感度] の設定を調整します (値の範囲は 1 から 100 です)。
   - スライダを左に動かすと、わずかな色領域を検出するレベルを下げます。
   - スライダを右に動かすと、わずかな色領域を検出するレベルを上げます。
   - テキスト ボックスの矢印をクリックして、[色領域の検出感度] の値を増減させます。
   - [色領域の検出感度] のテキスト ボックスをクリックし、値を入力します。
6. [背景色の検出] から [色を抑制する] を選択して、モノクロ イメージの背景色を抑制します。

   メモ [背景色の検出] 機能は、VRS で使用するスキャナによっては利用できない場合があります。

7. [出力形式] 設定を使用して、[色の自動検出] の結果を上書きすることができます。これらの設定は、バッチに含まれた現在のイメージにのみ適用され、

[色の自動検出] が有効な場合にのみ利用することができます。次のオプションを選択できます。

- カラー : 色の自動検出処理による結果にかかわらず、イメージはカラーとして処理されます。
- モノクロ : 色の自動検出処理による結果にかかわらず、イメージはモノクロとして処理されます。
- 検出された形式 : 色の自動検出処理による結果に従ってイメージの色は処理されます。これはデフォルト設定です。

8 変更した設定を保存しない場合、[リセット] をクリックしてデフォルト値に戻すことができます。デフォルト値に戻した後は、値を更新または保存して続行することができます。

[背景] パネルの使用

[背景] パネルでは、VRS で処理されるカラー イメージの背景領域を設定します。[背景] パネルのオプションを使用して、背景領域を黒、白、または検出した背景色の均一色に変更できます。

メモ [背景] パネルは、VRS のライセンス、スキャナ、およびアクティブなスキャン モード によっては利用できない場合があります (カラー モード でのみ利用可能です)。

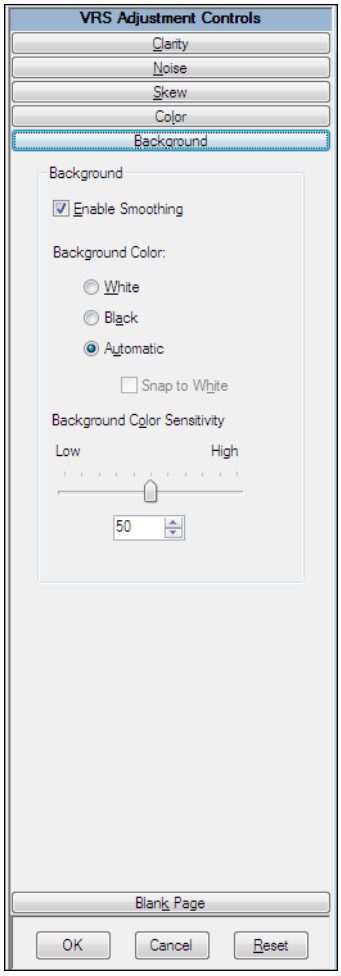


図 2-42 [背景] パネル

▶ [背景] パネルのオプションを設定するには

1. VRS 調整コントロールから、[背景] パネルを選択します。
2. カラー イメージの背景を変更する場合は、[スムージング] チェック ボックスを選択して、背景のスムージング機能を有効にします。このチェック ボックスが選択されていない場合、カラー イメージの背景領域は変更されません。
3. カラー イメージの背景色を処理するオプションを選択します。
   - 白：背景色をすべて白に変更します。

- 黒 : 背景色をすべて黒に変更します。
- 均一色 : 背景のピクセルを均一色に変更します。この均一色は、検出された背景色の均一色です。このオプションは、背景色の種類が少ない場合にのみ適切です。

メモ [自動] を選択すると、スキャンしたドキュメントの背景領域から検出された色によって結果は異なります。

4 [自動] オプションを選択した場合、結果は [白を優先] の設定によって異なります。
- [白を優先] が選択されていて、背景色が白に近い場合、背景色は白で統一されます。
- [白を優先] が選択されていて、背景色が白に近くなかった場合、背景色はスキャナが決定した均一色で統一されます。
- [白を優先] が選択されていなかった場合、背景色は検出された背景色の均一色によって統一されます。

メモ [白を優先] は、すべてのスキャナで利用できるわけではありません。

5 [背景色の感度] 設定を変更するには、次のいずれかを行います。
- スライダを左に動かして、カラー ドキュメントで処理を行う背景領域のレベルを下げます。この値が低い場合、ピクセルがイメージの背景の一部として処理される可能性が下がります。
- スライダを右に動かして、カラー ドキュメントで処理を行う背景領域のレベルを上げます。この値が高い場合、ピクセルがイメージの背景の一部として処理される可能性が上がります。
- テキスト ボックスの矢印をクリックして、[背景色の感度] の値を増減させます。
- [背景色の感度] のテキスト ボックスをクリックし、値を入力します。

6 [OK] をクリックします。

[空白ページ] パネルの使用

[空白ページ] パネルを使用して、空白ページを自動的に検出し削除する機能を有効にできます。この機能は、両面モードのバッチ スキャンで特に役立ちます。VRS は、コンテンツの評価に基づいて検出した空白ページを削除します。

[検出感度] の設定では、ページのコンテンツを検出する感度を指定します。たとえば、斑点などのわずかなコンテンツを無視するよう設定することができます。[空白ページの検出] が有効な場合は、斑点しか含まれていないページを空白ページとして処理し削除できます。また、わずかなコンテンツを検出するよう設定することも

できます。その結果、斑点しか含まれていないページは検出され、空白ページとして削除されなくなります。VRS がページのコンテンツを評価する際に、背景色は無視されます。

この検出感度の設定によっては、穴の部分 (ノートにあるパンチ穴など) が用紙の端にある場合、空白ページを正しく検出できないことがあります。この問題は、[パンチ穴を無視する] オプションを選択することで回避できます。このオプションを選択すると、ページの端に穴の部分があっても、空白ページを検出することができます。

いくつかのスキャナやスキャニング アプリケーションには、空白ページを削除する機能が既に備わっています。これらのスキャナで VRS を使用する場合は、どちらかの機能を無効にしてください。最良の結果を得るには、VRS の機能を有効にすることを推奨します。

ImageControls スキャニング アプリケーションと共に VRS を使用している場合、削除なしで空白ページの検出を有効にできます。この場合、空白ページが検出されると、VRS からスキャニング アプリケーションに通知されます。VRS は、ページを削除する代わりにスキャニング アプリケーションへ送信し、ページはそこで指定されている設定に応じて処理されます。

[QC モード] が [最初のページ] に設定されていると、最初のページが空白の場合、VRS インタラクティブ ビューアで、空白ページとして検出されるか、削除されるページとして認識されます。同様に、[QC モード] が [各ページ] に設定されていると、VirtualReScan インタラクティブ ビューアで表示される空白ページはすべて認識されます (図 2-44)。削除されない空白ページは、スキャニング アプリケーションに送られます。

空白ページの検出によってページが削除されると、他の理由で生成された例外などを含む、そのページのすべての例外が無視され、キャンセルされます。空白ページの裏面のイメージに関連する例外は、通常どおり処理されます。

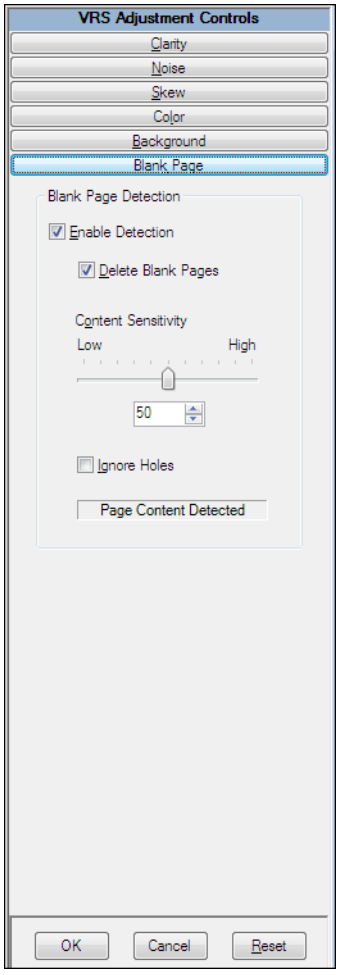


図 2-43 [空白ページ] パネル

▶ 空白ページの検出を有効にするには

1. バッチでスキャンするドキュメント タイプに近い空白のドキュメントをスキャンし、VRS タスクバー メニューから [プレビュー] を選択します。
2. VRS 調整コントロールから、[空白ページ] パネルを選択します。
3. [検出を有効にする] チェック ボックスを選択して、空白ページの自動検出を有効にします。[空白ページの検出] チェック ボックスを選択して、空白ページの自動削除を有効にします。

メモ 削除なしの空白ページの検出は、ImageControls ベースのスキャニング アプリケーションではサポートされていますが、ISIS または TWAIN ベースのスキャニング アプリケーションではサポートされていません。

4 [検出感度] の設定では、ページのコンテンツを検出する感度を指定します。利用できる値の範囲は 1 から 100 です。この値を高くすると、ページに散らばったわずかなコンテンツも検出されるようになるため、このページは空白ページとして処理されません。この値を低くすると、ページに含まれたわずかなコンテンツが検出されなくなるため、このページは空白ページとして処理されます。次のいずれかの方法で、[検出感度] の設定を調整します。

- スライダを左に動かして、ページに含まれたわずかなコンテンツを検出するレベルを下げます。
- スライダを右に動かして、ページに含まれたわずかなコンテンツを検出するレベルを上げます。
- テキスト ボックスの矢印をクリックして、[検出感度] の値を増減させます。
- [検出感度] のテキスト ボックスをクリックし、値を入力します。

" コンテンツを検出 " または " 空白ページを検出 " メッセージは、[検出感度] の設定に基づいて VRS がイメージを空白ページとして処理するかどうかを示しています。また、[検出感度] の設定を調整して、VRS がページのコンテンツを検出するしきい値を設定することもできます。

5 ページが空白かどうかを判断する際に穴の部分を無視する場合は、[パンチ穴を無視する] チェック ボックスを選択します。これが選択されていないと、ページの端にある穴以外が空白であるページが、空白ページとして認識されない可能性があります。

6 [OK] をクリックします。

メモ 空白ページの検出によってページが削除されると、他の理由で生成された例外などを含む、そのページのすべての例外が無視され、キャンセルされます。空白ページの裏面のイメージに関連する例外は、通常どおり処理されます。

ビューアでの空白ページの表示

空白ページを削除する機能を有効にすると、空白ページは自動的に削除され、ビューアには表示されません。ただし、[QC モード] を [最初のページ] または [各ページ] に設定すると、スキャン処理は停止され、設定したページが表示されます。ページが空白の場合は、イメージの表示エリアに検出されたこと、または削除されることを示すメッセージと共に表示されます (図 2-44)。QC モードが [エラー時] に

設定されていると、空白ページの裏面に関連する例外が発生した場合も、ビューアで空白ページが表示されます。削除されない空白ページは、スキャニング アプリケーションに送られます。

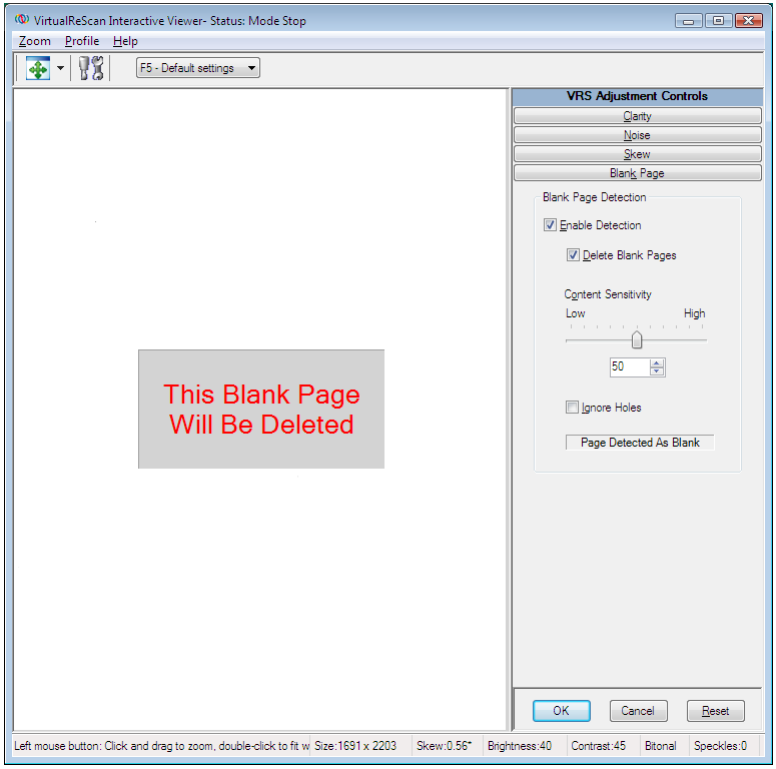


図 2-44 空白ページが削除されることを示すメッセージ

プロフェッショナル機能デモ

[ツール] メニューの [プロフェッショナル機能デモを有効にする] は、VRS 基本ライセンスでのみ表示されます。VRS デスクトップ、ワークグループ、またはプロダクション ライセンスでは、機能制限のない VRS プロフェッショナル機能がインストールされます。[プロフェッショナル機能デモを有効にする] を使用して、VRS プロフェッショナル機能のデモを有効にできます。このモードを有効にすると、VRS プロフェッショナル機能にアクセスできるようになり、スキャンしたイメージには、"Kofax Demo Mode" というロゴが挿入されます。

VRS プロフェッショナル機能のデモが有効になると、VRS インタラクティブ ビューアの VRS 調整コントロールに新しく 3 つのパネル ([色]、[背景]、[空白ページ]) が追加されます。

メモ VRS プロフェッショナル機能デモ モードで [色] パネルおよび [背景] パネルにアクセスするには、スキャニング アプリケーションでカラーでスキャンするように設定する必要があります。

このデモを終了すると、VRS 調整コントロールに追加されたパネルが削除され、[鮮明度]、[ノイズ]、[傾き] パネルにのみアクセスできます。[色] パネル、[背景] パネル、[空白ページ] パネルのオプションは利用できなくなります。

▶ プロフェッショナル機能デモを有効にするには

1. [ツール] メニューから [プロフェッショナル機能デモを有効にする] を選択します。このメニュー コマンドの隣に、デモが有効であることを示すチェック マークが付きます。
2. VRS プロフェッショナル機能デモがアクティブになっていることを確認するメッセージで [OK] をクリックします。
3. VRS インタラクティブ ビューアの VRS 調整コントロールに新しく 3 つのパネル ([色]、[背景]、[空白ページ]) が追加されます。

   メモ スキャニング アプリケーションでカラーでスキャンするように設定されていると、[色] パネルおよび [背景] パネルを利用できます。

4. スキャンしたすべてのイメージに "Kofax Demo Mode" というロゴが挿入されていることを確認してください。
5. ライセンスをアップグレードして、機能制限のない VRS プロフェッショナル機能を使用するには、Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] − [Kofax VRS] − [VRS のアップグレード] を選択します。詳細は、VRS のオンライン ヘルプを参照してください。

   メモ VRS プロフェッショナル機能デモは、スキャニング アプリケーションを終了するまで有効です。

▶ VRS プロフェッショナル機能デモ モードを終了するには

1. VRS プロフェッショナル機能デモが有効な状態で、[ツール] メニューから [プロフェッショナル機能デモを有効にする] を選択します。デモが無効になり、このメニュー コマンドの隣に表示されていたチェック マークが消えます。

2 VRS 調整コントロールは更新され、[色] パネル、[背景] パネル、[空白ページ] パネルのオプションは利用できなくなります。VRS プロフェッショナル機能デモ モードを終了後、これらのパネルを利用しようとすると、VRS プロフェッショナル ライセンスが必要であること示すメッセージが表示されます。メッセージには、VRS プロフェッショナル ライセンスを購入できる [VRS のアップグレード] ダイアログ ボックスへのリンクが含まれています。

[鮮明度]、[ノイズ]、[傾き] パネルは利用できます。

3 デモが無効な状態でスキャンされたイメージには、"Kofax Demo Mode" というロゴは挿入されません。

詳細機能の使用

VRS インタラクティブ ビューアでは、詳細機能を使用できます。スキャナが詳細機能をサポートしている場合、[スキャナ ドライバの設定] オプションを使用して、次のいずれかのダイアログ ボックスにアクセスできます。

- [詳細設定] ダイアログ ボックス : ページのレイアウト、JPEG 圧縮、およびその他のカスタム機能に関連したオプションにアクセスできます。
- [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス : エンドーサ、カラーイメージの処理、四角形のピッキング、および回転に関する設定オプションを指定できます。

[スキャナ ドライバの設定] オプションを選択してアクセスできるダイアログ ボックスは、VRS 用に設定されているスキャナによって異なります。[スキャナ ドライバの設定] オプションは、次の条件を満たしている場合にのみ利用できます。

- スキャナまたはスキャナ ドライバが詳細機能をサポートしている場合。
- プレビュー モードで VRS インタラクティブ ビューアを開いている場合。

メモ 詳細機能を使用する場合は、注意が必要です。一部の機能は、VRS の最良のパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。

▶ VRS インタラクティブ ビューアから詳細機能にアクセスするには

1 サンプル イメージをスキャンします。

2 VRS タスクバー メニューから [プレビュー] を選択して VRS インタラクティブ ビューアを開きます。

3 VRS インタラクティブ ビューアから次の**いずれか**を行います。

- [ツール] メニューから [スキャナ ドライバの設定] を選択します。
- ツールバーから [スキャナ ドライバの設定] アイコンを選択します。

メモ スキャナ ドライバが詳細機能をサポートしていない場合、[スキャナ ドライバの設定] メニュー コマンドまたはツールバー オプションは利用できません。

4 VRS 用に設定されているスキャナによって、次のいずれかのダイアログ ボックスが表示されます。
- [詳細設定] ダイアログ ボックス
- [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス

メモ [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスに関する詳細は、147 ページの「詳細設定プロパティ」を参照してください。

自動修正マネージャの使用

自動修正マネージャを使用して、デバイスの競合や用紙搬送の問題などの VRS 例外条件を処理できます。VirtualReScan 管理ユーティリティの [エラー] タブの動作タイプで [自動修正] または [手動修正] が指定されている例外条件が発生すると、VRS は [自動修正マネージャ] ダイアログ ボックスを開きます。動作タイプに [自動修正] が選択されている場合、自動修正マネージャが自動モードで開きます。動作タイプに [手動修正] が選択されている場合、自動修正マネージャが手動モードで開きます。

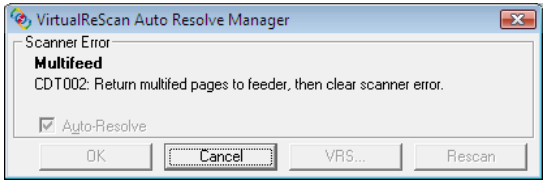


図 2-45 自動修正マネージャ

自動修正マネージャは、例外条件とその対処方法を説明するテキストを表示します。また、例外条件によっては、例外の原因となったイメージも表示されます。

[自動修正マネージャ] ダイアログ ボックスのオプションは、アクティブ モード (自動または手動) によって異なります。

- **OK - 自動モード :** 自動修正マネージャが自動モードで開かれた場合 (動作タイプが [自動修正] の場合)、[OK] ボタンはグレー表示になります。VRS は例外条件が解決されると、自動的にスキャン処理を再試行します。
- **OK - 手動モード :** 自動修正マネージャが手動モードで開かれた場合 (動作タイプが [手動修正] の場合)、デバイスの競合や用紙搬送の問題を手動で解決す

る必要があります。問題を解決した後、[OK] ボタンをクリックして " そのまま " でイメージを受け付けます。イメージは、スキャニング アプリケーションに送られ、スキャン処理が続行されます。

- **キャンセル :** バッチを停止するか、またはスキャン処理をキャンセルします。[キャンセル] を選択すると、エラー情報がスキャニング アプリケーションに送られます。エラーの原因となったイメージは、スキャニング アプリケーションには送られません。
- **再スキャン (手動モードのみ):** ドキュメントをスキャナに再ロードした後、ドキュメントを再スキャンします。

Kofax VRS プログラム フォルダ

Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] ー [Kofax VRS] を選択します (図 2-46)。

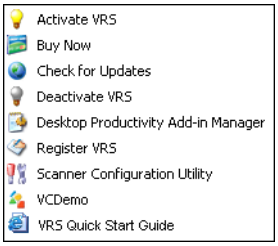


図 2-46 VRS プログラム フォルダ

Kofax VRS プログラム フォルダ内の機能は、製品ライセンスのステータスによって異なります。

VRS のアクティベーション

VRS プロフェッショナル ライセンスのアクティベーションを行います。このメニュー コマンドを選択すると、[VRS のアクティベーション] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使用して、ライセンス コードをリクエストします。VRS プロフェッショナル機能を使用したり、製品アップデートやテクニカル サポートを利用するには、VRS プロフェッショナル ライセンスのアクティベーションを行う必要があります。詳細は、VRS のヘルプまたは「VRS インストール ガイド」を参照してください。

VRS のアクティベーション解除

VRS 製品ライセンスのアクティベーションを解除し、削除します。VRS をアンインストールする場合は、後で同じコンピュータに再インストールする場合を除き、製品ラインセンスのアクティベーションを解除して下さい。詳細は、VRS のヘルプまたは「VRS インストール ガイド」を参照してください。

VRS の登録

VRS 基本ライセンスの登録を行います。このメニュー コマンドを選択すると、[VRS の登録] ダイアログ ボックスが表示され、登録を行うことができます。テクニカル サポートを利用するには、VRS 基本ライセンスのアクティベーションを行う必要があります。詳細は、VRS のヘルプまたは「VRS インストール ガイド」を参照してください。

今すぐ購入

VRS を評価モードで実行している場合は、このメニュー コマンドを使用して、VRS の製品ライセンスを購入します。このメニュー コマンドを選択すると、[VRS の購入] ダイアログ ボックスが表示され、製品を購入するための Kofax Web サイトにアクセスできます。このメニュー コマンドは、VRS をデモ モードまたは評価モードで実行している場合に利用できます。詳細は、VRS のヘルプを参照してください。

今すぐアップグレード

VRS ライセンスのアップグレードを行います。このメニュー コマンドを選択すると、[VRS のアップグレード] ダイアログ ボックスが表示され、ライセンスのアップグレードを購入するための Kofax Web サイトにアクセスできます。このメニュー コマンドは、プロダクション ライセンスよりも下位のライセンスで VRS を実行している場合に利用可能です。詳細は、VRS のヘルプを参照してください。

アップデートの確認

VRS 製品のアップデートをダウンロードします。この機能を利用するには、VRS プロフェッショナル ライセンスのアクティベーションを行う必要があります。詳細は、VRS のヘルプまたは「VRS インストール ガイド」を参照してください。

VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャ

このメニュー コマンドを使用して、VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を有効または無効にする VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャを

表示します。詳細は、VRS のヘルプまたは 78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

スキャナ設定ユーティリティ

スキャナ設定ユーティリティを起動します。スキャナ設定ユーティリティは、スキャンまたはファイル インポートのソースとデフォルトの VRS スキャナを設定します。詳細は、119 ページの「スキャナ設定ユーティリティ」を参照してください。

VCDemo

VCDemo を起動します。VCDemo は、VRS と共に自動的にインストールされる ImageControls ベースのデモ用スキャニング アプリケーションです。詳細は、「VRS インストール ガイド」の VCDemo のセクションを参照してください。

VRS クイック スタート ガイド

VRS 機能の基本的な操作手順 Ã 説明を表示します。詳しい操作手順については、VRS のヘルプまたはこのガイドを参照してください。

第 3 章

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能

はじめに

この章では、VRS デスクトップ プロダクティビティ機能の使用方法を説明します。この機能により、一般的な電子メール アプリケーションや Windows デスクトップ、Windows エクスプローラから VRS スキャン機能を利用できるようになります。この機能を使用して、次の操作を行うことができます。

- 電子メールから直接スキャン：メッセージの作成画面からドキュメントをスキャンして、添付することができます。
- Windows デスクトップまたは Windows エクスプローラから直接スキャン：コンテキスト メニューにあるオプションを使用して、ドキュメントをスキャンし、Windows デスクトップや Windows エクスプローラのフォルダに保存することができます。

これらの機能は、アクティベーションを行うと利用できるようになります。別途スキャニング アプリケーションは必要ありません。詳細は、78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能は、VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャからアクティベーションが行われた後に利用できます。アドイン マネージャは、VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインのステータス (有効または無効のいずれか) を示します。デフォルトでは、インストール後にステータスが自動で " 有効 " になります。

メモ VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャからアドインを有効または無効にできるのは管理者だけです。

アドインが有効な場合、[アドイン マネージャ] ウィンドウに表示されるアプリケーションから VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を利用できます。例えば、アドインを有効にすると、リストされている電子メール アプリケーションや Windows デスクトップ、Windows エクスプローラから VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を利用できるようになります。アドインを無効にすると、VRS デスクトップ プロダクティビティ機能は利用できなくなります。

▶ VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を有効または無効にするには

1. Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] ー [Kofax VRS] を選択します。
2. [VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャ] を選択します。

   [VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャ] が表示されます。

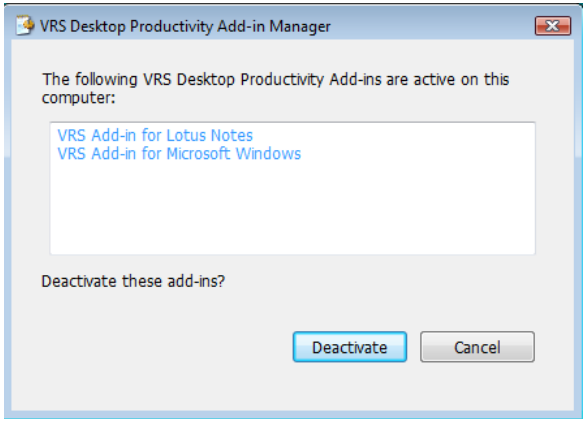


図 3-1 VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャ

3 [アドイン マネージャ] で次の**いずれか**を行います。

- アドインを有効にするには、[アクティベーション] をクリックします。
- アドインを無効にするには、[アクティベーション解除] をクリックします。

ウィンドウの下部に、アクティベーションまたはアクティベーション解除の確認メッセージが表示されます。

メモ 現在使用中のアプリケーションに関連付けられたアドインのアクティベーションまたはアクティベーション解除を行うと、[再試行]、(アクティブなアプリケーションを) [無視]、または [キャンセル] を選択するように求められます。この場合、該当するアプリケーションを閉じてから、[再試行] をクリックして続行してください。

Microsoft Outlook 2007 からのスキャン

Microsoft Outlook 2007 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを使用すると、メッセージ作成時にドキュメントをスキャンして、直接電子メールに添付することができます。アドインが有効になると、メッセージを作成したり開いたときに、リボンから [VRS スキャン] タブを利用できます。

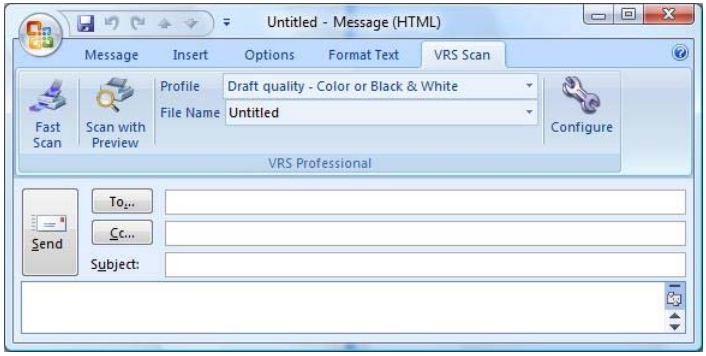


図 3-2 Microsoft Outlook 2007 の [VRS スキャン] タブ

[VRS スキャン] メニューから利用可能なスキャン オプションは次のとおりです。

- 高速スキャン : ドキュメントをデフォルトの設定で素早くスキャンして、電子メールに添付します。
- プレビューしてスキャン : ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから電子メールに添付します。
- 設定 : 設定を指定してドキュメントをスキャンし、電子メールに添付します。オプションで、保存する前に結果をプレビューすることもできます。

[VRS スキャン] タブには、アクティブなスキャン プロファイルと添付ファイル名も表示されます。

メモ メッセージ作成中に [VRS スキャン] タブを利用するには、Microsoft Outlook 2007 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを有効にする必要があります。詳細は、78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

高速スキャン

デフォルト設定を使用してドキュメントを素早くスキャンし、電子メールに添付します。

▶ [高速スキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Microsoft Outlook 2007 を起動します。
3. メッセージを作成するか、開いてから [VRS スキャン] タブを選択します。
4. [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったスキャン プロファイルを選択します。
5. [ファイル名] リストから、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。
   - 表示された名前を使用します。
   - 新しい名前を入力します。

   メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が使用されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。
6. [高速スキャン] をクリックします。

   ドキュメント がスキャンされ、自動的に作成中のメッセージに添付されます。
7. メッセージを完成して [送信] をクリックします。

プレビューしてスキャン

ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから電子メールに添付します。[VRS サムネイル ビューア] にドキュメントが表示され、自動的に添付される前に、イメージの画質調整を行うことができます。詳細は、112 ページの「VRS サムネイル ビューア」を参照してください。

現在メッセージ リボンで選択されているプロファイルと添付ファイル名でドキュメントがスキャンされます。

メモ [プレビューしてスキャン] を使用して、スキャン設定や添付ファイル名のオプションを変更することはできません。選択されているプロファイルの設定が適用され、選択されているファイル名がスキャンされたドキュメントに割り当てられます。メッセージ リボンの [設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを変更できます。

▶ [プレビューしてスキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Microsoft Outlook 2007 を起動します。
3. メッセージを作成するか、開いてから [VRS スキャン] タブを選択します。
4. [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったスキャン プロファイルを選択します。
5. [ファイル名] リストから、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。
   - 表示された名前を使用します。
   - 新しい名前を入力します。

   メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

   ---

6.  [プレビューしてスキャン] をクリックします。

   ドキュメントがスキャンされ、[VRS サムネイル ビューア] に表示されます。詳細は、112 ページの「VRS サムネイル ビューア」を参照してください。

7 [VRS サムネイル ビューア] で、次の**いずれか**を行います。

- プレビュー結果を承認する場合は、[承認] をクリックしてドキュメントを保存し、電子メールに添付します。
- イメージの画質調整を行う場合は、[VRS サムネイル ビューア] のメニューまたはツールバーにあるコントロールを使用してから、[承認] をクリックしてドキュメントを保存し、電子メールに添付します。
- プレビュー結果を破棄する場合は、[破棄] をクリックしてドキュメントを破棄し、[VRS サムネイル ビューア] を閉じます。

ヒント [VRS サムネイル ビューア] の表示中は、ツールバーから [再スキャン] または [最後までスキャン] を選択して、現在のドキュメントに追加ページをスキャンすることができます。これらのオプションは、[スキャン] メニューからも利用できます。

---

8 スキャンしたドキュメントを承認し、電子メールに添付されたら、メッセージを完成して [送信] をクリックします。

設定

このオプションを使用すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ (1 つの画面に統合されたスキャニング アプリケーション) にアクセスできます。[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウでは、ドキュメントをスキャンする前に、プロファイル設定、スキャン設定、およびファイル名のオプションを変更することができます。また、スキャンした後に、[VRS サムネイル ビューア] で結果をプレビューしてから電子メールに添付することもできます。詳細は、116 ページの「VRS プロフェッショナル スキャン」を参照してください。

▶ [設定] を使用するには

1 ドキュメントをスキャナにセットします。

2 Microsoft Outlook 2007 を起動します。

3 メッセージを作成するか、開いてから [VRS スキャン] タブを選択します。

4 [設定] をクリックします。

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウが表示されます。

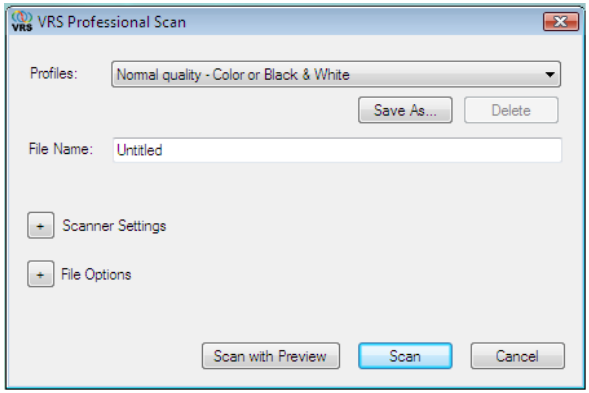


図 3-3 [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ

5 [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

メモ プロファイルの更新または削除については、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」または 111 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除」を参照してください。

---

6 [ファイル名] フィールドで、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。

- 表示された名前を使用します。
- 新しい名前を入力します。

メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

---

7 スキャナ設定を表示または更新するには、 をクリックしてオプションを表示し、必要に応じて次の設定を調整します。

- 画像タイプ : ドキュメントを保存する際のモードをカラー、白黒、またはグレースケールから選択します。
- 品質 : 解像度をドラフト (150 dpi)、標準 (200 dpi)、または高品質 (300 dpi) から選択します。

- 片面 / 両面 : ドキュメントの片面をスキャンする場合は [片面] を、両面をスキャンする場合は [両面] を選択します。
- 空白ページを無視 : 空白ページを保持する場合はチェック ボックスをオンにします。自動で空白ページを削除する場合はチェック ボックスをオフにします。
- フィーダー: 使用するフィーダーの種類を [ADF] または [フラットベッド] から選択します。

メモ スキャナ設定を更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

8 ファイル オプションを表示または更新するには、 をクリックして設定を表示します。それから、スキャンしたドキュメントに適切なファイル タイプを PDF (デフォルト)、JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF、または複数ページの TIFF から選択します。

ファイル名とファイル タイプについての詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

メモ ファイル オプションを更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

9 次の**いずれか**を行います。

- ドキュメントをスキャンした後に、結果を [VRS サムネイル ビューア] でプレビューしてから電子メールに添付する場合は、[プレビューしてスキャン] をクリックします。
- ドキュメントをスキャンした後に、結果をプレビューしないで電子メールに添付する場合は、[スキャン] をクリックします。

10 メッセージを完成して [送信] をクリックします。

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP からのスキャン

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを使用すると、メッセージ作成時にドキュメントをスキャンして、直接電子メールに添付することができます。Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインが有効になると、電子メールから [VRS スキャン] メニューと VRS ツールバーを利用できます。

メモ Microsoft Outlook XP は、Microsoft Outlook 2002 とも呼ばれます。

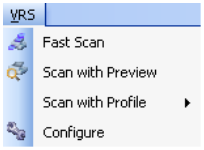


図 3-4 Microsoft Outlook の [VRS スキャン] メニュー

[VRS スキャン] メニューから利用可能なスキャン オプションは次のとおりです。

- 高速スキャン : ドキュメントをデフォルトの設定で素早くスキャンして、電子メールに添付します。
- プレビューしてスキャン : ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから電子メールに添付します。
- プロファイルを使用してスキャン : スキャン プロファイルを選択し、ドキュメントを素早くスキャンして、電子メールに添付します。
- 設定 : 設定を指定してドキュメントをスキャンし、電子メールに添付します。オプションで、保存する前に結果をプレビューすることもできます。

これらの機能は、メッセージを作成したり開いたときに VRS ツールバーからも利用できます。ただし、VRS ツールバーでは、[プロファイルを使用してスキャン] の代わりに、アクティブなスキャン プロファイルと添付ファイル名が表示されます。

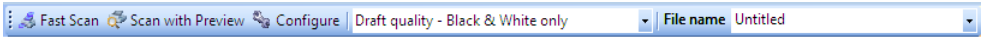


図 3-5 Microsoft Outlook の VRS ツールバー

メモ 電子メールから [VRS スキャン] メニューや VRS ツールバーを利用するには、Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを有効にする必要があります。詳細は、78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

重要 Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP で Microsoft Word を電子メール エディタに選択すると、Microsoft Outlook から VRS デスクトップ プロダクティビティ 機能を使用することができません。このオプションをオフにすると、Microsoft Outlook からデスクトップ プロダクティビティ オプションを使用できるようになります。このオプションは、[ツール] - [オプション] を選択して、[メール形式] タブを選択すると表示されます。

高速スキャン

デフォルト設定を使用してドキュメントを素早くスキャンし、電子メールに添付します。

▶ [高速スキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP を起動します。
3. メッセージを作成するか、開きます。
4. VRS ツールバーの [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったスキャン プロファイルを選択します。
5. VRS ツールバーの [ファイル名] リストから、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定します。
   - 表示された名前を使用します。
   - 新しい名前を入力します。

   メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。
6. 次の**いずれか**を行います。
   - [VRS スキャン] メニューから [高速スキャン] を選択します。
   - VRS ツールバーから [高速スキャン] を選択します。

   ドキュメント がスキャンされ、自動的に作成中のメッセージに添付されます。
7. メッセージを完成して [送信] をクリックします。

プレビューしてスキャン

ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから電子メールに添付します。[VRS サムネイル ビューア] にドキュメントが表示され、自動的に添付される前に、イメージの画質調整を行うことができます。

電子メールの VRS ツールバーに現在表示されているプロファイルと添付ファイル名でドキュメントがスキャンされます。

メモ [プレビューしてスキャン] を使用して、スキャン設定や添付ファイル名のオプションを変更することはできません。選択されているプロファイルの設定が適用され、選択されているファイル名が添付に割り当てられます。ツールバーの [設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [プレビューしてスキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP を起動します。
3. メッセージを作成するか、開きます。
4. VRS ツールバーの [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったスキャン プロファイルを選択します。
5. VRS ツールバーの [ファイル名] リストから、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定します。
   - 表示された名前を使用します。
   - 新しい名前を入力します。

   メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。
6.  [プレビューしてスキャン] をクリックします。

   ドキュメントがスキャンされ、[VRS サムネイル ビューア] に表示されます。
7. [VRS サムネイル ビューア] で、次の**いずれか**を行います。
   - プレビュー結果を承認する場合は、[承認] をクリックしてドキュメントを保存し、電子メールに添付します。
   - イメージの画質調整を行う場合は、[VRS サムネイル ビューア] のメニューまたはツールバーにあるコントロールを使用してから、[承認] をクリックしてドキュメントを保存し、電子メールに添付します。
   - プレビュー結果を破棄する場合は、[破棄] をクリックしてドキュメントを破棄し、[VRS サムネイル ビューア] を閉じます。

ヒント [VRS サムネイル ビューア] の表示中は、ツールバーから [再スキャン] または [最後までスキャン] を選択して、現在のドキュメントに追加ページをスキャンすることができます。これらのオプションは、[スキャン] メニューからも利用できます。

8 スキャンしたドキュメントを承認し、電子メールに添付されたら、メッセージを完成して [送信] をクリックします。

プロファイルを使用してスキャン

スキャン プロファイルを適用し、ドキュメントを素早くスキャンして、電子メールに添付します。

メモ [プロファイルを使用してスキャン] を使用して、スキャン設定や添付ファイル名のオプションを変更することはできません。選択されているプロファイルの設定が適用され、選択されているファイル名が添付に割り当てられます。ツールバーの [設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [プロファイルを使用してスキャン] を使用するには

1 ドキュメントをスキャナにセットします。

2 Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP を起動します。

3 メッセージを作成するか、開きます。

4 [VRS スキャン] メニューから [プロファイルを使用してスキャン] を選択して、利用可能なスキャン プロファイルを表示します。

5 スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

ドキュメント がスキャンされ、自動的に作成中のメッセージに添付されます。

設定

このオプションを使用すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ (1 つの画面に統合されたスキャニング アプリケーション) にアクセスできます。[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウでは、ドキュメントをスキャンする前に、プロファイル設定、スキャン設定、および添付ファイルのオプションを変更することができます。また、スキャンした後に、[VRS サムネイル ビューア] で結果をプレビューしてから電子メールに添付することもできます。

▶ [設定] を使用するには

1 ドキュメントをスキャナにセットします。

2 Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP を起動します。

3 メッセージを作成するか、開きます。

4 次の**いずれか**を行います。

- [VRS スキャン] メニューから [設定] を選択します。
- VRS ツールバーから [設定] を選択します。

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウが表示されます。

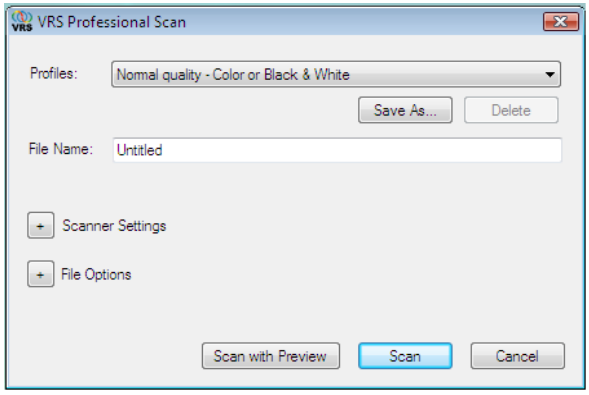


図 3-6 [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ

5 [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

メモ プロファイルの更新または削除については、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」または 111 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除」を参照してください。

---

6 [ファイル名] フィールドで、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。

- 表示された名前を使用します。
- 新しい名前を入力します。

メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

7 スキャナ設定を表示または更新するには、 をクリックしてオプションを表示し、必要に応じて次の設定を調整します。

- 画像タイプ : ドキュメントを保存する際のモードをカラー、白黒、またはグレースケールから選択します。
- 品質 : 解像度をドラフト (150 dpi)、標準 (200 dpi)、または高品質 (300 dpi) から選択します。
- 片面 / 両面 : ドキュメントの片面をスキャンする場合は [片面] を、両面をスキャンする場合は [両面] を選択します。
- 空白ページを無視: 空白ページを保持する場合はチェック ボックスをオンにします。自動で空白ページを削除する場合はチェック ボックスをオフにします。
- フィーダー: 使用するフィーダーの種類を [ADF] または [フラットベッド] から選択します。

メモ スキャナ設定を更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

8 ファイル オプションを表示または更新するには、 をクリックして設定を表示します。それから、スキャンしたドキュメントに適切なファイル タイプを PDF (デフォルト)、JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF、または複数ページの TIFF から選択します。

ファイル名とファイル タイプについての詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

メモ ファイル オプションを更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

9 次の**いずれか**を行います。

- ドキュメントをスキャンした後に、結果を [VRS サムネイル ビューア] でプレビューしてから電子メールに添付する場合は、[プレビューしてスキャン] をクリックします。
- ドキュメントをスキャンした後に、結果をプレビューしないで電子メールに添付する場合は、[スキャン] をクリックします。

10 メッセージを完成して [送信] をクリックします。

Lotus Notes からスキャン

Lotus Notes 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを使用すると、ドキュメントをスキャンして、自動的に電子メールに添付することができます。アドインが有効になると、Lotus Notes の [アクション] メニューから、次の VRS スキャン オプションを利用できます。

- 高速スキャン : ドキュメントをデフォルトの設定で素早くスキャンして、新しい電子メールに添付します。
- プレビューしてスキャン : ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから新しい電子メールに添付します。
- 設定 : 設定を指定してドキュメントをスキャンし、新しい電子メールに添付します。オプションで、保存する前に結果をプレビューすることもできます。
- プロファイルを使用してスキャン : スキャン プロファイルを選択し、ドキュメントを素早くスキャンして、新しい電子メールに添付します。

メモ Lotus Notes の [アクション] メニューにある VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を利用するには、Lotus Notes 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを有効にする必要があります。デスクトップ プロダクティビティ機能は、Lotus Notes 6.5 以降でサポートされています。詳細は、78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

重要 Lotus Notes で VRS デスクトップ プロダクティビティ スキャン オプションを選択すると、自動的に新しいメッセージが作成されます。[アクション] メニューからスキャン オプションを選択する前に、メッセージを作成したり、開いたりしないでください。余分なメッセージが作成されます。

高速スキャン

ドキュメントを素早くスキャンして、電子メールに添付します。

メモ [プレビューしてスキャン] を使用して、スキャン設定や添付ファイル名のオプションを変更することはできません。選択されているプロファイルの設定が適用され、選択されているファイル名が添付に割り当てられます。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [高速スキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Lotus Notes を起動します。
3. [アクション] メニューから [高速スキャン] を選択します。

   ドキュメントがスキャンされると、新しいメッセージが作成されます。スキャンされたドキュメントは、自動的に新しいメッセージに添付されます。

   メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。
4. メッセージを完成して [送信] をクリックします。

プレビューしてスキャン

ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから新しい電子メールに添付します。[VRS サムネイル ビューア] にドキュメントが表示され、自動的に添付される前に、イメージの画質調整を行うことができます。

メモ [プレビューしてスキャン] を使用して、スキャン設定や添付ファイル名のオプションを更新することはできません。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [プレビューしてスキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Lotus Notes を起動します。

3 [アクション] メニューから [プレビューしてスキャン] を選択します。

ドキュメントがスキャンされ、[VRS サムネイル ビューア] に表示されます。

4 [VRS サムネイル ビューア] で、次の**いずれか**を行います。

- プレビュー結果を承認する場合は、[承認] をクリックしてドキュメントを保存し、電子メールに添付します。
- イメージの画質調整を行う場合は、[VRS サムネイル ビューア] のメニューまたはツールバーにあるコントロールを使用してから、[承認] をクリックしてドキュメントを保存し、電子メールに添付します。
- プレビュー結果を破棄する場合は、[破棄] をクリックしてドキュメントを破棄し、[VRS サムネイル ビューア] を閉じます。

ヒント [VRS サムネイル ビューア] の表示中は、ツールバーから [再スキャン] または [最後までスキャン] を選択して、現在のドキュメントに追加ページをスキャンすることができます。これらのオプションは、[スキャン] メニューからも利用できます。

5 スキャンされたドキュメントを承認すると、新しいメッセージが作成されます。スキャンされたドキュメントは、自動的に新しいメッセージに添付されます。

メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

6 メッセージを完成して [送信] をクリックします。

設定

[設定] オプションを使用すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ (1 つの画面に統合されたスキャニング アプリケーション) にアクセスできます。[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウでは、ドキュメントをスキャンする前に、プロファイル設定、スキャン設定、および添付ファイルのオプションを変更することができます。また、ドキュメントを新しい電子メールに添付する前に、[VRS サムネイル ビューア] で結果をプレビューすることもできます。

▶ [設定] を使用するには

1 ドキュメントをスキャナにセットします。

2 Lotus Notes を起動します。

3 [アクション] メニューから [設定] を選択します。

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウが表示されます。

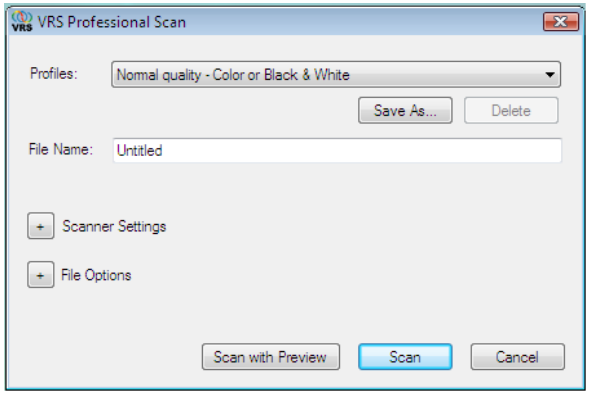


図 3-7 [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ

4 [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

メモ プロファイルの更新または削除については、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」または 111 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除」を参照してください。

---

5 [ファイル名] フィールドで、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。

- 表示された名前を使用します。
- 新しい名前を入力します。

メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

---

6 スキャナ設定を表示または更新するには、 をクリックしてオプションを表示し、必要に応じて次の設定を調整します。

- 画像タイプ : ドキュメントを保存する際のモードをカラー、白黒、またはグレースケールから選択します。
- 品質 : 解像度をドラフト (150 dpi)、標準 (200 dpi)、または高品質 (300 dpi) から選択します。
- 片面 / 両面 : ドキュメントの片面をスキャンする場合は [片面] を、両面をスキャンする場合は [両面] を選択します。
- 空白ページを無視: 空白ページを保持する場合はチェック ボックスをオンにします。自動で空白ページを削除する場合はチェック ボックスをオフにします。
- フィーダー: 使用するフィーダーの種類を [ADF] または [フラットベッド] から選択します。

メモ スキャナ設定を更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

---

7 ファイル オプションを表示または更新するには、 をクリックして設定を表示します。それから、スキャンしたドキュメントに適切なファイル タイプを PDF (デフォルト)、JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF、または複数ページの TIFF から選択します。

ファイル名とファイル タイプについての詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

メモ ファイル オプションを更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

---

8 次の**いずれか**を行います。

- スキャンし、結果を [VRS サムネイル ビューア] でプレビューする場合は、[プレビューしてスキャン] をクリックします。
- ドキュメントをスキャンした後に、結果をプレビューしないで電子メールに添付する場合は、[スキャン] をクリックします。

[プレビューしてスキャン] を選択する場合、[VRS サムネイル ビューア] で [承認] をクリックすると新しいメッセージが作成されます。

[スキャン] を選択する場合、自動的に新しいメッセージが作成されます。

スキャンされたドキュメントは、新しいメッセージに添付されます。

9 メッセージを完成して [送信] をクリックします。

プロファイルを使用してスキャン

[プロファイルを使用してスキャン] を使用して、既設定のプロファイルを適用し、ドキュメントを素早くスキャンすることができます。ドキュメントは、自動的に新しいメッセージに添付されます。

メモ [プレビューしてスキャン] を使用して、スキャン設定や添付ファイル名のオプションを更新することはできません。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [プロファイルを使用してスキャン] を選択するには

1 ドキュメントをスキャナにセットします。

2 Lotus Notes を起動します。

3 [アクション] メニューから [プロファイルを使用してスキャン] を選択して、利用可能なスキャン プロファイルを表示します。

4 スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

自動的に新しいメッセージが作成されます。選択したプロファイルでドキュメントがスキャンされ、新しいメッセージに添付されます。

5 メッセージを完成して [送信] をクリックします。

Windows デスクトップからのスキャン

Microsoft Windows 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインが有効になると、コンテキスト メニューから次のオプションを使用して、Windows デスクトップから直接スキャンすることができます。

- 高速スキャン : ドキュメントをデフォルトの設定で素早くスキャンして、Windows デスクトップに保存します。
- プレビューしてスキャン : ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから Windows デスクトップに保存します。
- 設定 : 設定を指定してドキュメントをスキャンし、Windows デスクトップに保存します。オプションで、保存する前に結果をプレビューすることもできます。

- プロファイルを使用してスキャン : スキャン プロファイルを選択し、ドキュメントを素早くスキャンして、Windows デスクトップに保存します。

メモ Windows デスクトップから VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を利用するには、Microsoft Windows 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを有効にする必要があります。詳細は、78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

高速スキャン

ドキュメントを素早くスキャンして、Windows デスクトップに保存します。

メモ VRS デスクトップ プロダクティビティ機能で最後に使用されたプロファイルとファイル名でドキュメントがスキャンされます。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [高速スキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows デスクトップで右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
3. コンテキスト メニューから [高速スキャン] を選択します。

   ドキュメント がスキャンされ、自動的に Windows デスクトップに保存されます。

プレビューしてスキャン

ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから Windows デスクトップに保存します。[VRS サムネイル ビューア] にドキュメントが表示され、保存する前に、イメージの画質調整を行うことができます。

メモ VRS デスクトップ プロダクティビティ機能で最後に使用されたプロファイルとファイル名でドキュメントがスキャンされます。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [プレビューしてスキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows デスクトップで右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
3. コンテキスト メニューから [プレビューしてスキャン] を選択します。

ドキュメントがスキャンされ、[VRS サムネイル ビューア] に表示されます。

4 [VRS サムネイル ビューア] で、次の**いずれか**を行います。

- プレビュー結果を承認する場合は、[承認] をクリックしてドキュメントを Windows デスクトップに保存します。
- イメージの画質調整を行う場合は、[VRS サムネイル ビューア] のメニューまたはツールバーにあるコントロールを使用してから、[承認] をクリックしてドキュメントを Windows デスクトップに保存します。
- プレビュー結果を破棄する場合は、[破棄] をクリックしてドキュメントを破棄し、[VRS サムネイル ビューア] を閉じます。

ヒント [VRS サムネイル ビューア] の表示中は、ツールバーから [再スキャン] または [最後までスキャン] を選択して、現在のドキュメントに追加ページをスキャンすることができます。これらのオプションは、[スキャン] メニューからも利用できます。

ドキュメントを承認すると、自動的に Windows デスクトップに保存されます。

設定

このオプションを使用すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ (1 つの画面に統合されたスキャニング アプリケーション) にアクセスできます。[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウでは、ドキュメントをスキャンする前に、プロファイル設定、スキャン設定、およびファイル名のオプションを変更することができます。また、スキャンした後に、[VRS サムネイル ビューア] で結果をプレビューしてから Windows デスクトップに保存することもできます。

▶ [設定] を使用するには

1 ドキュメントをスキャナにセットします。

2 Windows デスクトップで右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。

3 コンテキスト メニューから [設定] を選択します。

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウが表示されます。

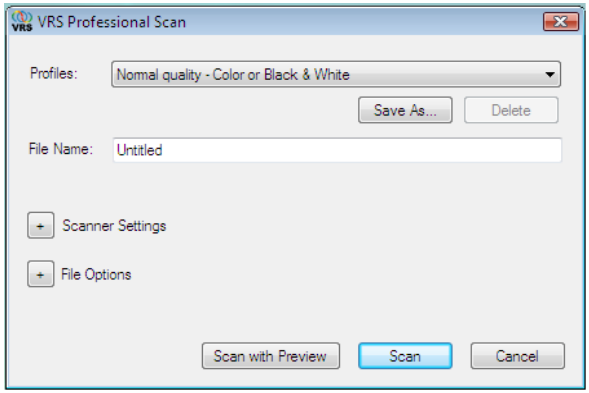


図 3-8 [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ

4 [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

メモ プロファイルの更新または削除については、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」または 111 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除」を参照してください。

---

5 [ファイル名] フィールドで、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。

- 表示された名前を使用します。
- 新しい名前を入力します。

メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

---

6 スキャナ設定を表示または更新するには、 をクリックしてオプションを表示し、必要に応じて次の設定を調整します。

- 画像タイプ : ドキュメントを保存する際のモードをカラー、白黒、またはグレースケールから選択します。
- 品質 : 解像度をドラフト (150 dpi)、標準 (200 dpi)、または高品質 (300 dpi) から選択します。

- 片面 / 両面 : ドキュメントの片面をスキャンする場合は [片面] を、両面をスキャンする場合は [両面] を選択します。
- 空白ページを無視: 空白ページを保持する場合はチェック ボックスをオンにします。自動で空白ページを削除する場合はチェック ボックスをオフにします。
- フィーダー: 使用するフィーダーの種類を [ADF] または [フラットベッド] から選択します。

メモ スキャナ設定を更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

---

7 ファイル オプションを表示または更新するには、 をクリックして設定を表示します。それから、スキャンしたドキュメントに適切なファイル タイプを PDF (デフォルト)、JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF、または複数ページの TIFF から選択します。

ファイル名とファイル タイプについての詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

メモ ファイル オプションを更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

---

8 次の**いずれか**を行います。

- スキャンし、結果を [VRS サムネイル ビューア] でプレビューする場合は、[プレビューしてスキャン] をクリックします。
- ドキュメントをスキャンした後に、結果をプレビューしないで電子メールに添付する場合は、[スキャン] をクリックします。

[プレビューしてスキャン] を選択する場合、[VRS サムネイル ビューア] で [承認] をクリックすると Windows デスクトップにドキュメントが保存されます。

[スキャン] を選択する場合、すぐに Windows デスクトップにドキュメントが保存されます。

プロファイルを使用してスキャン

プロファイルを適用し、ドキュメントを素早くスキャンして、Windows デスクトップに保存します。

▶ [プロファイルを使用してスキャン] を選択するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows デスクトップで右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
3. コンテキスト メニューから [プロファイルを使用してスキャン] を選択して、利用可能なスキャン プロファイルを表示します。
4. スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

   選択したプロファイルでドキュメントがスキャンされ、Windows デスクトップに保存されます。

Windows エクスプローラからのスキャン

Microsoft Windows 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインが有効になると、コンテキスト メニューから次のオプションを使用して、Windows エクスプローラのフォルダから直接スキャンすることができます。

- 高速スキャン : ドキュメントをデフォルトの設定で素早くスキャンして、Windows エクスプローラのフォルダに保存します。
- プレビューしてスキャン : ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから Windows エクスプローラのフォルダに保存します。
- 設定 : 設定を指定してドキュメントをスキャンし、Windows エクスプローラのフォルダに保存します。オプションで、保存する前に結果をプレビューすることもできます。
- プロファイルを使用してスキャン : スキャン プロファイルを選択し、ドキュメントを素早くスキャンして、Windows エクスプローラのフォルダに保存します。

メモ Windows エクスプローラから VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を利用するには、Microsoft Windows 用の VRS デスクトップ プロダクティビティ アドインを有効にする必要があります。詳細は、78 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション」を参照してください。

高速スキャン

ドキュメントを素早くスキャンして、Windows エクスプローラのフォルダに保存します。

メモ VRS デスクトップ プロダクティビティ機能で最後に使用されたプロファイルとファイル名でドキュメントがスキャンされます。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [高速スキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. スキャンしたドキュメントを保存するフォルダに移動し、右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
4. コンテキスト メニューから [高速スキャン] を選択します。

   ドキュメントがスキャンされ、自動的に指定したフォルダに保存されます。

プレビューしてスキャン

ドキュメントをスキャンした後に、プレビューしてから Windows エクスプローラのフォルダに保存します。[VRS サムネイル ビューア] にドキュメントが表示され、保存する前に、イメージの画質調整を行うことができます。

メモ VRS デスクトップ プロダクティビティ機能で最後に使用されたプロファイルとファイル名でドキュメントがスキャンされます。[設定] オプションを使用すると、スキャン設定とファイル名のオプションを更新できます。

▶ [プレビューしてスキャン] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. スキャンしたドキュメントを保存するフォルダに移動し、右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
4. コンテキスト メニューから [プレビューしてスキャン] を選択します。

   ドキュメントがスキャンされ、[VRS サムネイル ビューア] に表示されます。
5. [VRS サムネイル ビューア] で、次の**いずれか**を行います。
   - プレビュー結果を承認する場合は、[承認] をクリックしてドキュメントを指定したフォルダに保存します。

- イメージの画質調整を行う場合は、[VRS サムネイル ビューア] のメニューまたはツールバーにあるコントロールを使用してから、[承認] をクリックしてドキュメントを指定したフォルダに保存します。
- プレビュー結果を破棄する場合は、[破棄] をクリックしてドキュメントを破棄し、[VRS サムネイル ビューア] を閉じます。

ヒント [VRS サムネイル ビューア] の表示中は、ツールバーから [再スキャン] または [最後までスキャン] を選択して、現在のドキュメントに追加ページをスキャンすることができます。これらのオプションは、[スキャン] メニューからも利用できます。

ドキュメントを承認すると、指定したフォルダに保存されます。

設定

このオプションを使用すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ (1 つの画面に統合されたスキャニング アプリケーション) にアクセスできます。[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウでは、ドキュメントをスキャンする前に、プロファイル設定、スキャン設定、およびファイル名のオプションを変更することができます。また、スキャンした後に、[VRS サムネイル ビューア] で結果をプレビューしてから Windows エクスプローラのフォルダに保存することもできます。

▶ [設定] を使用するには

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. スキャンしたドキュメントを保存するフォルダに移動し、右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
4. コンテキスト メニューから [設定] を選択します。

   [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウが表示されます。

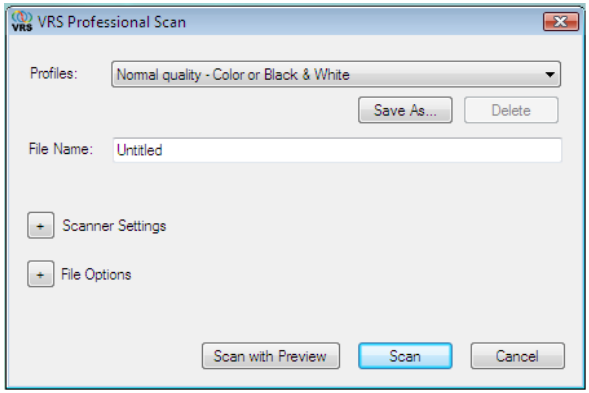


図 3-9 [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ

5 [プロファイル] リストから、スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

メモ プロファイルの更新または削除については、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」または 111 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除」を参照してください。

---

6 [ファイル名] フィールドで、次の**いずれか**を実行して添付ファイル名を指定してください。

- 表示された名前を使用します。
- 新しい名前を入力します。

メモ 最初に VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、デフォルトで基本ファイル名の " タイトルなし " が選択されます。その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。基本ファイル名を更新するまで、最後に使用された名前がデフォルトで使用されます。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

---

7 スキャナ設定を表示または更新するには、 をクリックしてオプションを表示し、必要に応じて次の設定を調整します。

- 画像タイプ : ドキュメントを保存する際のモードをカラー、白黒、またはグレースケールから選択します。
- 品質 : 解像度をドラフト (150 dpi)、標準 (200 dpi)、または高品質 (300 dpi) から選択します。

- 片面 / 両面 : ドキュメントの片面をスキャンする場合は [片面] を、両面をスキャンする場合は [両面] を選択します。
- 空白ページを無視 : 空白ページを保持する場合はチェック ボックスをオンにします。自動で空白ページを削除する場合はチェック ボックスをオフにします。
- フィーダー : 使用するフィーダーの種類を [ADF] または [フラットベッド] から選択します。

メモ スキャナ設定を更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

---

8 ファイル オプションを表示または更新するには、 をクリックして設定を表示します。それから、スキャンしたドキュメントに適切なファイル タイプを PDF (デフォルト)、JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF、または複数ページの TIFF から選択します。

ファイル名とファイル タイプについての詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

メモ ファイル オプションを更新すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。更新した設定をプロファイルに保存するには、109 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新」を参照してください。

---

9 次の**いずれか**を行います。

- スキャンし、結果を [VRS サムネイル ビューア] でプレビューする場合は、[プレビューしてスキャン] をクリックします。
- ドキュメントをスキャンした後に、結果をプレビューしないで電子メールに添付する場合は、[スキャン] をクリックします。

[プレビューしてスキャン] を選択する場合、[VRS サムネイル ビューア] で [承認] をクリックすると指定したフォルダにドキュメントが保存されます。

[スキャン] を選択する場合、すぐに指定したフォルダにドキュメントが保存されます。

プロファイルを使用してスキャン

プロファイルを適用し、ドキュメントを素早くスキャンして、Windows エクスプローラのフォルダに保存します。

▶ **[プロファイルを使用してスキャン] を選択するには**

1. ドキュメントをスキャナにセットします。
2. Windows エクスプローラを起動して、スキャンしたドキュメントを保存するフォルダに移動します。
3. 右クリックしてコンテキスト メニューを開きます。
4. コンテキスト メニューから [プロファイルを使用してスキャン] を選択して、利用可能なスキャン プロファイルを表示します。
5. スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。

   選択したプロファイルでドキュメントがスキャンされ、指定したフォルダに保存されます。

VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能が有効な場合、6 つある標準のデスクトップ アクティビティ プロファイルのいずれかを使用して、ドキュメントをスキャンすることができます。標準のプロファイルは、幅広いドキュメントにおいて、画質を調整しなくても最良のイメージ画質が得られるように設定されています。

重要 デスクトップ プロダクティビティ機能のスキャン プロファイルと、" コア " な VRS 製品で使用されるプロファイルは同じではありません。デスクトップ プロダクティビティ プロファイルは、VRS デスクトップ プロダクティビティ機能をアクティベーションしたときのみ利用可能です。

各デスクトップ プロダクティビティ プロファイルには、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウで指定した設定とその他の設定の組み合わせが保存されています。

デスクトップ プロダクティビティ プロファイルに含まれるスキャナ設定やファイル名のオプションは、保存したり、名前を付けたりすることができます。VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用する場合、他のプロファイルを選択するまで、最後に使用したプロファイルが適用されます。

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウの [スキャナ設定] と [ファイル オプション] を使用して、デスクトップ プロダクティビティのカスタム プロファイルを設定することができます。複数のプロファイルを作成し、異なるスキャンの状況に対応できます。

メモ 6 つあるデフォルトの VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルは、変更も削除もできません。必要に応じて、標準のプロファイルを基に新しいプロファイルを作成して、新しい名前で保存してください。

標準の VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル設定

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能が有効になると、6 つある標準の VRS デスクトップ プロダクティビティのスキャン プロファイルを利用できるようになります。必要に応じて、独自のプロファイルを作成し、カスタム設定を適用することもできます。標準のプロファイルを変更したり、削除することはできません。次の表に示す各プロファイルの名前は、その用途を表しています。

表 3-1 VRS デスクトップ プロダクティビティ デフォルト プロファイル

プロファイル名	出力解像度	DPI	デフォルト ファイル タイプ
ドラフト品質 - 白黒のみ	白黒	150	PDF
ドラフト品質 - カラーまたは白黒	自動検出	150	PDF
標準品質 - 白黒のみ	白黒	200	PDF
標準品質 - カラーまたは白黒	自動検出	200	PDF
高品質 - 白黒のみ	白黒	300	PDF
高品質 - カラーまたは白黒	自動検出	300	PDF

[色の自動検出] は、3 つの " カラーまたは白黒 " プロファイルで適用されます。VRS は、ドキュメントがカラーか白黒かを自動的に検出し、スキャンします。

この表の設定に加えて、標準のプロファイルでは次の設定も有効です。

- 最大用紙サイズ
- 両面
- 縦向き
- ADF
- 背景のスムージング (カラーをサポートしているプロファイルの場合)
- 自動明るさ調整
- パンチ穴を無視する
- エッジ クリーン
- 自動傾き補正
- 自動クロップ

- 自動の向き
- 鮮明度の詳細
- 空白ページの検出

VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの作成

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウから、デスクトップ プロダクティビティのスキャン プロファイルを作成できます。プロファイルを作成し保存すると、アクティブなプロファイルになります。

▶ プロファイルを作成するには

1. [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを表示して、新しいプロファイルの基となるプロファイルを選択します。
2. [スキャナ設定] の隣にある  をクリックして、利用可能な設定のリストを展開し表示します。
3. 必要に応じて、スキャナ設定を更新します。
4. [ファイル オプション] の隣にある  をクリックして、利用可能なオプションのリストを展開し表示します。
5. 必要に応じて、ファイル オプションを更新します。
6. [プロファイル] グループで [名前を付けて保存] をクリックして、[プロファイルを名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。
   - 設定を更新する際に、標準の事前定義されたプロファイルを選択すると、自動的にプロファイル名に "My" というプリフィックスが追加されます。
   - 設定を更新する際に、ユーザーによって作成されたプロファイルを選択すると、既存のプロファイル名が使用されます。
7. [プロファイルを名前を付けて保存] ウィンドウで、次の**いずれか**を行います。
   - プリフィックス "My" が付いた名前を使用します。
   - 新しいプロファイル名を割り当てます。プロファイル名に利用できない文字のリストについては、次の表を参照してください。
8. [OK] をクリックしてプロファイル名を保存します。

   保存したプロファイルがアクティブなプロファイルとなります。

表 3-2 VRS プロファイル名として無効な文字

文字	説明	文字	説明
:	コロン	'	単一引用符
;	セミコロン	"	二重引用符
\	バックスラッシュ、円記号	>	大なり
/	スラッシュ	<	小なり
|	パイプ	^	カレット
&	アンパサンド	.	ピリオド
?	疑問符		

VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの更新

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウから、既存のデスクトップ プロダクティビティ プロファイルを更新することができます。プロファイルを更新して保存すると、アクティブなプロファイルになります。

メモ ユーザーによって作成されたプロファイルのみ更新することができます。6 つある標準の VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルは更新できません。

▶ プロファイルを更新するには

1. [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを開きます。
2. 更新するプロファイルを選択します。

   ヒント 標準のプロファイルを新しい名前で保存すると、設定を更新することができます。詳細は、108 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの作成」を参照してください。

3. [スキャナ設定] の隣にある  をクリックして、利用可能な設定のリストを展開し表示します。
4. 必要に応じて、スキャナ設定を更新します。
5. [ファイル オプション] の隣にある  をクリックして、利用可能なオプションのリストを展開し表示します。
6. 必要に応じて、ファイル オプションを更新します。

7 [プロファイル] グループで [名前を付けて保存] をクリックして、[プロファイルを名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。

- 設定を更新する際に、標準のプロファイルを選択すると、自動的にプロファイル名に "My" というプリフィックスが追加されます。
- 設定を更新する際に、ユーザーによって作成されたプロファイルを選択すると、既存のプロファイル名が使用されます。
- プロファイル名を変更する場合は、新しい名前を入力します。

8 [OK] をクリックして、[プロファイルを名前を付けて保存] ウィンドウに表示されているプロファイル名で変更を保存します。

保存したプロファイルがアクティブなプロファイルとなります。

アクティブなデスクトップ プロダクティビティ プロファイルの変更

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用してスキャンする場合、最後に使用したプロファイルがアクティブなプロファイルとして使用されます。アクティブなプロファイルは、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウまたは電子メール アプリケーションの [プロファイル] リストから変更できます。

また、Windows デスクトップ、Windows エクスプローラ、Microsoft Outlook 2003、Outlook XP から [プロファイルを使用してスキャン] オプションを選択して変更することもできます。

Windows デスクトップ

Windows デスクトップからアクティブなプロファイルを変更するには、次のいずれかを行います。

- 右クリックして [設定] を選択し、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを表示して、[プロファイル] リストからプロファイルを選択します。
- 右クリックして [プロファイルを使用してスキャン] を選択し、リストからプロファイルを選択します。

Windows エクスプローラ

Windows エクスプローラからアクティブなプロファイルを変更するには、次のいずれかを行います。

- 右クリックして [設定] を選択し、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを表示して、[プロファイル] リストからプロファイルを選択します。
- 右クリックして [プロファイルを使用してスキャン] を選択し、リストからプロファイルを選択します。

Microsoft Outlook 2007

Microsoft Outlook 2007 からアクティブなプロファイルを変更するには、新しいメッセージを表示し [VRS スキャン] タブを選択して、次のいずれかを行います。

- メッセージ リボンで、[プロファイル] フィールドからリスト中の別のプロファイルを選択します。
- [設定] をクリックして [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを表示し、[プロファイル] リストの選択を変更します。

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP からアクティブなプロファイルを変更するには、新しいメッセージを開いて、メッセージのツールバーから次のいずれかを行います。

- [プロファイル] フィールドからリスト中の別のプロファイルを選択します。
- [設定] をクリックして [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを表示し、[プロファイル] リストの選択を変更します。

Lotus Notes

Lotus Notes からアクティブなプロファイルを変更するには、メニュー バーから次のいずれかを行います。

- [アクション] ー [プロファイルを使用してスキャン] を選択して、リスト中の別のリストを選択します。
- [アクション] ー [設定] を選択して [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを表示し、[プロファイル] リストの選択を変更します。

VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルの削除

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを使用して、VRS デスクトップ プロダクティビティのカスタム プロファイルを削除することができます。

メモ ユーザーによって作成されたプロファイルのみ削除することができます。6 つある標準の VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルは削除できません。

▶ VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイルを削除するには

1. [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを開きます。
2. [プロファイル] リストで、ユーザーによって作成されたプロファイルから削除するものを選択します。

3 [削除] をクリックします。

4 確認メッセージで [はい] をクリックしてください。

リストからプロファイル名が削除されます。削除されたプロファイルが使用中の最後のプロファイルであった場合、利用可能なプロファイルの中から最後に使用されたプロファイルがアクティブなプロファイルとして選択されます。

そうでない場合は、デフォルトのプロファイル (標準品質 - カラーまたは白黒) がアクティブなプロファイルとして選択されます。

VRS サムネイル ビューア

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用中に [プレビューしてスキャン] を選択すると、ドキュメントがスキャンされ、[VRS サムネイル ビューア] に結果が表示されます。[サムネイル ビューア] では、結果を拡大 / 縮小して確認し、必要に応じてイメージの画質を調整することができます。また、[VRS サムネイル ビューア] から追加ページをスキャンすることもできます。

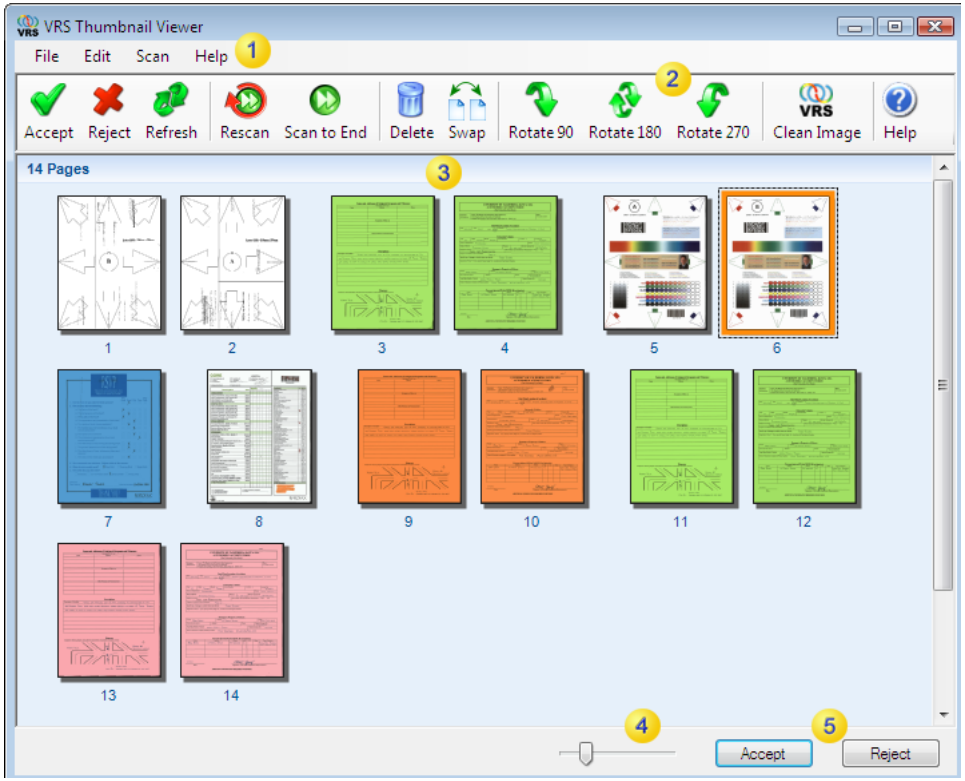


図 3-10 VRS サムネイル ビューア

1. **メニュー バー :** メニュー バーを使用して、サムネイルの設定を選択できます。

2. **ツールバー :** ツールバーを使用して、サムネイルの設定へのショートカットを選択できます。

3. **イメージの表示エリア :** イメージの表示エリアには、スキャンしたドキュメントのページのサムネイルが表示されます。

   メニュー バーやツールバーにある機能を使用して、サムネイルを編集できます。

   また、マウスでサムネイルをドラッグ アンド ドロップして、順番を変更することもできます。

4. **ズーム スライダ :** ズーム スライダを使用して、ビューアにあるサムネイルを拡大 / 縮小することができます。スライダを右に動かすと拡大され、左に動かすと縮小されます。

5. **承認 / 破棄 :** 表示されているイメージを承認する場合は、[承認] をクリックして保存します。

   表示されているイメージを破棄する場合は、[破棄] をクリックしてイメージを破棄し、[サムネイル ビューア] を閉じます。

VRS サムネイル ビューアのメニュー バー

[VRS サムネイル ビューア] のメニュー バーには、[ファイル] メニュー、[編集] メニュー、[スキャン] メニュー、および [ヘルプ] メニューが用意されています。

[ファイル] メニュー

[ファイル] メニューには、ドキュメントをスキャンした後に、承認または破棄するためのオプションが含まれています。

ドキュメントを承認すると、電子メールに添付されるか、Windows デスクトップまたは Windows エクスプローラのフォルダに保存されます。

[更新] オプションを使用すると、[サムネイル ビューア] で適用した調整をドキュメントに反映することができます。

ドキュメントを承認 : [VRS サムネイル ビューア] に表示されているドキュメント (全ページ) を承認する場合に選択します。

ドキュメントを破棄 : [VRS サムネイル ビューア] に表示されているドキュメントを破棄する場合に選択します。

更新 : [サムネイル ビューア] で適用した調整をドキュメントに反映する場合は、このオプションを選択するか、F5 キーを押します。

[編集] メニュー

[編集] メニューには、[サムネイル ビューア] で選択したページを削除または回転するためのオプションが含まれています。ページの前面と裏面を差し替えることもできます。[VRS でイメージを処理] オプションを使用して、[VRS インタラクティブ ビューア] を表示し、選択したイメージの画質を調整できます。

メモ [編集] メニューのオプションはすべて、[VRS サムネイル ビューア] で選択されている複数のドキュメントに適用することができます。

削除 : イメージの表示エリアで選択されているページを削除する場合に選択します。

ページの差し替え : 選択したページの前面と裏面を差し替える場合に選択します。

90 度回転 : 選択したイメージを 90 度回転する場合に選択します。

180 度回転 : 選択したイメージを 180 度回転する場合に選択します。

270 度回転 : 選択したイメージを 270 度回転する場合に選択します。

VRS でイメージを処理 : [VRS インタラクティブ ビューア] を表示して、選択したイメージの画質を調整する場合に選択します。[VRS インタラクティブ ビューア] で変更を適用すると、[VRS サムネイル ビューア] が再度表示されます。

[スキャン] メニュー

[スキャン] メニューには、選択したページを再スキャンしたり、スキャナにある残りのページをすべてスキャンするためのオプションが含まれています。

選択したページの再スキャン : 選択したページを再スキャンする場合に選択します。ページを再スキャンすると、選択されたページがスキャンされた順番で置換されます。

最後までスキャン : スキャナにある残りのページをすべてスキャンする場合に選択します。ページは現在のドキュメントの最後に追加されます。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューには、オンライン ヘルプやバージョン情報を表示するオプションが含まれています。

ヘルプ : VRS オンライン ヘルプを表示する場合に選択します。

バージョン情報 : [バージョン情報] ウィンドウを表示する場合に選択します。[バージョン情報] ウィンドウには、VRS のバージョン情報、ライセンス情報、および Kofax Image Products 社の問い合わせ先情報が表示されます。

VRS サムネイル ビューアのツールバー

[サムネイル ビューア] のツールバーには、表示エリアのドキュメントに適用できる機能へのショートカットが用意されています。



図 3-11 VRS サムネイル ビューアのツールバー

メモ 表示エリアで選択されている複数のページに対して、ほとんどのイメージ編集機能を適用することができます。

承認 : [VRS サムネイル ビューア] に表示されているドキュメント (全ページ) を承認し、保存します。

破棄 : ドキュメント (全ページ) を破棄して、[VRS サムネイル ビューア] を閉じます。

更新 : [VRS サムネイル ビューア] で適用した調整をドキュメントに反映します。

再スキャン : 選択したページを再スキャンします。

最後までスキャン : スキャナにある残りのページをスキャンします。ページは表示エリアに表示されているドキュメントに追加されます。

削除 : 選択したページを削除します。

差し替え : 選択したページの前面と裏面を差し替えます。

90 度、180 度、270 度回転 : 選択したページを 90 度、180 度、または 270 度回転します。

VRS イメージ処理 : [VRS インタラクティブ ビューア] を表示して、イメージの画質を調整します。[VRS インタラクティブ ビューア] で変更を適用すると、[VRS サムネイル ビューア] が再度表示されます。

ヘルプ : オンライン ヘルプを表示します。

VRS プロフェッショナル スキャン

[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウは、スキャン設定を指定したり、スキャン操作を実行するためのオプションを 1 つの画面に統合したスキャニング アプリケーションとして機能します。次の場所から [設定] オプションを選択すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウを利用できます。

- Microsoft Outlook の電子メール
- Lotus Notes の電子メール
- Windows デスクトップのコンテキスト メニュー
- Windows エクスプローラのコンテキスト メニュー

[高速スキャン]、[プレビューしてスキャン]、または [プロファイルを使用してスキャン] オプションを選択すると、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウで指定した設定が適用されます。

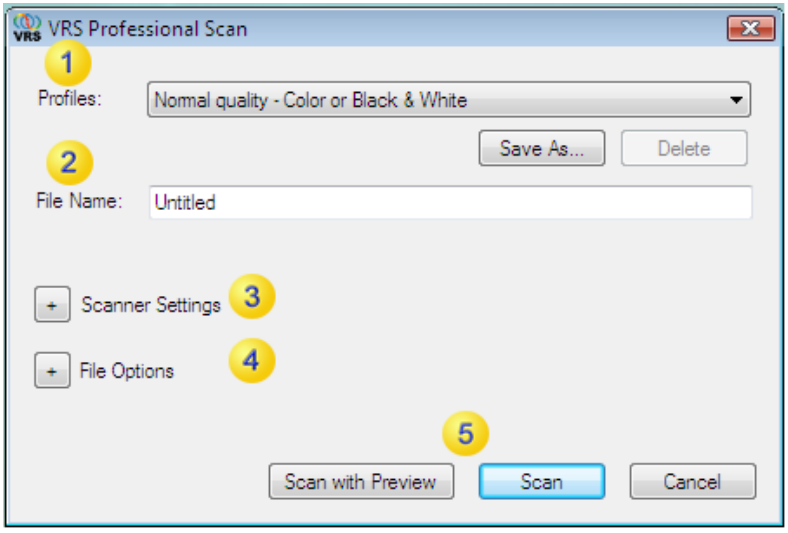


図 3-12 [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウ

1 **プロファイル :** スキャンするドキュメントの種類に合ったプロファイルを選択します。詳細は、106 ページの「VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル」を参照してください。

2 **ファイル名 :** スキャンしたドキュメントを保存する際のファイル名を入力します。表示されている名前を使用するか、他の名前を入力してください。表示されている名前は、最後にスキャンしたドキュメントに適用された名前です。詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

3 **スキャナ設定 :** [+] をクリックして、スキャナ設定リストを展開し表示します。

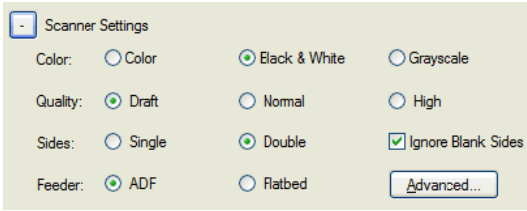


図 3-13 スキャナ設定

必要に応じて、スキャンするドキュメントに合わせて、次の設定を調整することができます。

- 画像タイプ : ドキュメントを保存する際のモードをカラー、白黒、またはグレースケールから選択します。
- 品質 : 解像度をドラフト (150 dpi)、標準 (200 dpi)、または高品質 (300 dpi) から選択します。
- 片面 / 両面 : ドキュメントの片面をスキャンする場合は [片面] を、両面をスキャンする場合は [両面] を選択します。
- 空白ページを無視 : 空白ページを保持する 場合はチェック ボックスをオンにします。自動で空白ページを削除する 場合はチェック ボックスをオフにします。
- フィーダー : 使用するフィーダーの種類を [ADF] または [フラットベッド] から選択します。

メモ デフォルトの設定を変更すると、現在のプロファイルに影響します。また、現在選択されているプロファイルの下にその旨が表示されます。スキャン オプションを選択すると、プロファイルを再度保存するように指示されます。

---

4 **ファイル オプション :** [+] をクリックしてファイル オプション リストを展開し表示します。ファイル オプションは、スキャンしたドキュメントの保存形式に影響します。

ファイル タイプ : スキャンしたドキュメントを保存する際のファイル タイプを PDF (デフォルト)、JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF、または複数ページの TIFF から選択します。デフォルトでは、デスクトップ プロダクティビティ プロファイルは、ドキュメントを PDF 形式で保存するように設定されています。

スキャンしたドキュメントは、ここで指定した形式で保存されます。PDF または複数ページの TIFF を選択すると、ドキュメントのページ数に関わらず、すべてのイメージが 1 つのファイルに保存されます。他のファイル タイプを選択すると、スキャンされたドキュメントのページごとに個別のファイルが生成されます。

ファイル名とファイル タイプについての詳細は、118 ページの「ファイル名の形式」を参照してください。

5 **プレビューしてスキャン / スキャン :** ドキュメントをスキャンした後に、[VRS サムネイル ビューア] で結果をプレビューしてから保存または添付する場合は、[プレビューしてスキャン] を選択します。ドキュメントをスキャンし、結果をプレビューしない場合は、[スキャン] をクリックします。

ファイル名の形式

VRS デスクトップ プロダクティビティ機能を使用してドキュメントをスキャンすると、デフォルトでは、" タイトルなし " という名前のファイルに保存されます。必要に応じて、ファイル名を変更することができます。電子メール アプリケーションでは、スキャンしたドキュメントを添付ファイルとして保存する際このファイル名が使用されます。Windows デスクトップまたは Windows エクスプローラでは、スキャンしたドキュメントを保存する際にこのファイル名が使用されます。

このファイル名は、基本ファイル名として使用されます。最初に VRS デスクトップ プロダクティビティのスキャン オプションを使用する場合、デフォルトの基本ファイル名である " タイトルなし " が使用されます。

その後のドキュメントには、タイトルなし _0001、タイトルなし _0002 というように、基本ファイル名の後に連番が追加されます。

必要に応じて、次の**いずれか**の方法でファイル名を変更できます。

- (利用可能な場合) 電子メール アプリケーションの [ファイル名] コンボ ボックスで別の名前を入力します。
- アドインの [設定] オプションを選択して、[VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウの [ファイル名] フィールドで別の名前を入力します。

更新するまで、現在のファイル名が使用されます。[ファイル名] のデフォルトは、最後に使用された名前です。

ファイル タイプ

VRS デスクトップ プロダクティビティのスキャン オプションを使用する場合、ドキュメントは [VRS プロフェッショナル スキャン] ウィンドウで指定されている形式で保存されます。デフォルトは PDF 形式です。PDF または複数ページの TIFF を選択すると、ドキュメント内のイメージの数に関わらず、すべてのイメージが 1 つのファイルに保存されます。他のファイル タイプ (JPEG、ビットマップ、PNG、単一ページの TIFF) を選択すると、スキャンされたドキュメント内の各イメージは、個別のファイルに保存されます。

スキャナ設定ユーティリティ

はじめに

Kofax スキャナ設定ユーティリティを使用して、スキャンおよびイメージ デバイス用のソースを作成し設定することができます。また、デフォルトの VRS スキャナも設定することができます。スキャナ設定ユーティリティは、Kofax VRS プログラム フォルダから利用できます。

スキャニング アプリケーションから、スキャン ソースを選択することで、スキャン セッション中に適切なドライバが使用されます。スキャニング アプリケーションで VRS を実行するには、VRS スキャン ソースを選択する必要があります。

VRS または Adrenaline SCSI スキャナ コントローラを使用する場合は、スキャナを選択すると、スキャニング アプリケーションでいくつかのスキャン ソースをすぐに利用できます。VRS Component Installer をインストールした場合も、スキャン ソースを利用できます。したがって、多くの場合、スキャナ設定ユーティリティを使用してスキャン ソースを作成する必要はありません。

次の状況のいずれかに該当するインストールの場合は、スキャナ設定ユーティリティを使用して、スキャン ソースを追加する必要があります。

- VRS と互換性はあるが、VRS の動作保証プロセスが行われていないスキャナを使用する場合。
- 互換性のあるスキャナで Kofax Adrenaline SCSI スキャナ コントローラ (VRS なしで) 使用しており、「<XYZ Scanner> without SVRS」という名前のデフォルト ソース以外にソースを作成したい場合。

スキャナ設定ユーティリティでは、次の操作ができます。

- スキャン ソースを作成し設定します。
- スキャナを選択して、デフォルトの VRS スキャナに設定します。
- スキャナを VRS のデフォルト設定に戻します。

- ソースのプロパティを設定します。
- インポートするソースを作成し、管理します。

メモ 以前のバージョンの VRS では、Kofax Source Manager (KSM) ユーティリティと Restore Default Values (RDV) ユーティリティを使用して、スキャン ソースを設定し、VRS のデフォルト設定を適用していました。VRS 4.2 で KSM を使用すると、自動的にスキャナ設定ユーティリティに変更されます。また、VRS 4.2 をインストールすると、RDV ユーティリティは自動的に削除されます。

スキャン ソースの設定 - クイック スタート

スキャナ設定ユーティリティでは、さまざまな方法でソースを作成し設定することができます。このセクションでは、最も簡単で一般的なスキャン ソースの設定方法について説明します。動作保証されていないスキャナまたは VRS と互換性のないスキャナのカスタム ソースを設定する場合は、122 ページの「スキャン ソースの設定 - カスタム」を参照してください。詳細は、スキャナ設定ユーティリティから [ヘルプ] をクリックしてください。

▶ スキャン ソースを設定するには

1. Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] ー [Kofax VRS] ー [スキャナ設定ユーティリティ] を選択します。[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスが表示されます (図 A-1)。

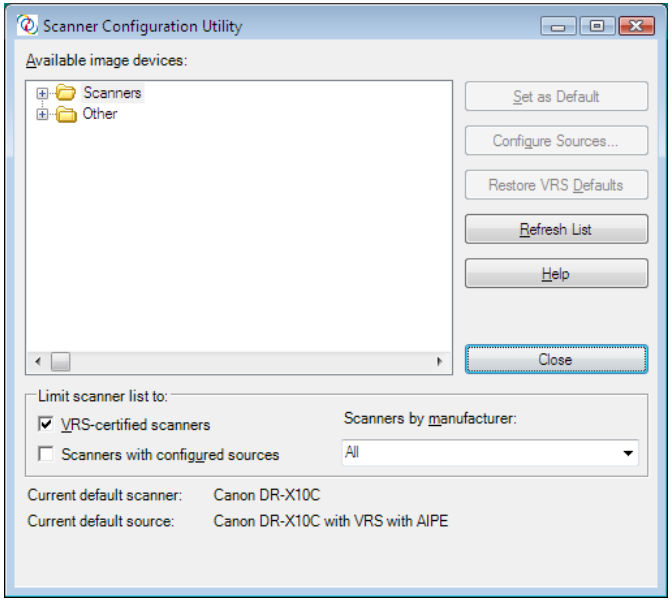


図 A-1 [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックス

2 [スキャナ] ノードを展開して、スキャナの製造元を参照します。

3 [製造元] ノードを展開して、スキャナのモデルを選択します (図 A-2)。

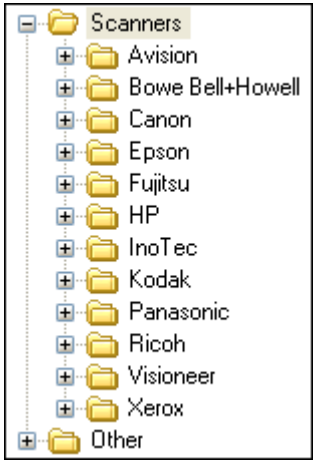


図 A-2 スキャナの製造元リスト

メモ スキャナの製造元リストには、VRS 動作保証スキャナとドライバがインストールされているスキャナが表示されます。

4 [デフォルトに設定] をクリックすると、次の処理が実行されます。

- 選択されたスキャナの標準ソースの作成 (ソースが存在しない場合)
- 選択されたスキャナをデフォルト スキャナに設定
- デフォルト スキャナのデフォルト ソースの設定 (デフォルト ソースは、現在有効なライセンスによって決まります)
- VRS ソフトウェアでデフォルト スキャナを使用する際に有効になるデフォルトのイメージ処理プロパティの設定

5 [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスの下部にある [現在のデフォルト スキャナ] と [現在のデフォルト ソース] が更新されます。

6 [閉じる] をクリックして、スキャナ設定ユーティリティを終了します。

新しく作成されたソースをスキャニング アプリケーションから利用できます。

スキャン ソースの設定 - カスタム

このセクションでは、[ソースの設定] ダイアログ ボックスを使用して、動作保証されていないスキャナまたは VRS と互換性のないスキャナのソースを設定する方法について説明します。これは、特殊な命名規則のカスタム ソースを使用するスキャニング アプリケーションで必要となります。

▶ スキャナのカスタム ソースを設定するには

1 必要なスキャナ ドライバがマシンにインストールされていることを確認します。

2 スキャナ設定ユーティリティを起動します。

3 [利用可能なイメージング デバイス] リストで [スキャナ] ノードを展開して、スキャナの製造元を参照します。

メモ スキャナの製造元リストには、VRS 動作保証スキャナとドライバがインストールされているスキャナが表示されます。

4 スキャナ モデルを選択し、[ソースの設定] をクリックします。タイトル バーにスキャナ名が示される [ソースの設定] ダイアログ ボックスが表示されます (図 A-3)。

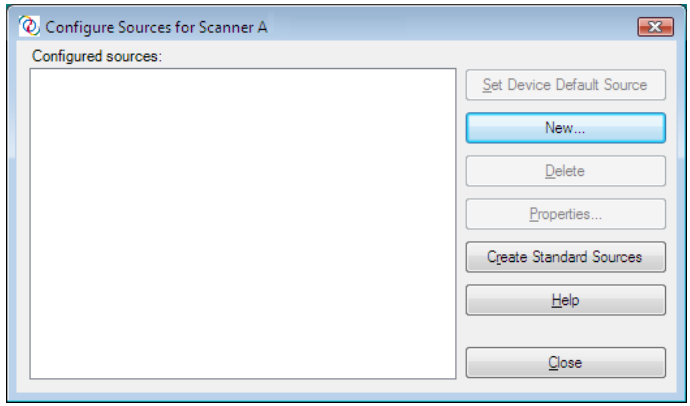


図 A-3 [ソースの設定] ダイアログ ボックス

5 [ソースの設定] ダイアログ ボックスで [新規] をクリックします。[ソースの作成] ダイアログ ボックスが表示されます (図 A-4)。

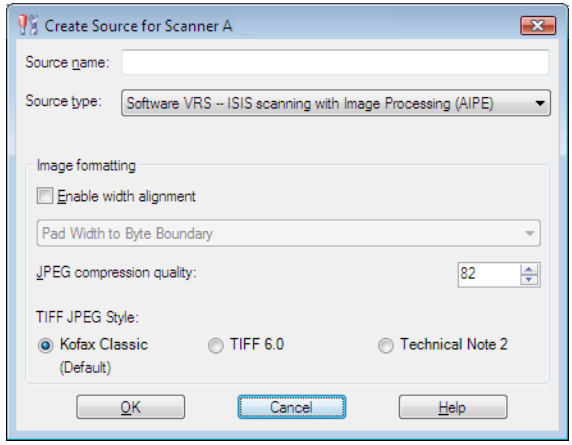


図 A-4 [ソースの作成] ダイアログ ボックス

6 ソース名 : スキャニング アプリケーションからスキャナまたはソース デバイスを参照する際に使用する名前を入力します。アプリケーションの命名規則に沿った名前を入力してください。通常、スキャナまたはソース デバイスの名前に、ソースの種類の説明を加えたものをソース名とします。例えば、“ スキャナ A ISIS” などです。この場合、“ スキャナ A” はスキャナの製造元とモデルを示します。

7 ソースの種類 : リストからソースの種類を選択します。リスト中のソースの種類は、スキャナをサポートしているドライバの種類 (ISIS、TWAIN、または Kofax) とスキャナで使用するソフトウェア (VRS、AIPE など) に対応しています。例えば、選択したスキャナに ISIS ドライバが関連付けられている場合、ISIS スキャニングに関連付けられているスキャン ソース (VRS ソースを含む) のみリストに表示されます。適切な種類を選択してください。詳細は、131 ページの「標準の VRS ソースの種類」を参照してください。

8 [イメージ設定] グループのオプションに関する情報は、ダイアログ ボックスから [ヘルプ] をクリックして参照してください。通常、Kofax テクニカル サポートから指示された場合を除き、これらの設定を使用する必要はありません。

9 [OK] をクリックして、[ソースの作成] ダイアログ ボックスを閉じます。

10 [ソースの設定] ダイアログ ボックスの [設定済みソース] リストに、追加したソースがデフォルト設定として表示されます。これで、新しく作成したソースをスキャニング アプリケーションから利用できます。

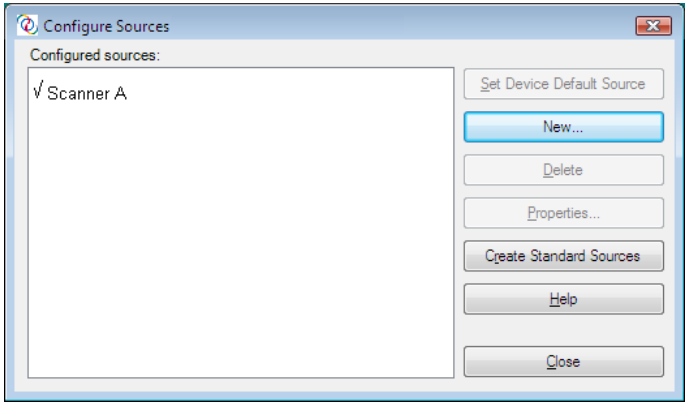


図 A-5 スキャナ設定ユーティリティ - 新しく追加されたソース

11 [閉じる] をクリックして、[ソースの設定] ダイアログ ボックスを閉じます。

メモ このダイアログ ボックスの他のオプションに関する詳細は、129 ページの「[ソースの設定] ダイアログ ボックスのオプション」を参照してください。

[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックス

このセクションでは、[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスのユーザー インターフェイスの概要について説明します。

スキャナ設定ユーティリティを起動すると、スキャナおよびファイル インポート デバイスを含む [利用可能なイメージング デバイス] リストが表示されます。スキャナ リストには、すべての VRS 動作保証スキャナとドライバがインストールされているスキャナがアルファベット順に表示されます。スキャナ リストでは、各スキャナ モデルの重要な情報を視覚的に識別できます。また、フィルタ オプションを使用して、リストに表示する項目を絞り込むこともできます。詳細は、125 ページの「アイコン」または 127 ページの「スキャナ リストのフィルタ オプション」を参照してください。

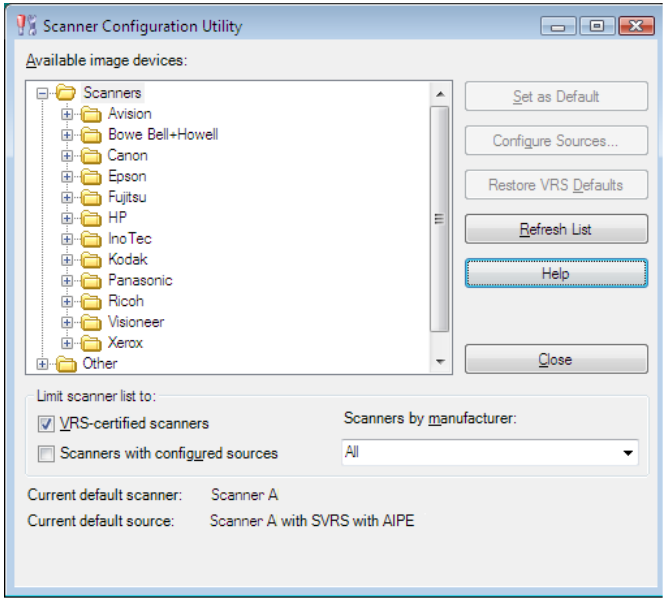


図 A-6 スキャナ設定ユーティリティ

アイコン

[スキャナ設定ユーティリティー] では、[利用可能なイメージング デバイス] リストの項目に関する重要な情報をアイコンで示します。リストに表示されるアイコンは次のとおりです。

- VRS アイコン : VRS 動作保証スキャナ

- 互換スキャナ アイコン: VRS で動作保証されていないスキャナ (互換性のあるスキャナとも呼ばれます)
- 赤い X マーク : マシン上にドライバが存在しないスキャナ
- チェック マーク : 現在デフォルトとして選択されているスキャナ
- CD: ファイル インポート デバイス

リストでスキャナ名の上にカーソルを置くと、利用可能なドライバの種類 (ISIS、TWAIN、または Kofax SCSI) が表示されます。

次の表は、[利用可能なイメージング デバイス] リストで使用されているそれぞれのアイコンについて説明します。

表 A-1 スキャナ設定ユーティリティ アイコン

アイコン	説明
	VRS 動作保証スキャナです。
	VRS 動作保証スキャナです。現在、デフォルトに選択されています。
	VRS 動作保証スキャナですが、マシン上にドライバが存在しません。
	VRS 動作保証スキャナです。現在デフォルトに選択されていますが、マシン上にドライバが存在しません。
	VRS 動作保証スキャナではありません。
	VRS 動作保証スキャナではありません。現在、デフォルトに選択されています。
	ディスクからファイルをインポートする際に使用されるデバイスです。

スキャナ リストのフィルタ オプション

次のいずれかのフィルタ オプションを使用して、[利用可能なイメージング デバイス] リストに表示するスキャナ リストを絞り込むことができます。

- VRS 動作保証スキャナ : VRS 動作保証スキャナのみ表示する場合に選択します。その他のスキャナは表示されません。このフィルタを選択しないと、VRS 動作保証スキャナとドライバがインストールされているスキャナが表示されます。
- ソース設定済みスキャナ: ソース設定済みスキャナのみ表示する場合に選択します。ソースが設定されていないスキャナは表示されません。

また、次の**いずれか**を指定して、スキャナ リストの表示設定を指定することもできます。

- すべて : すべての製造元のスキャナを表示する場合に選択します。
- 製造元 : 特定の製造元のスキャナのみ表示する場合に選択します。製造元を指定します。

メモ リストでスキャナ名の上にカーソルを置くと、利用可能なドライバの種類 (ISIS、TWAIN、または Kofax SCSI) が表示されます。

スキャナの製造元とフィルタ オプションを組み合わせて、表示設定を指定することもできます。例えば、特定の製造元のソース設定済み VRS 動作保証スキャナのみ表示することができます。

[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスのオプション

このセクションでは、[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスで選択可能なオプションについて説明します (図 A-7)。

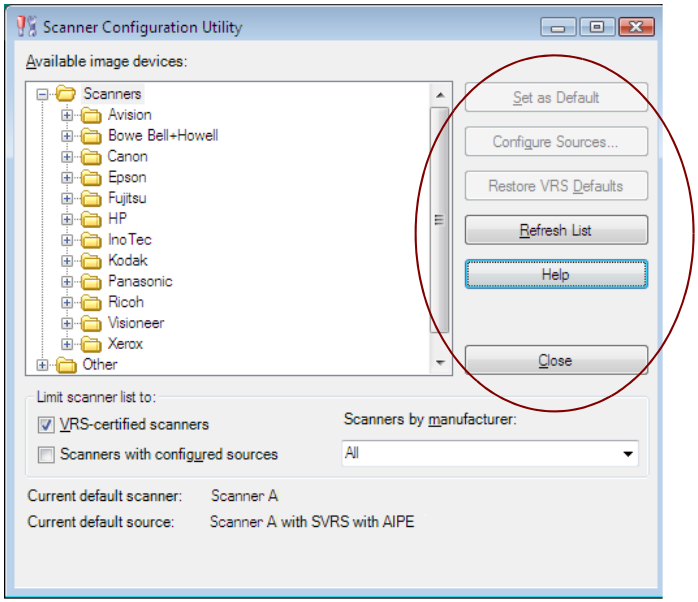


図 A-7 [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスのオプション

- デフォルトに設定 : 現在選択されている [利用可能なイメージング デバイス] リストにあるデバイスをデフォルトのデバイスとして設定します。このデバイスが、動作保証されたスキャナ、または互換性のある VRS スキャナであれば、適切なソースが自動的に作成され、設定されます (ソースが存在しない場合)。選択されている項目が、ファイル インポート デバイスの場合、デフォルトのソース “My Kofax File Import with AIPE” が作成されます。さらに、VRS のデフォルト設定が、選択されたスキャナのデフォルト プロファイルに保存されます。
- ソースの設定 : [ソースの設定] ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ ボックスは、[利用可能なイメージング デバイス] リストで現在選択されているデバイス用のソースを作成、設定、表示します。詳細は、122 ページの「スキャン ソースの設定 - カスタム」を参照してください。
- VRS のデフォルトに戻す : 選択したスキャナを VRS のデフォルト設定に戻し、デフォルトの VRS ソースに設定します。このオプションを選択する前に、指定されたデバイス用のソースは作成済みでなければなりません。詳細は、132 ページの「VRS のデフォルト設定の復元」を参照してください。
- リストを更新 : デバイスのリストを更新します。このオプションは、現在のセッション中、リストに影響する変更 (ドライバの追加、削除など) を行った場合に役立ちます。

- ヘルプ : [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスに関するオンライン ヘルプのトピックを表示します。
- 閉じる : スキャナ設定ユーティリティを終了します。

[ソースの設定] ダイアログ ボックスのオプション

前のセクションでは、標準の VRS ソースとカスタム ソースの作成について説明しました。ソースの種類に関係なく、[ソースの設定] ダイアログ ボックス (図 A-8) では、[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスの [利用可能なイメージング デバイス] リストで現在選択されているデバイスの設定済みソースのリストを表示できます。

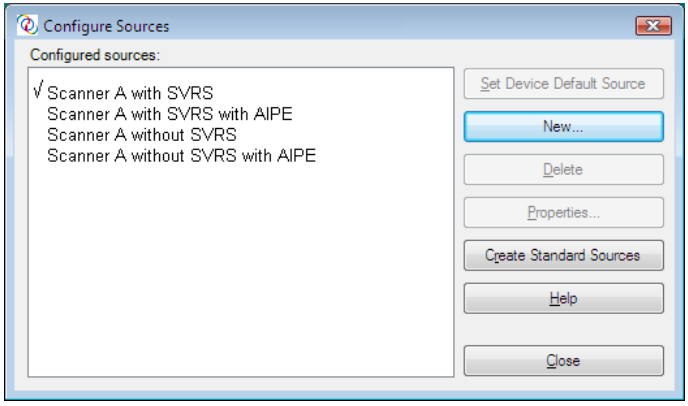


図 A-8 [ソースの設定] ダイアログ ボックスのオプション

[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスの [デフォルトに設定] オプションによってソースが作成された場合は、次のいずれかのオプションを使用する場合を除き、[ソースの設定] ダイアログ ボックスを使用する必要はありません。

- デフォルト ソースに設定 : [設定済みソース] リストのソースを、現在選択しているデバイスのデフォルト ソースに指定します。デバイスごとにデフォルトのソースがあります。各デバイスのデフォルト ソースは、現在のデフォルト デバイスのデフォルト ソースとは異なることがあります。
- 新規 : 新規ソースの追加に使用する [ソースの作成] ダイアログ ボックスを表示します。操作手順は、122 ページの「スキャン ソースの設定 - カスタム」を参照してください。
- 削除 : [設定済みソース] リストで現在選択されているソースを削除します。

- プロパティ : JPEG 圧縮などのオプションに関連付けられているイメージ処理プロパティを表示または更新します。通常、Kofax テクニカル サポートから指示された場合を除き、これらの設定を使用する必要はありません。
- スタンダード ソースの作成 : 選択されたデバイスの標準の VRS ソースを作成します。[スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスで [デフォルトに設定] オプションを選択して、標準の VRS ソースを作成することもできます。
- ヘルプ : [ソースの設定] ダイアログ ボックスに関するオンライン ヘルプのトピックを表示します。
- 閉じる : [ソースの設定] ダイアログ ボックスを閉じます。

VRS のデフォルト設定の復元

VRS デフォルト設定は、調整することなく、幅広いドキュメントとスキャナを処理することができるように選択されています。一意な VRS プロパティ設定は、各動作保証スキャナごとに利用可能で、スキャナを使用する際に有効になります。VRS を使用するにつれ、デフォルト設定が誤って変更されてしまうことがあります。スキャナ設定ユーティリティを使用して、選択したデバイスを元の VRS のデフォルト設定に戻し、デフォルトの VRS スキャナ ソースに設定することができます。

以前のバージョンの VRS では、Restore Default Values (RDV) ユーティリティを使用して、VRS のデフォルト設定にリセットしていましたが、RDV ユーティリティはなくなり、スキャナ設定ユーティリティのデフォルト設定の復元機能に代わりました。

以前のリリースにより RDV ユーティリティがインストールされている場合、Kofax Capture 8.0 または VRS 4.2 のインストール時に自動的に削除されます。

▶ VRS のデフォルト設定に戻すには

1. [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスの [利用可能なイメージング デバイス] リストで、VRS 用に設定したスキャナを参照します。
2. リストからスキャナを選択します。
3. [VRS のデフォルトに戻す] をクリックします。

   メモ VRS のデフォルト設定に戻す機能は、選択したスキャナ用のソースが設定されている場合にのみ利用可能です。

   [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスの下部にある [現在のデフォルト スキャナ] と [現在のデフォルト ソース] が更新されます。
4. [閉じる] をクリックして、スキャナ設定ユーティリティを終了します。

VRS を起動すると、VRS 調整コントロールのパネルが元の VRS のデフォルト設定に更新されます。

標準の VRS ソースの種類

このセクションでは、標準の VRS ソースの種類とソースの命名規則について示します。ソースの命名規則は、使用するデバイスの種類 (スキャナまたはファイル インポート) によって決まります。

ここで示すソースの種類は、動作保証されたスキャナまたは互換性のある VRS スキャナで利用することができます。スキャナのソースの種類は、それぞれのスキャナに対応するドライバ (ISIS、TWAIN、または Kofax) に依存します。また、大容量のスキャニング環境における AIPE (Adrenaline イメージ プロセス エンジン) や HVRS (ハードウェア VirtualReScan) への対応にも依存します。

表 A-2 ISIS 用のソースの種類

ソースの種類	ソースの命名規則
Software VRS - ISIS scanning with image processing (AIPE)	< スキャナの名前 > with SVRS with AIPE
Software VRS - ISIS scanning	< スキャナの名前 > with SVRS
ISIS scanning with image processing (AIPE)	< スキャナの名前 > without SVRS with AIPE
ISIS scanning	< スキャナの名前 > without SVRS

表 A-3 TWAIN 用のソースの種類

ソースの種類	ソースの命名規則
Software VRS - TWAIN scanning with image processing (AIPE)	< スキャナの名前 > with SVRS with AIPE
Software VRS - TWAIN scanning	< スキャナの名前 > with SVRS
TWAIN scanning with image processing (AIPE)	< スキャナの名前 > without SVRS with AIPE
TWAIN scanning	< スキャナの名前 > without SVRS

表 A-4 HVRS SCSI 用ソースの種類

ソースの種類	ソースの命名規則
Hardware VRS - SCSI scanning with image processing (AIPE)	< スキャナの名前 > with SVRS with AIPE
Hardware VRS - SCSI scanning	< スキャナの名前 > with SVRS

表 A-5 HVRS TWAIN 用ソースの種類

ソースの種類	ソースの命名規則
Hardware VRS - TWAIN scanning with image processing (AIPE)	< スキャナの名前 > with SVRS with AIPE
Hardware VRS - TWAIN scanning	< スキャナの名前 > with SVRS

表 A-6 ファイル インポート用のソースの種類

ソースの種類	ソースの命名規則
Kofax Software - Import from disk with image processing	My Kofax File Import with AIPE
Kofax Software - Import from disk without image processing	My Kofax File Import without AIPE

VRS のデフォルト設定の復元

VRS のデフォルト設定は、調整することなく、幅広いドキュメントを処理することができるように選択されています。VRS を使用するにつれ、デフォルト設定が誤って変更されてしまうことがあります。スキャナ設定ユーティリティを使用して、選択したデバイスを VRS のデフォルト設定に戻し、デフォルトの VRS スキャン ソースに設定することができます。

▶ VRS のデフォルト設定に戻すには

1. [スキャナ設定ユーティリティ] ダイアログ ボックスの [利用可能なイメージング デバイス] リストで、VRS 用に設定したスキャナを参照します。
2. リストからスキャナを選択します。

3 [VRS のデフォルトに戻す] をクリックします。

メモ VRS のデフォルト設定に戻す機能は、選択したスキャナ用のソースが設定されている場合にのみ利用可能です。

ダイアログ ボックスの下部にある [現在のデフォルト スキャナ] と [現在のデフォルト ソース] が更新されます。VRS を起動すると、VRS 調整コントロールのパネルも元の VRS のデフォルト設定に更新されます。

4 [閉じる] をクリックして、スキャナ設定ユーティリティを終了します。

長い用紙のサポート

はじめに

VRS は、いくつかのプロダクション スキャナで長い用紙のスキャンをサポートしています。この付録で説明されている手順に従って、長い用紙のサポートを有効にできます。

長い用紙のサポート

VRS を使用して、両面用紙を白黒の 300 DPI 以下でスキャンできます。長い用紙のサポートを有効にすると、イメージを回転できない場合があります。

▶ VRS で長い用紙をスキャンするには

1. スキャニング アプリケーションを起動して (この例では、VCDemo が使用されています)、[Source] - [Properties] を選択します。
2. [Scanner Properties] ダイアログ ボックスで [Continuous Sheet] を選択します。

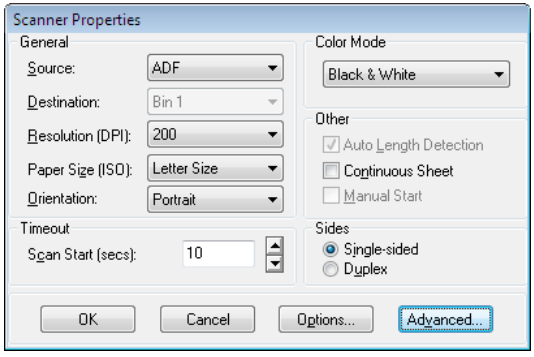


図 B-1 [Source Properties] ダイアログ ボックス

3 [OK] をクリックします。

これで、長い用紙をスキャンできます。

ハイレベル バーコード エンジン (Enhanced Bar Code Engine)

はじめに

Kofax の標準バーコード認識エンジンは、スキャニング アプリケーションで利用できます。VRS プロフェッショナル ワークグループまたは VRS プロフェッショナル プロダクト ライセンスをアクティベーションした場合、または Adrenaline 650i アダプタをインストールしている場合は、ハイレベル バーコード機能も利用できます。

メモ ハイレベル バーコード エンジンのライセンスも、Kofax Capture のライセンスで処理されることがあります。詳細は、Kofax Capture のドキュメントを参照してください。

この付録では、サポートされるバーコードの種類、標準バーコード エンジンとハイレベル バーコード エンジンの相違点、そしてこの 2 つのエンジンの切り替え方法について説明します。詳細は、140 ページの「[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスの使用」を参照してください。

標準バーコードと ハイレベル バーコード

Adrenaline イメージ プロセス エンジン 3.65 の使用で、バーコードのキャプチャと読み取り機能は、カラー技術を使用したアプリケーションで拡張されました。カラー イメージは、バーコードの解釈に必要な多くの情報を提供します。そのため、このハイレベル バーコード リーダーは、低い解像度や多様なレベルの画質でも、サポートされたすべてのバーコード タイプで、より正確に読み取ることができるようになりました。ハイレベル バーコードもまた、向上した複調認識機能に加え、グレースケール イメージも処理できます。さらに、二次元 (2D) バーコードもサポートします。

このダイアログ ボックスについては、140 ページの「[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスの使用」を参照してください。

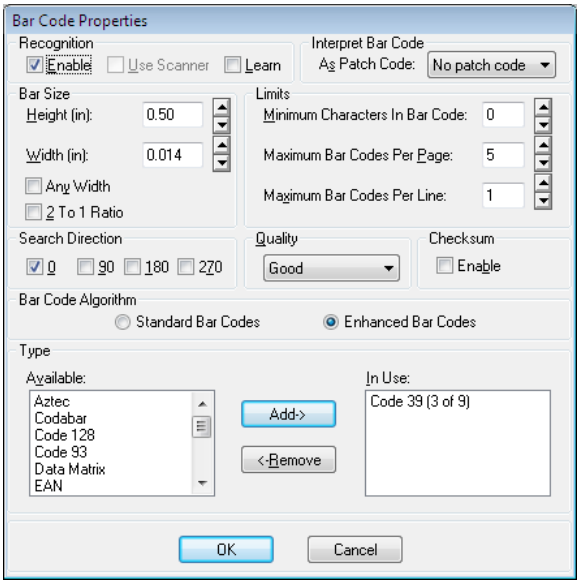


図 C-1 [Bar Code Properties] ダイアログ ボックス

ハイレベル バーコードでは、二次元バーコードの他に、向上した認識機能ですべての標準バーコード タイプをスキャンすることができます。ハイレベル バーコード エンジンがサポートするバーコードは次のとおりです。

- Aztec
- Codabar
- Code 128
- Code 39 (3 of 9)
- Code 93
- DataMatrix
- EAN
- Interleaved 2 of 5
- Maxi Code
- PDF 417
- Postnet
- QR
- UPC-A
- UPC-E

サポートする標準バーコードは、次のとおりです。

- Codabar
- Code 128
- Code 39 (3 of 9)
- Code 93
- EAN
- Interleaved 2 of 5
- Linear 2 of 5
- Postnet
- UPC-A
- UPC-E

バーコード エンジンの切り替え方法

Kofax のハイレベル バーコード認識エンジンは、標準バーコード認識エンジンを向上させたもので、処理速度は異なります。認識の質よりも、処理速度を重視する場合は、[Standard Bar Code] アルゴリズムを選択すると良いでしょう。スキャニング アプリケーションを再起動することなく、いつでも両アルゴリズムを切り替えることができます。

▶ アクティブなバーコード エンジンを切り替えるには

1. [Bar Code Properties] ダイアログ ボックスを開きます。
2. 次の**いずれか**を選択します。
   - Standard Bar Codes
   - Enhanced Bar Codes

   対応するバーコード タイプが選択できるようになります。
3. 適切なバーコード タイプを選択して、[Add] をクリックすると、[Available] リストから [In Use] リストに移動します。[Ctrl] キーを押したままの状態にすると、複数のバーコードを選択できます。
4. [OK] をクリックします。

メモ [Standard Bar Code] アルゴリズムに切り替えると、二次元バーコードはサポートされません。

[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスのアクセス

使用するスキャニング アプリケーションにより、[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスのアクセス方法は異なります。VCDemo デモ アプリケーションでは、[Imaging] メニューから [Bar Code Properties] ダイアログ ボックスを選択すると、スキャニング アプリケーションは、スキャン中に特定のバーコードを自動で認識します。

メモ VCDemo は、Kofax VRS プログラム フォルダから利用できます。

[Bar Code Properties] ダイアログでバーコードの処理方法をカスタマイズできます。バーコードが見つかると、アプリケーションはバーコードを検査し、選択された条件を満たすかどうかを判断します。条件を満たす場合、デコードされ、バーコード データは使用しているスキャニング アプリケーションに返されます。このバーコード データは、たとえば、インデックス作成やワークフロー操作、または在庫調査などに使用されます。

[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスの使用

このセクションでは、[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスのオプションについて説明します。

[Recognition] グループ

[Bar Code Properties] の [Recognition] グループは、バーコード認識を有効にしたり、スキャナ固有のバーコード認識 (該当する場合) を選択したり、またバーコード学習機能を有効にすることができます。

Enable

[Enable] チェック ボックスを選択すると、バーコード認識が有効になります。チェックを外すとバーコード認識が無効になります。

Use Scanner

[Use Scanner] オプションは、バーコード認識機能を持つスキャナ用です。

Learn

バーコードの [Learn] 機能は、イメージ上のバーコードに関連付けられる最も適切な値を自動で確定します。選択されたバーコード タイプと検索する向きを使用し、現在のイメージ上のバーコードを検出して、次の値を更新します。

- Height
- Width
- Ratio
- Quality

最良の結果を得るためには、実際にイメージ処理に使用されるものと同じスキャナおよびスキャナ設定を使ってバーコードを " 学習 " させる必要があります。また、学習機能を適切に動作させるためには、使用するバーコードのタイプを知っておく必要があります。

メモ 学習機能は、Postnet バーコードでは使用できません。また、学習モードは、一度に 1 つのバーコードでのみ動作します。一度の学習操作で複数のバーコードや複数のバーコード タイプを " 学習 " することはできません。

[Interpret Bar Code] グループ

[Interpret Bar Code] オプションで、バーコードをパッチ コードとして変換できます。リストからパッチ コードを選択するか、または [No Patch Code] を選択してこの機能を無効にします。

- Patch I
- Patch II
- Patch III
- Patch IV
- Patch T
- Patch VI

[Bar Size] グループ

[Bar Size] では、バーの高さと幅を入力するか、または選択できます。

Height

バーコードの高さとは、バーの上から下までの長さです。高さの最小値は 0.015 インチで、最大値は 1.25 インチです。バーコードの高さを入力するか、リストから選択します。

Width

バーの幅とは、バーコードの最も細いエレメントの物理的な幅です。0.010 インチから 0.050 インチの範囲で幅を入力するか、リストから選択します。

Any Width

バーの幅が不明の場合、このチェック ボックスを選択して、アプリケーションがバーコードを検索する際に自動的にバーの幅を決定できるようにします。

2 to 1 Ratio

バーコード タイプによっては、コードの最も細いエレメントと大きなエレメントの比率オプションをサポートしているものがあります。2 対 1 の比率では、最も大きなエレメントが最も細いエレメントの 2 倍です。たとえば、最も細いエレメントが 0.20 インチの場合、最も大きなエレメントは 0.40 インチです。

メモ 比率設定は、Codabar、Code 39、Code 93、Interleaved 2 of 5、および Linear 2 of 5 のバーコード タイプでのみ利用できます。

[Search Direction] グループ

アプリケーションは、バーコードの検索エリアから、バーコードを直線的（リニア）に検索します。たとえば、垂直なバーコードの場合は、イメージの上から下に検索します。イメージ上のバーコードは、4 方向の向きに配置することができます。検索する方向のチェック ボックス (0、90、180、270) を選択してください。

表 C-1 [Search Direction] オプション

向き	イメージ上の方向
0	0 度回転、あらゆる方向から読み取り
90	垂直、90 度回転、上から下に読み取り
180	水平、右に 180 度回転、右から左に読み取り
270	垂直、右に 270 度回転、下から上に読み取り

[Quality] グループ

バーコードの画質とは、イメージ上のバーコード エレメントの状態です。たとえば、黒のバーの輪郭が明確に描かれていて、イメージ上にほとんどノイズが存在しないなど、非常に良い状態であったり、また、黒のバーが薄く、バーコードの白い部分に

ノイズがあったりする場合があります。これらの要因は、アプリケーションによるバーコードの正確な読み取りに影響を及ぼすことがあるため、読み取るバーコードの画質を指定する必要があります。

- **Good** ― 輪郭がはっきりとしており、端が滑らかである。ノイズがない。
- **Normal** ― おおむね輪郭がはっきりとしているが、ノイズが多少あり、端が粗い。
- **Poor** ― 端が粗い、または読み取りに支障をきたすその他の特徴がある。

メモ 最適な結果を得るためには、デフォルト設定の "Good" を選択してください。

[Checksum] グループ

メモ Checksum 検証機能は、Code 39、Interleaved 2 of 5、Linear 2 of 5 のバーコード タイプでのみ利用できます。他のバーコード タイプでは、この機能は無視されます。

通常、バーコードの最後の文字である checksum 文字は、バーコードの妥当性を確認するのに役立ちます。[Checksum] グループの [Enable] チェック ボックスを選択すると、checksum 検証を実行します。

パッチ コード認識

はじめに

パッチ コードは、ドキュメントの区切り、スキャナの停止、またはスキャナ モードの変更に使用できます。パッチ コードとは、バーコードを示す黒い水平バーのパターンです。ワークグループ ライセンスかプロダクション ライセンスを持つ VRS は、ImageControls アプリケーションでパッチ コード認識をサポートします。また、Adrenaline 650i スキャナ コントローラを含む設定でも ImageControls アプリケーションでパッチ コード認識をサポートします。

[Patch Code Properties] ダイアログ ボックス (図 D-1) では、パッチ コードを有効 / 無効にしたり、パッチコードの場所を指定できます。VCDemo の場合、[Patch Code] ダイアログ ボックスは [Imaging] メニューからアクセスできます。他のパッチ コード オプションは、VCDemo の [File] メニューにある [Units] オプションから設定します。

メモ 動作保証されているスキャナを VRS で使用すると、[Stop On Patch Code] はグレー表示になります (図 D-1)。

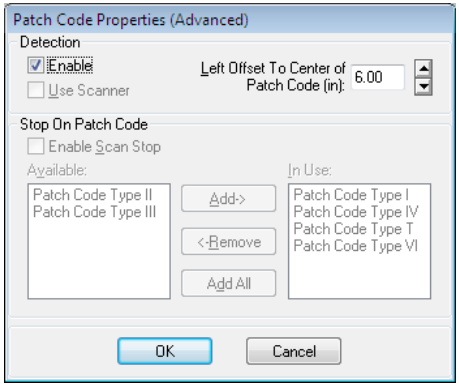


図 D-1 [Patch Code Properties (Advanced)] ダイアログ ボックス

[Patch Code Properties] ダイアログ ボックスの使用

パッチ コード検出を有効にするには、次のオプションを使用します。

Enable

パッチ コード検出機能を利用するには、[Enable] チェック ボックスを選択します。

Left Offset to Center of Patch Code

[Left Offset to Center of Patch Code] は、パッチ コードの中心に近いポイントを定義するページの左端からの値です。この値により、パッチ コード検出機能で、ページ上のパッチ コードの位置をすぐに特定することができます。このオフセットは、0 インチからページ幅までの値を設定できます。値を 0 に設定すると、パッチ コードを横方向で検索します。

すべてのパッチ コードは、次のような細いバーと太いバーで構成されます。

- 細いバーの高さは、0.08 インチでなければなりません。
- 太いバーの高さは、0.20 インチでなければなりません。
- パッチ コード全体の高さは、0.80 インチでなければなりません。
- パッチ コード全体の幅は、少なくとも 2.0 インチでなければなりません。

検出するためには、パッチ コードをページ上に正しく配置する必要があります。

- パッチ コードは、横向きでなくてはなりません。
- イメージの先端からは、少なくとも 0.20 インチ離れた場所に配置する必要があります。
- イメージの先端からは、3.75 インチよりも離れた場所に配置してはいけません。

両面スキャニング操作のパッチ コード仕様に準拠するため、パッチ コードは、ページの前面でのみ検出されます。そのため、ページの裏面のパッチ コードは無視されます。

メモ パッチ コードの代替として、バーコードを、バーコードとしてだけでなくパッチ コードとして解釈するように指定できます。これは、たとえば、各ドキュメントの最初のページにのみバーコードがある場合に役立ちます。[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスで、バーコードをパッチ コードとして設定します。詳細は、140 ページの「[Bar Code Properties] ダイアログ ボックスの使用」を参照してください。

詳細設定プロパティ

はじめに

この付録では、[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスについて説明します。このダイアログは、プレビュー モードで VRS インタラクティブ ビューアの [ツール] メニューから [スキャナ ドライバの設定] を選択してアクセスできます。

メモ [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスで利用できるオプションは、VRS 用に設定したスキャナにより異なります。

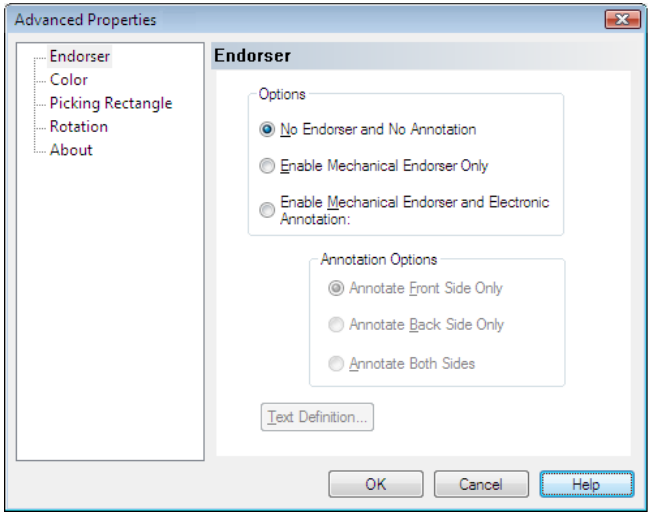


図 E-1 [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス

イメージが処理されると、VRS 調整コントロールのいくつかの設定が、[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの設定より優先して適用されます。イメージ処理は、次の順序で行われます。

1. [傾き] パネルの [傾き補正] 設定を適用します (有効な場合)。
2. [傾き] パネルの [自動クロップ] 設定を適用します (有効な場合)。
3. [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [四角形のピッキング] パネルの設定を適用します。
4. [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [回転] パネルの設定を適用します。

[エンドーサ] パネル

VRS は、基本的なエンドーサ機能およびアノテーションをサポートしています。エンドーサ機能が実装された VRS プロダクション ライセンス用のスキャナを使用する場合、[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [エンドーサ] パネルを使用してエンドーサ機能のプロパティを設定できます。[エンドーサ] パネルで、文字のプリフィックス (接頭辞) と数値カウンタの値から文字列を作成し、その作成した文字列を使用してページとイメージのエンドーサ / アノテーションを行うことができます。いったん、ページまたはイメージに追加されると、エンドーサおよびアノテーションの文字列は永続的に使用されます。

[エンドーサ] パネルは、オプションとアノテーション オプションという 2 つのグループで構成されています。オプション グループでは、次のオプションから選択できます。

- エンドーサ：オフ、アノテーション：オフ (デフォルト設定)
- エンドーサ：オン、アノテーション：オフ (機械的エンドーサのみ)
- エンドーサ：オン、アノテーション：オン (機械的エンドーサと電子アノテーション)

エンドーサおよびアノテーションが選択されていない場合は、スキャンされたページまたはイメージ結果に文字列は記載されません。[機械的エンドーサのみ有効にする] を選択すると、エンドーサ文字列はスキャンされたページ上に物理的に印字されますが、イメージ上には配置されません。[機械的エンドーサと電子アノテーションを有効にする] を選択すると、エンドーサ文字列がスキャンされたドキュメントとイメージ結果の両方に表示されます。

[機械的エンドーサと電子アノテーションを有効にする] オプションが選択されると、アノテーション オプション グループのオプションが有効になります。アノテーションは、ドキュメントの前面、裏面、または両面に付けることができますが、デフォルト設定では前面にのみ付けられます。

また、[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスでは、エンドーサ文字列の内容を設定 / 変更することができる [テキスト定義] オプションを利用することができます。[テキスト定義] ボタンは、エンドーサ、アノテーションが選択されない限り無効です。

[テキスト定義] ダイアログ ボックス

[機械的エンドーサのみ有効にする] または [機械的エンドーサと電子アノテーションを有効にする] のいずれかのオプションが有効な場合、[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [テキスト定義] ボタンを選択すると、[テキスト定義] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使用してエンドーサとアノテーション文字列をカスタマイズします。また、[テキスト定義] を使用してエンドーサ文字列の詳細を次のように指定できます。

- プリフィックス (文字列と日付の形式の選択)
- ページの上 / 左に配置する文字列の位置
- ページ カウンターの桁
- ページ カウンターの開始値
- ページ カウンターの間隔 (増減値)

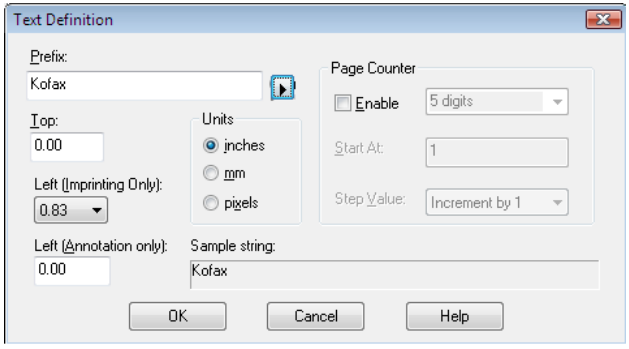


図 E-2 [テキスト定義] ダイアログ ボックス

プリフィックス

プリフィックスは、埋め込む他の文字列よりも先行するよう設定できる一連の文字列オプションです。通常、プリフィックスは文字列と日付で構成されます。[プリ

フィックス] ボックスに何も入力されない場合は、空白が返されます。文字列を作成する際には、表 E-1 の制限に注意してください。

表 E-1 プリフィックスに使用できる文字

スペース
0-9
% - _/\#.][()=+< > &
A-Z
a-z

アノテーションで使用する文字列や日付を手動で入力するか、または [プリフィックス] ドロップダウン リストから選択して、既定の情報をプリフィックス設定に挿入します。日付には、次の 表 E-2 で示す形式を選択できます。

表 E-2 日付の形式

日付の形式	例	日付の形式	例
YYYY-MM-DD	2008-07-07	MM.DD.YYYY	07.07.2008
DD-MMM-YY	07-JUL-08	MMM.DD, YY	JUL.07, 08
DD MMM YYYY	07 JUL 2008	YYYY	2008
MMM/DD/YYYY	JUL/07/2008	YY	08
MMM/DD/YY	JUL/07/08	MMM	JUL
MM/DD/YYYY	07/07/2008	MM	07
MM/DD/YY	07/07/08	DD	07
MMM DD, YYYY	JUL 07, 2008	YYDDD (ordinal)	08188

いったん設定されると、プリフィックスの内容は、バッチ内のエンドーサとアノテーションに同一のものが使用されます。カウンターが有効な場合は、プリフィックスの文字列 (ベース) の後に印刷されます。ただし、プリフィックスの文字数に制限があります (表 E-3)。可能な文字数はスキャナにより異なります。文字列の制限を越えると、制限を越えた分は切り捨てられ、警告音が鳴ります。

表 E-3 プリフィックスの最大文字数

ページ カウンター	Fujitsu *fi*-4990C	Fujitsu *fi*-4860C	Böwe Bell + Howell Spectrum シリーズ
カウンターなし	30 文字	40 文字	22 文字
5 桁のカウンター	25 文字 (カウンターは含みません)	35 文字 (カウンターは含みません)	NA
8 桁のカウンター	25 文字 (カウンターは含みません)	35 文字 (カウンターは含みません)	NA
1 桁から 10 桁のカウンター	NA	NA	22 文字

メモ エンドーサ / アノテーションの文字列は、文字のプリフィックスとカウンター (数字) で構成されるため、文字の長さを設定する場合は、統合した長さを考慮してください。

[プリフィックス] ボックスの直下には、[上] テキスト ボックスと [左] テキスト ボックスがあり、アノテーション文字列の縦と横の配置を指定できます。ユニット グループのオプションを使用して、テキストの配置をインチ、ミリメートル、またはピクセル (DPI に依存) で指定できます。デフォルトの単位はインチです。

[上] テキスト ボックスでは、エンドーサとアノテーション文字列を配置する各ページの上からの距離を指定できます。デフォルトと最小値は 0 ですが、最大値は用紙サイズにより異なります。ピクセルとミリメートルの単位で入力する場合は、整数でなければなりませんが、インチで指定する場合は、.01 単位で入力できます。

[左] ボックスでは、アノテーション文字列を配置するページの左端からの距離を指定できます。デフォルトと最小値は 0 ですが、エンドーサ文字列は、ページの上端から 20 mm 以内の位置には印刷されません。最大値は用紙サイズにより異なります。ピクセルとミリメートルが使用される場合は、整数でなければなりません。インチの場合は、.01 単位で入力できます。アノテーションが設定されない限り、[左] の編集ボックスは無効です (グレー表示)。

メモ すべてのスキャナでエンドーサ文字列の左と上の位置を指定できるわけではありません。詳細は、スキャナのドキュメントを参照してください。

[テキスト定義] ダイアログ ボックスの右側にある [ページ カウンター] グループのオプションは、ページ カウンターを有効にしたり、自動エンドーサ / アノテーション カウンターの開始数、使用する桁数、カウンターの増分の値を設定できます。

有効

[有効] チェック ボックスを選択すると、ページ カウンター機能が有効になります。[有効] チェック ボックスがオフの場合、他の [ページ カウンター] グループのすべてのオプションが無効になります。

桁

ページ カウンターの長さはドロップダウン リストで指定できます (ドロップダウン リストは、[有効] チェック ボックスが選択された場合にのみ利用できます)。利用できる値はスキャナとインストールされているエンドーサ ハードウェアにより異なります。表 E-4 は、スキャナごとの最大桁数のリストとカウンター値の結果です。リストには、ページ カウンターの長さで利用可能な値のみが含まれています。カウンター数を増やさない場合は [なし] を選択します。

表 E-4　スキャナごとの最大ページ カウント数

エンドーサ / ページ カウンター	Fujitsu *fi*-4990C	Fujitsu *fi*-4860C	Böwe Bell + Howell Spectrum
16 ビットのエンドーサ : 5 桁 (ドロップダウン リストは無効です)	65,535	65,535	NA
24 ビットのエンドーサ : 5 桁から 8 桁	それぞれ 99,999、16,777,215	それぞれ 99,999、16,777,215	NA
1 桁から 10 桁 : デフォルトは 5 桁	NA	NA	n 桁のページ カウンターは (10**n) − 1 ごとに回ります。

開始値

ページ カウンターの開始値は 1 に設定されていますが、[開始値] ボックスを使用して変更することができます。新しいバッチを開始すると、ページ カウンターの開始値は、前回のバッチの最終ページ カウンターに続く値になります。必要に応じて、新しい値を [開始値] ボックスに入力してください。

間隔

[間隔] ドロップダウン リストから、各ページで自動エンドーサ / アノテーション カウンターの増分方法を決定します。カウンターは、スキャンするドキュメント、バッチの構成、ユーザーのニーズを基に設定してください。次の間隔が、ドロップダウン リストから利用できます。

- 1 ずつ増加 (デフォルト)
- 2 ずつ増加
- 1 ずつ減少
- 2 ずつ減少

メモ 減少は、すべてのスキャナで利用できるわけではありません。

このダイアログ ボックスの他のオプション

[サンプル文字列] の右のテキストは、現在の埋め込みテキストの日付またはカウンターが、どのように表示されるかを示します。現在の日付が使用されます。

[色合い] パネル

VRS は、いくつかのスキャナで利用できる追加のカラー機能をサポートしています。これらの機能は、[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [色合い] パネルからアクセスできます。[色合い] パネルでは、色のドロップアウトおよび JPEG 圧縮などのカラーに関する機能の設定が可能です。[ドロップアウト カラー (前面)]、[ドロップアウト カラー (裏面)]、[JPEG 圧縮] の 3 つのグループから構成されています。

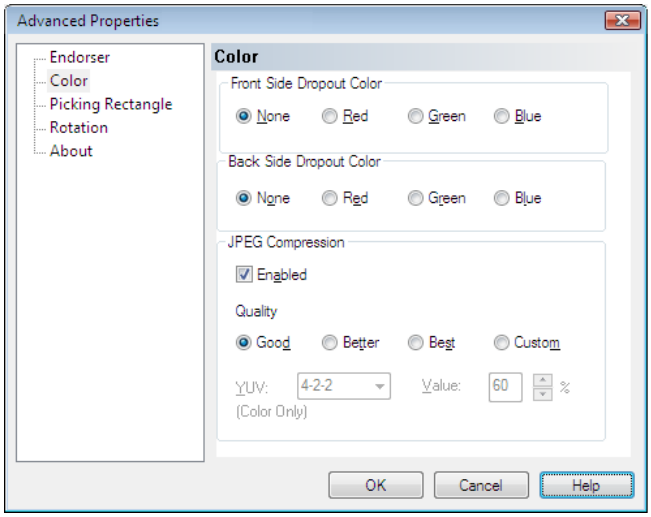


図 E-3 [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス – [色合い] パネル

場合によっては、OCR エンジンがデータにアクセスしやすいように、ドキュメントの背景色など、1 つの色をすべて除去するケースがあります。スキャン中、不要な色を " 消去 " する効果的な方法は、色のドロップアウトです。色の " ドロップアウト " を選択した場合、スキャナはその色を無視しますが、他の色はキャプチャします。

[ドロップアウト カラー (前面)] と [ドロップアウト カラー (裏面)] グループでは、[なし]、[赤]、[緑]、[青] のドロップアウト カラーを選択できます。デフォルトは [なし] です。スキャナが [両面] をサポートしている場合、前面と裏面で異なるドロップ アウト カラーを選択することができます。

メモ 片面のみをサポートするスキャナでは、裏面の色のドロップアウト オプションは無効です。

JPEG (Joint Photographic Expert Group) は、カラー イメージとグレースケール イメージの圧縮のために標準化されたイメージ形式です。[色合い] パネルの [JPEG 圧縮] グループにある [有効] チェック ボックスで JPEG 圧縮を有効にできます。[有効] チェック ボックスが選択されると、画質のレベルを、通常 (65)、良 (80)、最良 (95)、カスタムから選択できます。

カスタムの画質レベル オプションが選択されると、YUV 値とカスタム JPEG 圧縮値の両方を設定できます。カスタム値の範囲は 1 から 100 で、デフォルトは 65 です。一般的な例として、JPEG 圧縮値を 100 に設定すると、あまり圧縮されず、元のイ

メージと同じくらいのサイズになります。しかし、JPEG 圧縮値を 10 に設定すると、多くのデータを失うことになります。

カスタムの JPEG 圧縮値をテキスト ボックスに入力するか、上矢印と下矢印を使用して値を選択できます。カスタムの JPEG 圧縮値の結果は予測できないため、この設定は注意して使用してください。最適な圧縮値でより良いパフォーマンスと画質のバランスをとることが重要です。スキャンが速くなっても、必要なデータを失うような圧縮は避けてください。

必要な場合、輝度（フィールドとフレームの明るさ、すなわち "Y"）および色差（カラー情報、すなわち "UV"）を伴うカラー エンコード スキームである YUV をドロップダウン リストから選択できます。YUV の選択肢はスキャナにより異なります。[JPEG 圧縮] を有効にするチェック ボックスがチェックされていないと、[画質]、[YUV]、および画質の [値] の選択は無効になります。

[四角形のピッキング] パネル

[四角形のピッキング] パネルでは、不要な領域を効率的にクロップし、スキャンまたは処理するイメージを部分的に選択できます。この機能は、特定のスキャナでのみ利用できます。

[四角形のピッキング] パネルは、[前面] と [裏面] という 2 つのグループで構成されています。スキャナが、両面スキャンをサポートしている場合は、前面、裏面、または両面で四角形のピッキング設定を選択できます。片面スキャナの場合は、前面設定のみが有効で、裏面設定は無効になります。

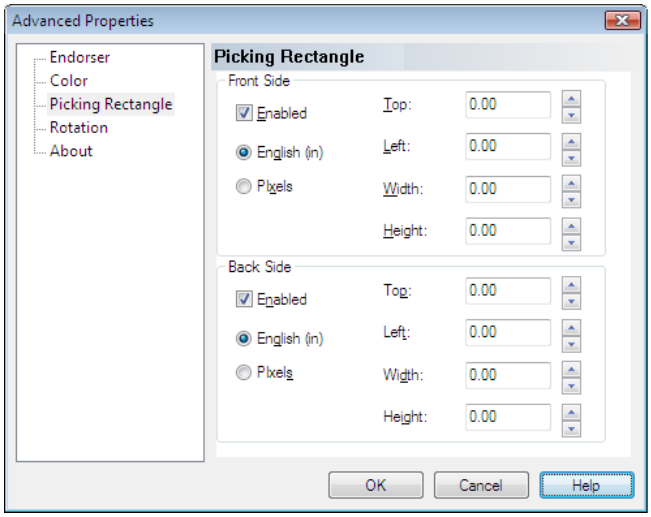


図 E-4 [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス – [四角形のピッキング] パネル

[四角形のピッキング] パネルでは、次の設定を有効にできます。

- 使用する単位 (インチまたはピクセル)
- ドキュメント上の四角形のピッキングの配置。ドキュメントの上端と左端 (オフセット) からの距離を上矢印と下矢印を使って設定するか、または [上] テキスト ボックスと [左] テキスト ボックスに入力します。
- 四角形のピッキングの幅と高さ。上矢印と下矢印を使って設定するか、またはテキスト ボックスに四角形のピッキングの値を入力します。

[回転] パネル

[回転] パネルは、[前面] と [裏面] のグループに分けられています。スキャナが両面スキャンをサポートしている場合、スキャン イメージの前面および裏面を 90 度、180 度、270 度に回転できます。0 を選択すると、回転しません。片面スキャナでは、前面のみ回転できます。

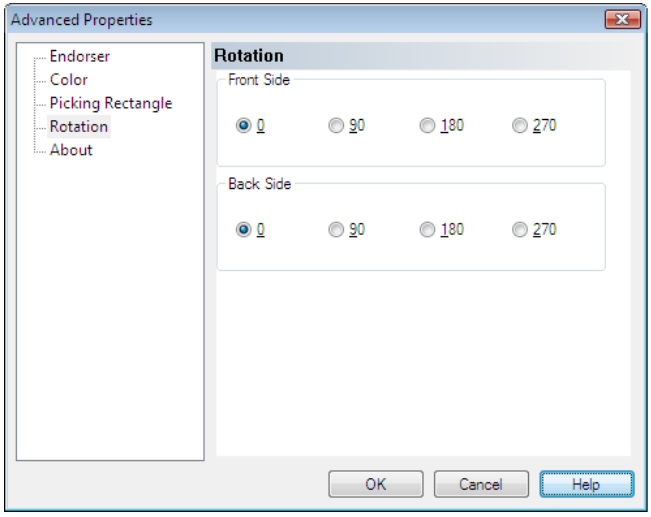


図 E-5 [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス - [回転] パネル

VRS インタラクティブ ビューアで表示されるイメージは、回転角度に加えて、[傾き] パネルで設定された角度で表示されます。さらに、ImageControls ベースのアプリケーションの回転は独立しており、[回転] パネルで設定された回転の後に実行されます。[回転] パネルの設定は、傾き補正、クロップおよび [四角形のピッキング] パネルの設定の後に適用されます。つまり、イメージ処理の順序は、次のとおりです。

- VRS の傾き補正 (有効な場合)
- VRS のクロップ (有効な場合)
- [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [四角形のピッキング] パネルの設定
- [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [回転] パネルの設定

メモ [回転] パネルのオプションは、VRS の [傾き] パネルにある [自動の向き] チェック ボックスを選択すると有効になる機能と競合します。最良の結果を得るには、[回転] パネルのオプションと [自動の向き] オプションを同時に選択しないでください。

[バージョン] パネル

[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックスの [バージョン] パネルは、テクニカル サポートに関する情報を提供します。スキャナのファームウェア情報、Enhanced Grayscale Adapter (EGSA) ファームウェア バージョンのほか、スキャナのエンドーサ機能がインストールされているか、エンドーサが 16 ビットまたは 24 ビット (該当する場合) かを示します。

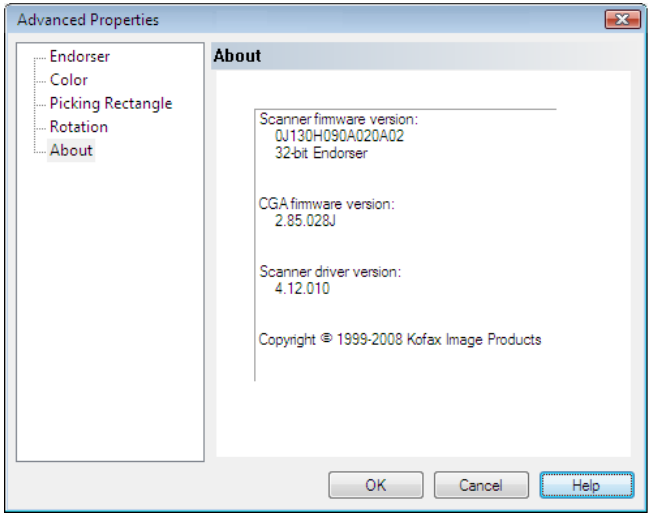


図 E-6 [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス – [バージョン] パネル

索引

A

Ascent Capture
  Kofax Capture を参照

B

[Bar Code Properties] ダイアログ ボックス , 138, 140

C

Checksum, 143
Codabar, 139
Code 128, 139
Code 39 (3 of 9), 139
Code 93, 139
Continuous Sheet 設定 , 135

E

EAN, 139
EGSA ファームウェア バージョン , 158

I

Interleaved 2 of 5, 139
[Interpret Bar Code] オプション , 141
ISIS, 15
  インターフェイス , 13

K

Kofax Capture (旧称 Ascent Capture), 4, 29
Kofax Demo ロゴ , 70
Kofax VRS スキャン インターフェイス , 10
Kofax VRS プログラム フォルダ , 74
Kofax スキャナ設定ユーティリティ , 119
Kofax の問い合わせ先情報 , 46

L

[Learn] オプション , 141
Linear 2 of 5, 139
Lotus Notes
  概要 , 91
  高速スキャン , 92
  設定 , 93
  プレビューしてスキャン , 92
  プロファイルを使用してスキャン , 96
Lotus Notes からのスキャン , 91

M

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP
  概要 , 84
  高速スキャン , 86
  設定 , 88
  プレビューしてスキャン , 86
  プロファイルを使用してスキャン , 88
Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP からのスキャン , 84
Microsoft Outlook 2007
  高速スキャン , 79
  設定 , 82
  プレビューしてスキャン , 81
Microsoft Outlook 2007 からのスキャン , 79

P

[Patch Code Properties] ダイアログ ボックス , 145
Postnet, 139

Q

QC モード , 29

S

[Scanner Properties] ダイアログ ボックス , 135

T

TWAIN
インターフェイス , 15
TWAIN 用のソースの種類 , 131

U

UPC-A, 139
UPC-E, 139

V

VCDemo, 76
VRS
自動画像処理 , 1
手動画像処理 , 1
設定 , 18
操作 , 7
デフォルト設定 , 1
ドキュメント セット , ix
プロフェッショナル機能 , 43, 46
VRS ISIS インターフェイス , 13
VRS TWAIN インターフェイス , 15
VRS インタラクティブ ビューア , 22, 25
VRS 管理ユーティリティ
[エラー] タブ , 19, 23
[警告] タブ , 19, 21
[高速スキャニング] タブ , 19, 25
VRS 基本ライセンスの登録
VRS の登録 , 75
VRS クイック スタート ガイド , 76
VRS サムネイル ビューア , 112
ツールバー , 115
メニュー バー , 113
[VRS スキャン] タブ
Microsoft Outlook 2007, 79
[VRS スキャン] メニュー
Microsoft Outlook 2003 または XP, 85
VRS 調整コントロール
[色] パネル , 62
[傾き] パネル , 58
[空白ページ] パネル , 66
[鮮明度] パネル , 50
[ノイズ] パネル , 56
[背景] パネル , 64
VRS デスクトップ プロダクティビティ アドイン マネージャ , 75, 78
VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル , 106
更新 , 109
削除 , 111
作成 , 108
変更 , 110
VRS デスクトップ プロダクティビティ プロファイル設定 , 107
VRS の [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス
[色合い] パネル , 153
[エンドーサ] パネル , 148
[回転] パネル , 156
[バージョン] パネル , 158
VRS の [詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス
[四角形のピッキング] パネル , 155
VRS のアクティベーション , 74
VRS のアクティベーション解除 , 75
VRS の設定 , 18
VRS の操作 , 7
VRS の登録 , 75
VRS プロフェッショナル スキャン , 116
VRS プロフェッショナル ライセンスのアクティベーション , 74
VRS プロフェッショナル機能
Kofax Demo ロゴ , 70
VRS ワークフロー ダイアグラム , 2

W

Windows エクスプローラ
概要 , 101
高速スキャン , 102
設定 , 103
プレビューしてスキャン , 102
プロファイルを使用してスキャン , 105
Windows エクスプローラからのスキャン , 101
Windows デスクトップ
概要 , 96
高速スキャン , 97
設定 , 98
プレビューしてスキャン , 97
プロファイルを使用してスキャン , 101
Windows デスクトップからのスキャン , 96

あ

明るさ , 51
[明るさ] と [コントラスト] カスタム コントロール , 52
明るさの許容範囲外警告 , 21
アップデートの確認 , 75
アドイン マネージャ , 75, 78
後で KC の品質管理で行う , 4, 29
アノテーション , 148
アノテーション文字列
　カスタマイズ , 149

い

今すぐアップグレード , 75
今すぐ購入 , 75
イメージのステータス情報 , 37
イメージのプレビュー , 36
イメージの分析情報 , 37
[色] パネル
　色の検出感度 , 62
　出力形式 , 62
　小さい色領域 , 62
　背景色の検出 , 62
色の検出感度 , 63
色の検出、自動 , 62
色の自動検出 , 62
色の信頼度の許容範囲外警告 , 21
色のドロップアウト , 154
色領域の検出感度 , 63
インストール ガイド , ix
インターフェイス
　ISIS, 13
　TWAIN, 15
　スキャン , 10
[インタラクティブ] 動作 , 22, 25

え

エッジ クリーン , 58
エッジ検出 , 51
エラー タイプ , 23, 150
　カバー オープン , 24
　紙詰まり , 24
　自動傾き補正の失敗 , 24
　自動クロップ失敗 , 24
　スキャナ オフライン , 24
　スキャナ ページ センサー , 24
　スキャナ停止キー , 24
　フィーダー タイムアウト , 24
　マルチフィード , 24
　用紙切れ , 24
[エラー] タブ , 19, 23
[エラーを返す] 動作 , 21, 24
[エラーを無視] 動作 , 21, 24
エンドーサ , 148
エンドーサ文字列
　カスタマイズ , 149

お

オンライン ヘルプ , ix, 46

か

回転 , 156
[傾き] パネル
　エッジ クリーン , 58
　角度の微調整 , 58
　傾き補正 , 58
　自動クロップ , 58
　自動の向き , 58
傾き補正 , 58
カバー オープン エラー , 24
紙詰まりエラー , 24
管理ユーティリティ , 19

く

クイック スタート ガイド , 76
[空白ページ] パネル
　空白ページの検出 , 66
　検出感度 , 66
　パンチ穴を無視する , 66

け

[警告] タブ , 19, 21
警告タイプ , 21
　明るさの許容範囲外 , 21
　色の信頼度の許容範囲外 , 21
　コントラストの許容範囲外 , 21
検出感度 , 69

こ

高速スキャン
　Lotus Notes, 92

Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP, 86
Microsoft Outlook 2007, 80
Windows エクスプローラ , 102
Windows デスクトップ , 97
[高速スキャニング] タブ , 19, 25
互換性のあるスキャナ , 4, 119
コントラスト , 51
コントラストの許容範囲外警告 , 21

さ

サポート オプション , x
サムネイル ビューア , 112
ツールバー , 115
メニュー バー , 113

し

四角形のピッキング , 155
自動明るさ調整 , 51
自動画像処理 , 1
自動傾き補正の失敗エラー , 24
自動クロップ , 58
自動クロップ失敗エラー , 24
[自動修正] 動作 , 25
自動修正マネージャ , 73
自動の向き , 60
出力形式
色の自動検出 , 63
手動画像処理 , 1, 51
詳細機能 , 46, 48, 72
[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス
[色合い] パネル , 153
[エンドーサ] パネル , 148
[回転] パネル , 156
[四角形のピッキング] パネル , 155
[バージョン] パネル , 158
白を優先 , 66

す

ズーム ツール , 47
[ズーム] メニュー , 44
スキャナ
互換性 , 4
動作保証あり , 4
動作保証なし , 4
ドライバ バージョン , 158
スキャナ オフライン エラー , 24
[スキャナ ドライバ設定] ツール , 48
スキャナ ページ センサー エラー , 24
スキャナ設定ユーティリティ , 76, 119
スキャナ停止キー エラー , 24
スキャナの設定 , 76
スキャン インターフェイス , 10
スキャン プロファイル設定 , 107
ステータス情報 , 37

せ

製品アップデート , 75
製品アップデートのダウンロード , 75
設定
Lotus Notes, 93
Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP, 88
Microsoft Outlook 2007, 82
Windows エクスプローラ , 103
Windows デスクトップ , 98
[鮮明度] パネル
明るさ , 50
エッジ検出 , 51
ガンマ , 50
コントラスト , 50
自動明るさ調整 , 51
鮮明度の詳細設定 , 50
鮮明度の詳細設定 , 53
鮮明度、詳細設定 , 53

そ

操作モード , 29
ソースの種類リスト , 131

た

ダイアログ ボックス], 147

ち

小さい色領域の検出 , 63

つ

[ツール] メニュー
スキャナ ドライバ設定 , 45
プロフェッショナル機能デモを有効にする , 45

て

[テキスト定義] ダイアログ ボックス , 149
テクニカル サポート , x
デスクトップ プロダクティビティ アドイン , 78
デスクトップ プロダクティビティ プロファイル , 106
  更新 , 109
  削除 , 111
  作成 , 108
  変更 , 110
デスクトップ プロダクティビティ機能 , 77
デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション , 75, 78
デスクトップ プロダクティビティ機能のアクティベーション解除 , 75, 78
デスクトップ プロダクティビティのスキャン プロファイル , 106
デフォルト スキャナ , 76
デフォルト プロファイル , 31, 49
デフォルト設定 , 1
  管理ユーティリティ , 19

と

動作タイプ , 21, 24
  インタラクティブ , 22, 25
  エラーを返す , 21, 24
  エラーを無視 , 21, 24
  自動修正 , 25
動作保証されたスキャナ , 4
動作保証されていないスキャナ , 4
ドキュメント , ix
ドロップアウト カラー , 154

な

長い用紙のサポート , 135

の

[ノイズ] パネル , 56
  パンチ穴を埋める , 57
  斑点除去 , 57
  ライン フィルタ , 57

は

バーコード
  検索の向き , 142
  ハイレベル バーコード エンジン , 138
  標準とハイレベル , 137
  標準バーコード エンジン , 139
バーコード アルゴリズム , 139
バーコード エンジン , 139
バーコード エンジン、ハイレベル , 137
バーコード プロパティ
  Codabar, 142
  検索属性 , 142
  バーコードの解釈 , 141
  バーのサイズ , 141
バーコード認識 , 140
  Checksum, 143
  Code 39, 142
  Code 93, 142
  Interleaved 2 of 5, 142
  学習 , 141
  画質 , 142
  検索の向き , 142
バージョン情報 , 46
[バージョン情報] ダイアログ ボックス , 46
[ハードウェア警告] オプション , 29, 30
[背景] パネル
  白を優先 , 64
  スムージング , 64
  背景色 , 64
  背景色の感度 , 64
背景色の感度 , 66
背景色の検出 , 62
背景のスムージング , 65
ハイレベル バーコード エンジン (Enhanced Bar Code Engine), 137
パッチ コード
  left offset to center, 146
パッチ コード認識 , 141
パンチ穴を埋める , 57
パンチ穴を無視する , 69
斑点除去フィルタ , 57

ひ

標準バーコードとハイレベル バーコード , 137

ふ

ファームウェア バージョン , 158
ファイル インポート用のソースの種類 , 131
ファイル タイプ

デスクトップ プロダクティビティ , 118
ファイル名
デスクトップ プロダクティビティ , 118
フィーダー タイムアウト エラー , 24
不要な領域のクロップ , 155
プレビューしてスキャン
Lotus Notes, 92
Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP, 86
Microsoft Outlook 2007, 81
Windows エクスプローラ , 102
Windows デスクトップ , 97
プロファイル , 30, 45
VRS デスクトップ プロダクティビティ , 106
アクティブなプロファイルの変更 , 34, 110
更新 , 35
削除 , 36, 111
作成 , 31
デスクトップ プロダクティビティ用の更新 , 109
デスクトップ プロダクティビティ用の作成 , 108
命名 , 31
命名規則 , 32, 109
[プロファイル] メニュー , 45
プロファイル設定、デスクトップ プロダクティビティ , 107
[プロファイルの編集] ダイアログ ボックス , 33
プロファイルの命名 , 31, 108
プロファイルを使用してスキャン
Lotus Notes, 96
Microsoft Outlook 2003 または Outlook XP, 88
Windows エクスプローラ , 105
Windows デスクトップ , 101
プロフェッショナル機能デモ , 43, 46, 70
分析情報 , 37

へ

ページ カウンター , 149
ページ カウント , 152
ヘルプ、オンライン , ix, 46

ま

マルチフィード エラー , 24

ゆ

ユーザーズ ガイド , 46

よ

用紙切れエラー , 24

ら

ライセンス情報 , 46
ライセンスのアクティベーション , 74
ライセンスのアクティベーション解除 , 75
ライセンスのアップグレード , 75
ライセンスの登録 , 75
ライン フィルタ , 57

り

リリース ノート , ix

ん

[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス , 147
[色合い] パネル
[詳細設定プロパティ] ダイアログ ボックス , 153